Ⅳ　質問紙調査の状況

・「○」と「■」は児童生徒質問紙調査、「□」は学校質問紙調査を表す。
・「肯定群」は、選択肢の「している・どちらかといえば、している」や「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」など、肯定的な選択肢を選択している場合を表す。
・「否定群」は、選択肢の「あまりしていない・全くしていない」や「どちらかといえば、当てはまらない・当てはまらない」など否定的な選択肢を選択している場合を表す。

１　基本的生活習慣に関する内容

（１）調査結果

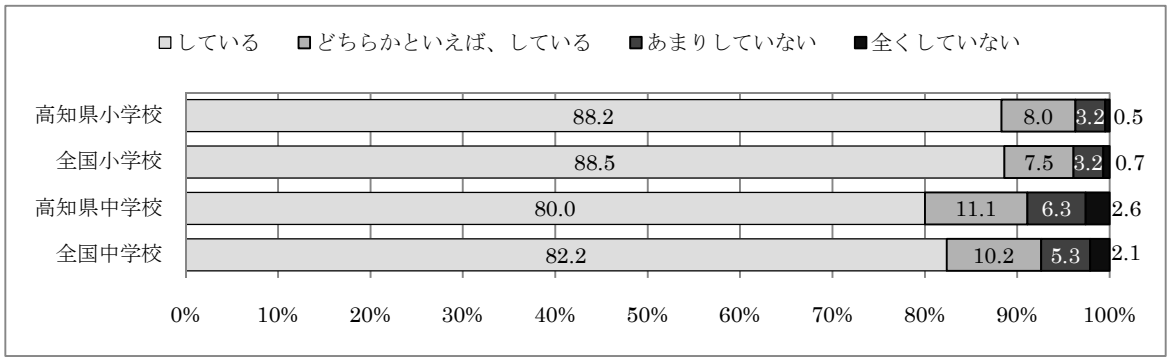
①　朝食

○　朝食を毎日食べていますかに対する「している」小学生は８８．２%で、全国とほぼ同じであり、本県の２０年度に比べ２．６ポイント向上している。

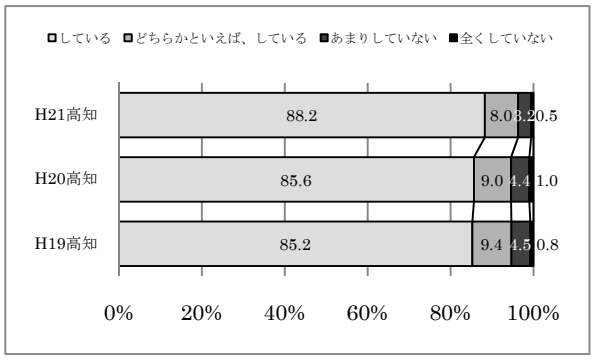
○　朝食を毎日食べていますかに対する「している」中学生は８０．０%で、全国より２．２ポイント少なく、否定群は８．９%で全国を１．５ポイント上回っている。中学生は２０年度と比べ、大きな変化は見られない。

○　朝食を食べている小・中学生ほど正答率が高い傾向が見られる。

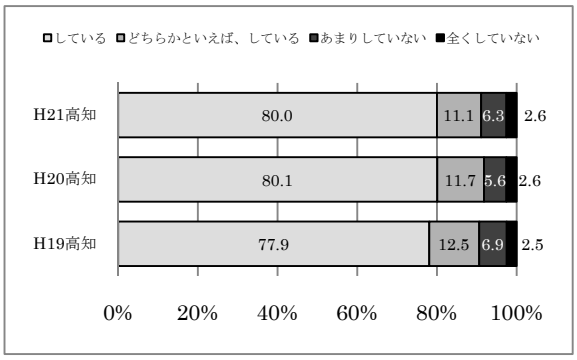
■　朝食を毎日食べていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問１］



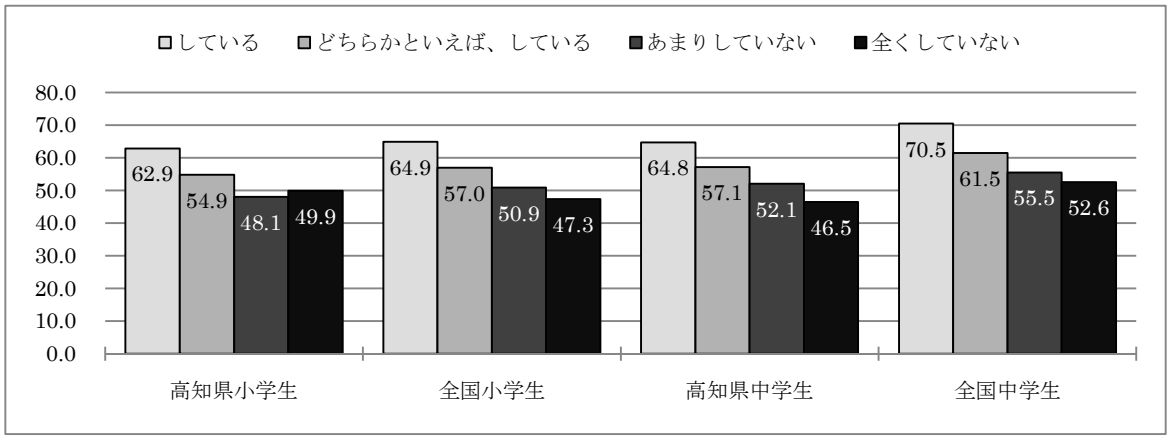
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞

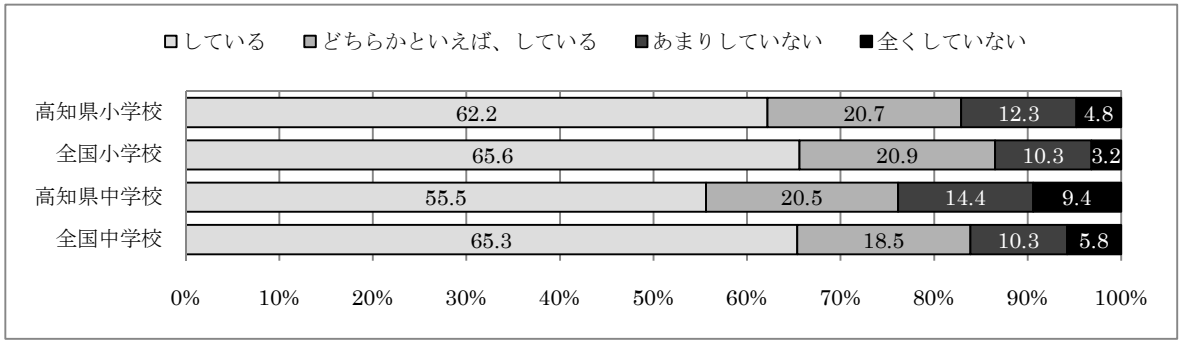


②　学校に持って行くものを確かめる

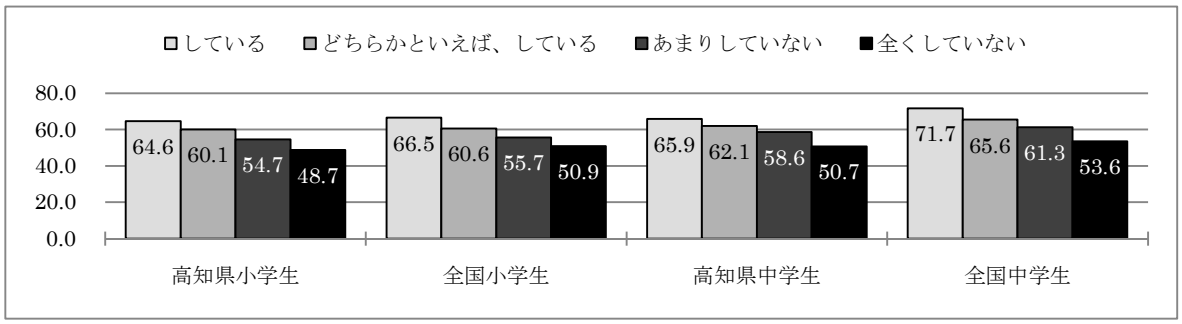
○　学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめているに対する肯定群の小学生は８２．９%で全国より３．６ポイント下回り、中学生は、７６．０%で、全国より７．８ポイント下回っている。

○　学校に持って行くものを確かめている小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

■　学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２］



＜平均正答率との相関関係＞



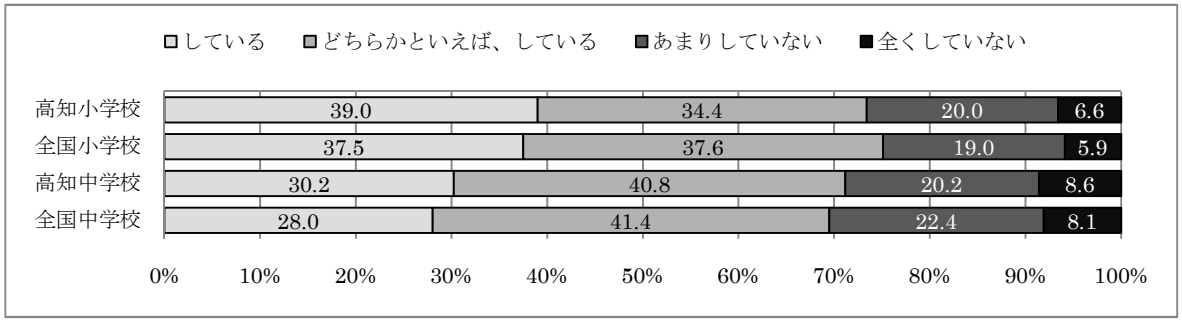
③　就寝時間・起床時間

○　毎日、同じくらいの時刻に寝ているに対する肯定群の小学生は７３．４%、中学生は７１．０%で、小・中学生とも全国とほぼ同じであり、１９年度から増加傾向にある。

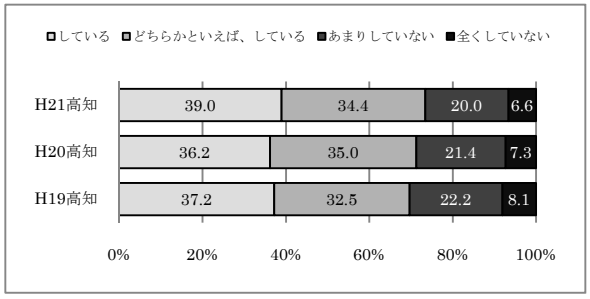
○　毎日、同じくらいの時刻に起きているに対する肯定群の小学生は８８．７%、中学生は９０．６%で、小・中学生とも全国とほぼ同じであり、１９年度に比べ増加している。

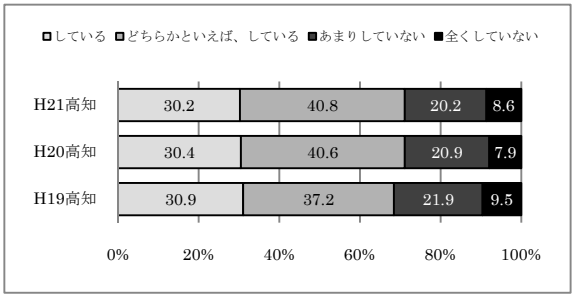
○　毎日、同じくらいの時間に寝たり起きたりしている小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

■毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３］

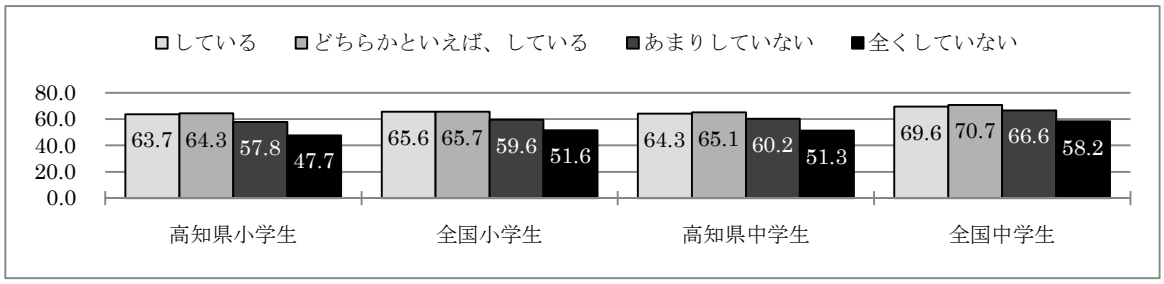


（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】

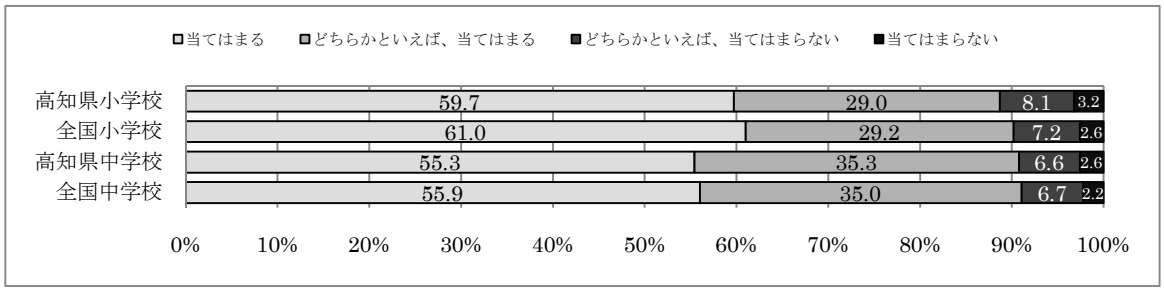




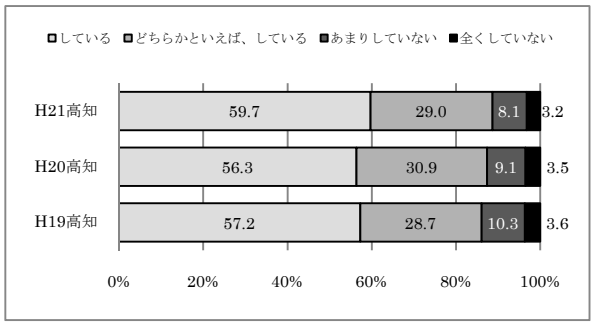
＜平均正答率との相関関係＞

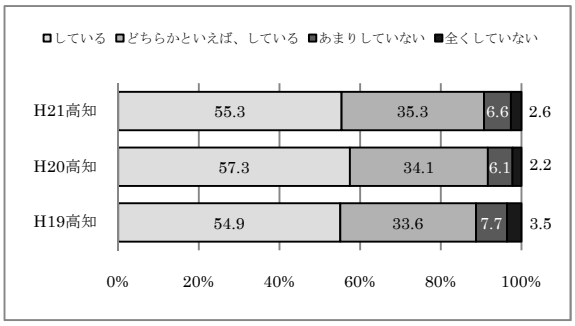


■毎日、同じくらいの時刻に起きていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４］

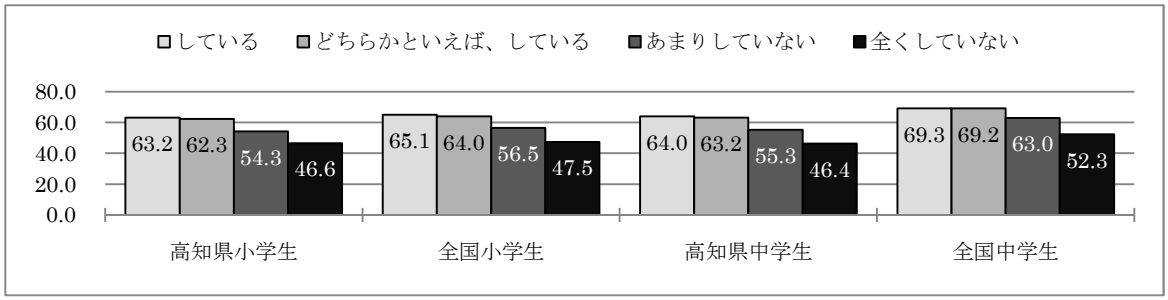


（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





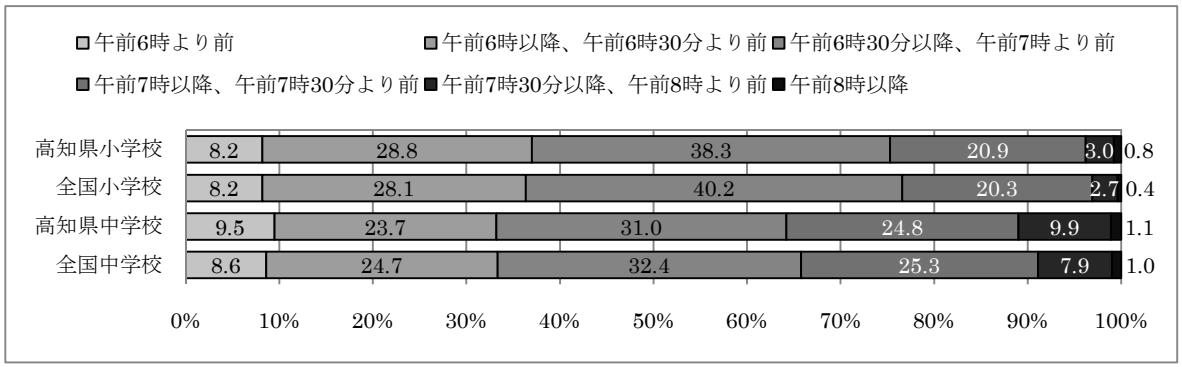
＜平均正答率との相関関係＞



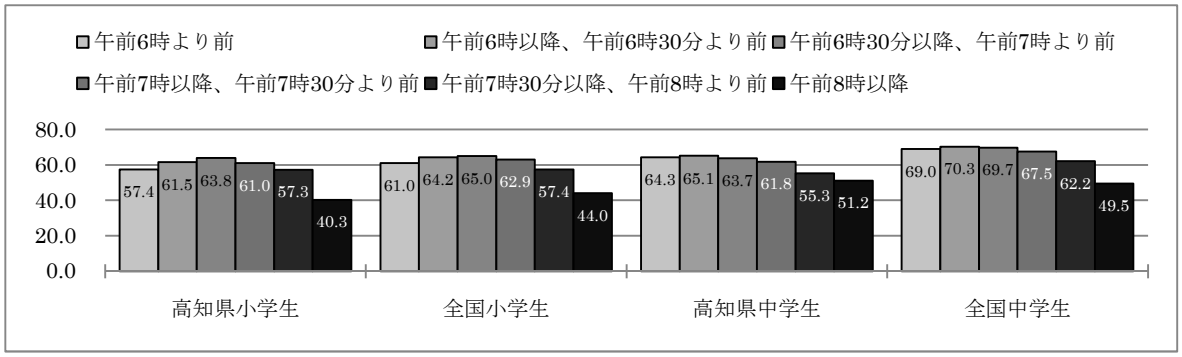
④　起床時間

○　普段（月～金曜日）の起床時間の小学生の傾向は、全国とほぼ同じである。
○　中学生は、午前６時３０分までに起床する割合は全国とほぼ同じであるが、午前７時３０分以降に起床する割合は全国より２．１ポイント上回り、起床時間が遅い傾向が見られる。
○　午前７時までに起きる小学生は７５．３％、中学生は６４．２％で、中学生は小学生より１１．１ポイント下回り、小学生よりも中学生の方が、起床時間が遅い傾向が見られる。
○　小・中学生とも、１９・２０年度と比べ、大きな変化は見られない。
○　午前７時３０分以降に起床する小・中学生から正答率がやや低くなり、午前８時以降に起床する小・中学生の正答率は極端に低くなる傾向が見られる。

■普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか　　［児童生徒質問紙調査　質問９］



＜平均正答率との相関関係＞

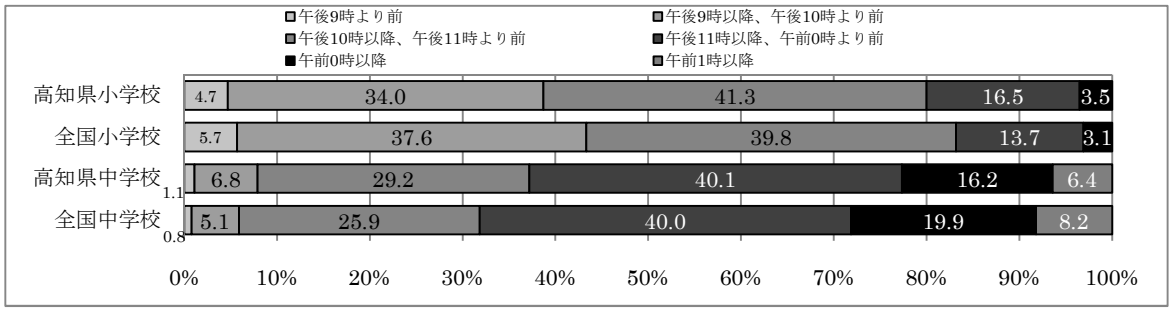


⑤　就寝時間

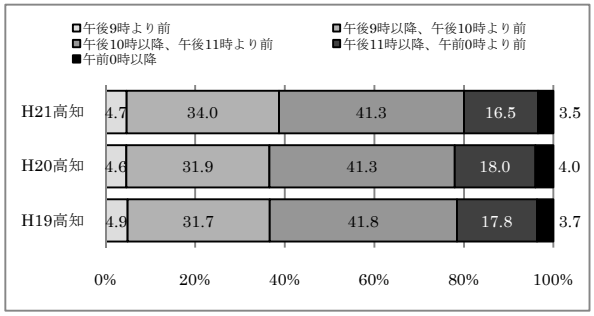
○　普段（月曜日から金曜日）、午後１１時以降に就寝する小学生は２０％で、全国より３．２ポイント上回っているが、本県の２０年度に比べ、２ポイント減少している。午前０時以降に就寝する中学生は２２．６％で、全国より５．５ポイント下回り、本県の２０年度に比べ、１．９ポイント下回っている。

○　午後９時までに就寝する、あるいは、午前０時以降に就寝する小・中学生に、正答率が低い傾向が見られる。

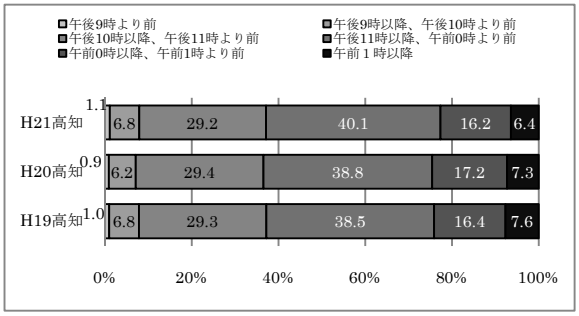
■　普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか　　［児童生徒質問紙調査　質問１０］



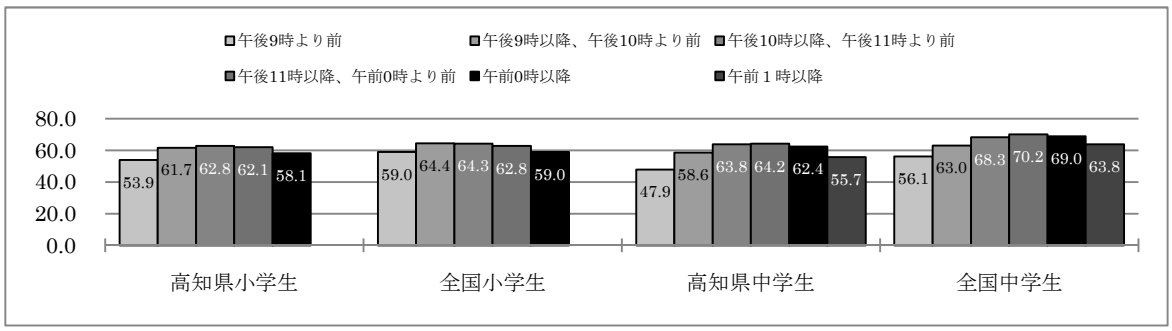
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞

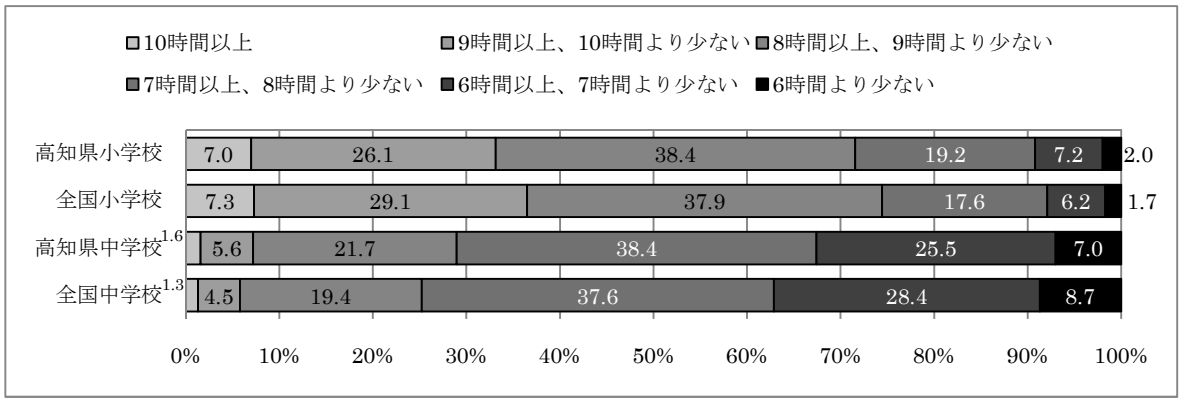


⑥　睡眠時間

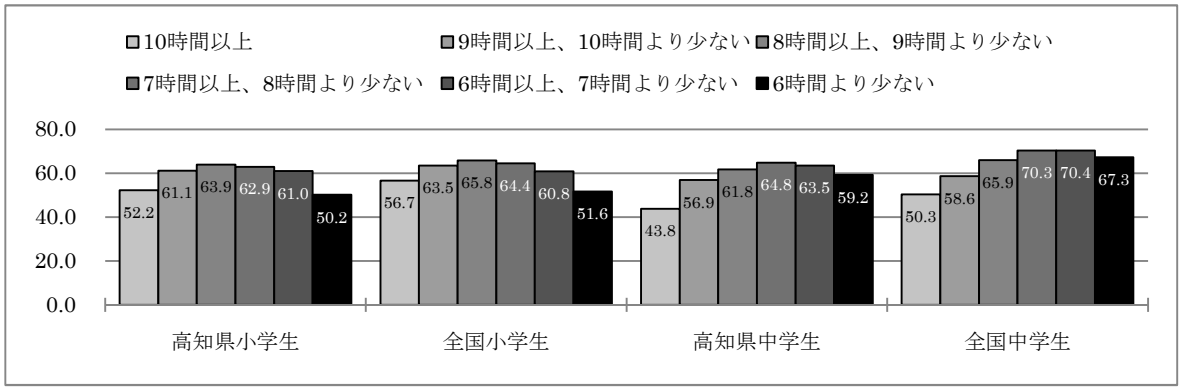
○　普段（月～金曜日）の１日の睡眠時間が、８時間以上の小学生は７１．５％で、全国より２．８ポイント下回っており、中学生は２８．９％で、全国より３．７ポイント上回っている。
○　平成１９・２０年度と比べ、小・中学生とも大きな変化は見られない。
○　睡眠時間が６時間未満の小学生と、１０時間以上の中学生に、正答率が大きく下がる傾向が見られる。

■　普段（月～金曜日）、１日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか

［児童生徒質問紙調査　質問１１］



＜平均正答率との相関関係＞



⑦　テレビゲーム

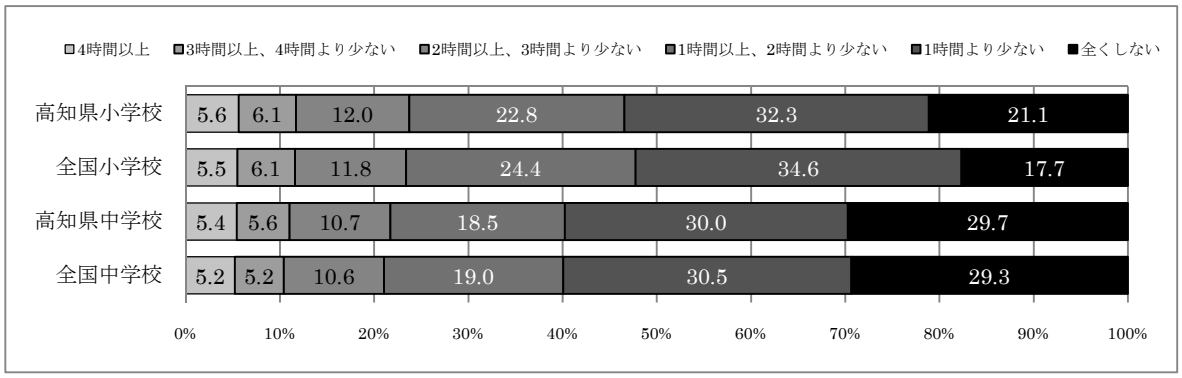
○　普段（月～金曜日）、１日あたりテレビゲームを全くしない小学生は２１．１%で、全国より３．４ポイント上回り、本県の２０年度に比べ、２．３ポイント増加している。中学生は２９．７%で、全国とほぼ同じであるが、本県の２０年度に比べ、１．７ポイント減少している。

○　普段（月～金曜日）、１日あたりテレビゲームを３時間以上する小・中学生は、１１%をこえているが、本県の２０年度に比べ、小学生は１．０ポイント、中学生は０．８ポイント減少している。

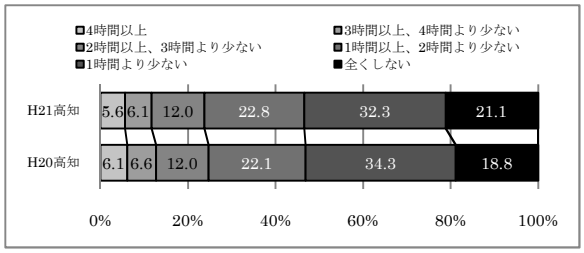
○　テレビゲームをする時間が長いほど、正答率が低い傾向が見られる。

■　普段（月～金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

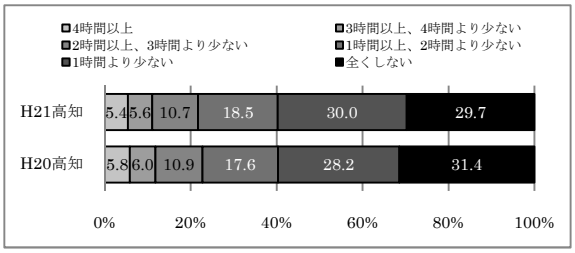
［児童生徒質問紙調査　質問１３］



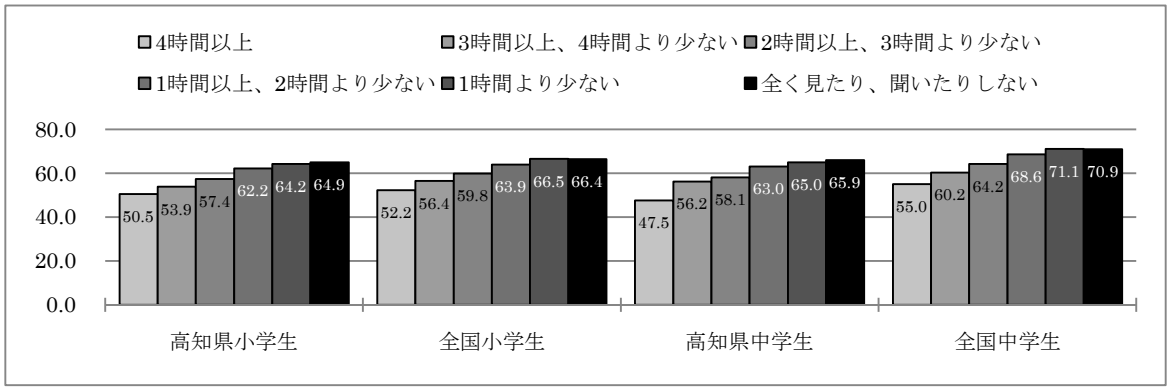
（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞



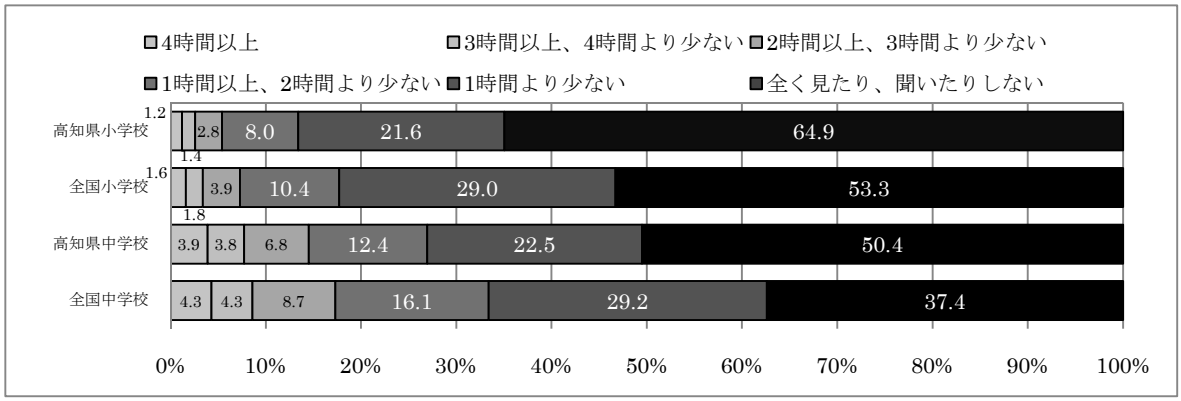
⑧　インターネット

○　普段（月～金曜日）、１日あたりインターネットを全くしない小学生は６４．９％で、全国より１１．６ポイント上回っている。中学生は、５０．４％で、全国より１３．０％上回っているが、２０年度と比べ、２．８ポイント減少している。

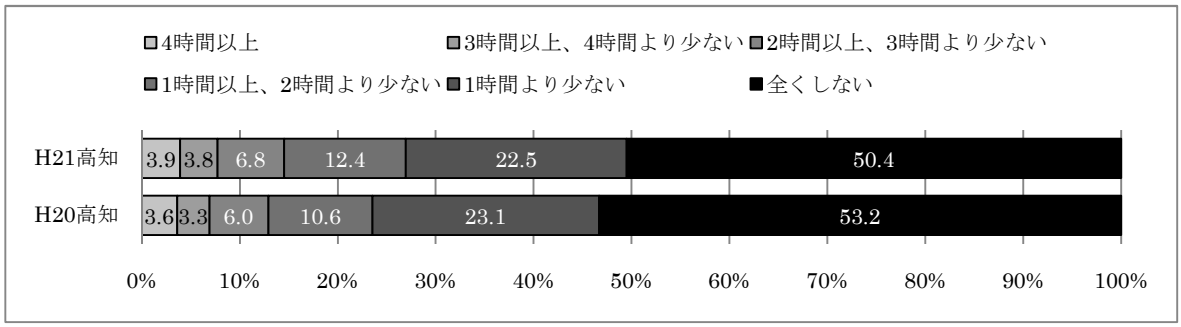
○　インターノットをしている小・中学生の中では、インターネットをする時間が長いほど、正答率が低い傾向が見られる。

■　普段（月～金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、インターネットをしますか

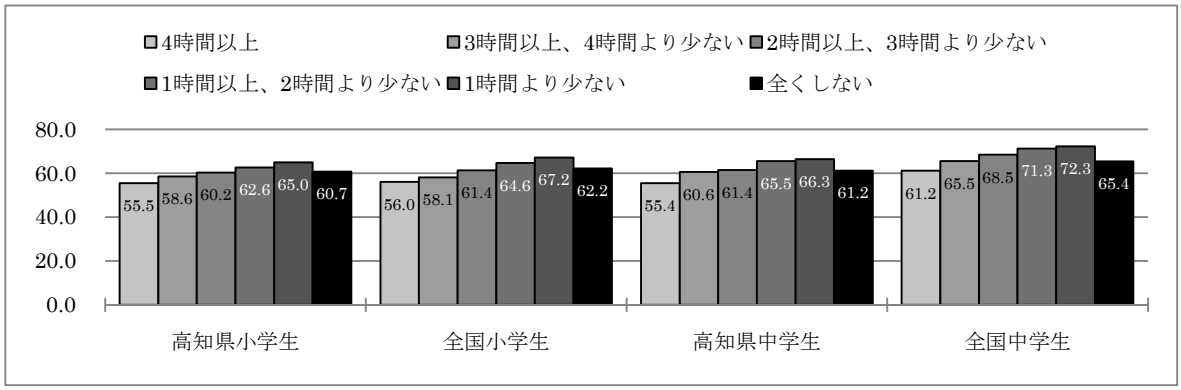
［児童生徒質問紙調査　質問１４］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞



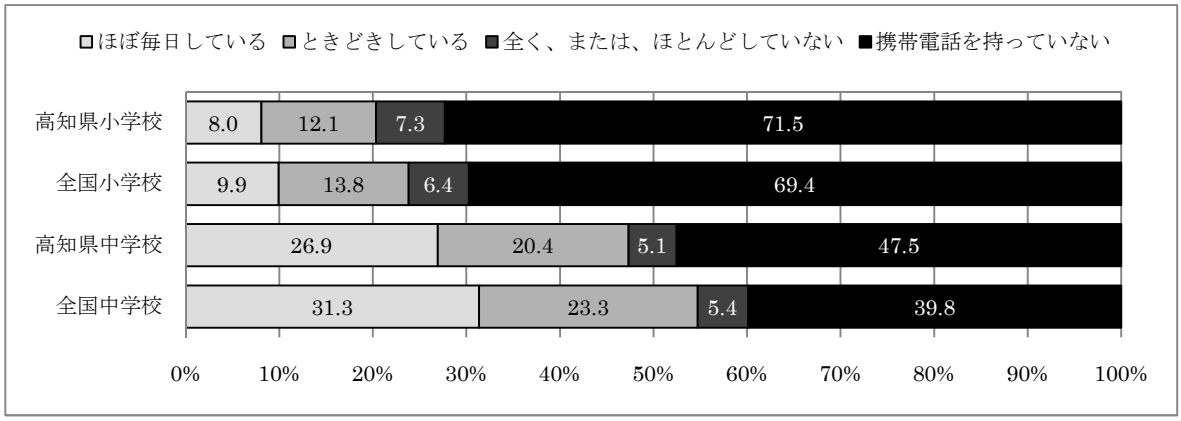
⑨　携帯電話

○　携帯電話を所持していない小学生は７１．５％で、全国より２．１ポイント上回り、中学生は４７．５％で、全国より７．７ポイント上回っている。所持率は、小・中学生とも本県の１９年度から大きな変化はない。

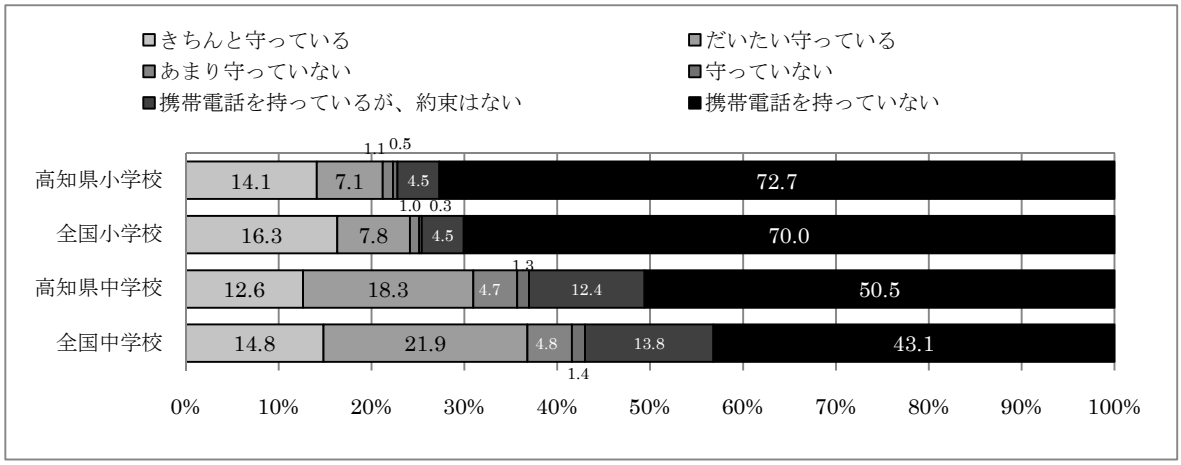
○　携帯電話を所持している割合、使用している割合とも、中学生の方が、小学生より２０ポイントをこえて上回っている。

○　携帯電話の使い方について、家の人と約束があり、約束したことを守っている小・中学生に正答率が高い傾向が見られる。

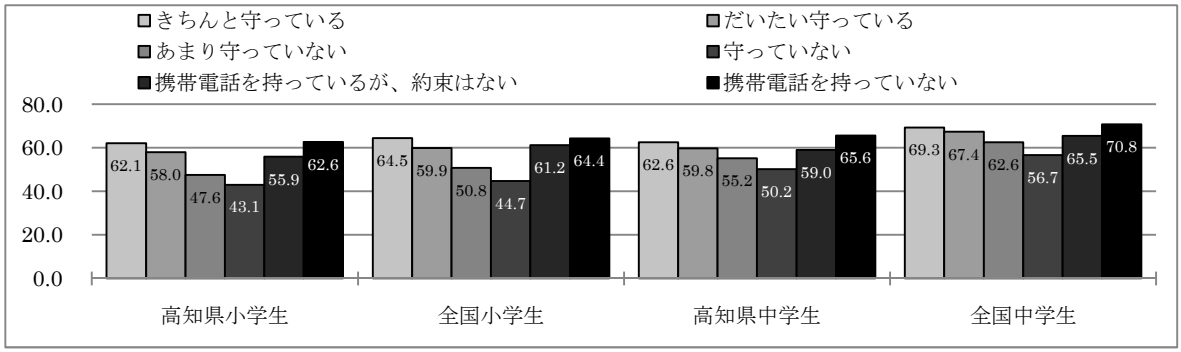
■　携帯電話で通話やメールをしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問１５］



■　携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２５］



＜平均正答率との相関関係＞



（２） 調査結果の考察

① 成果

・朝食の摂取率について、小学生はやや改善が見られる。

・就寝時間について、午後１１以降に就寝する小学生や午前０時以降に就寝する中学生がやや減少しており、生活習慣に改善がみられる。

② 課題

◇ 中学生

・中学生の朝食の摂取率に改善が見られず、朝食を毎日食べているに対する否定群（全くしていない・あまりしていない）の割合が８．９％ある。

・起床時間が７時３０分以降の中学生の割合は１１．０％あり、全国や本県の小学生と比較して、起床時間が遅い傾向がある。

◇ 小・中学生

・午後１１時以降に就寝する小学生の割合はやや減少したが、２０．０％おり、中学生も午前０時以降に就寝する割合はやや減少したが、２２．６％おり、就寝時間が遅い小・中学生の割合が高い。

・普段（月～金曜日）、１日あたりテレビゲームを３時間以上する小・中学生は、それぞれ１１．０％以上おり、家庭における時間の使い方を見直す必要がある。 家庭学習 P.96

（３）今後の取組

◇ 学校では

児童生徒本人の自覚を促すとともに、保護者の理解・協力を得るため、啓発活動や実施に向けての取組を、学校とＰＴＡが協力して行っていく。

・給食指導や授業（家庭、技術・家庭、体育、保健体育、特別活動等）を通して、食事の大切さなどをきめ細かに指導していく。

・生活スタイルの調査や生活チェックシートなどを活用して、子どもが生活習慣の課題を見いだし、生活の時間の計画性について考えて行動するよう指導するとともに、家庭と連携して基本的生活習慣が身に付くようにしていく。

・計画的で、適度な質と量の家庭学習を課し、１日の生活の中に、家庭での学習時間をとることができるよう、指導を工夫する。

・携帯電話の必要性など、考える機会を設ける。

◇ 家庭では

朝食の摂取やそれぞれの年代に応じた望ましい時刻での起床・就寝等、基本的生活習慣の定着、テレビゲームやインターネットの時間、携帯電話の使い方などについての家庭でのルールづくり等を推進する。

・家庭で生活リズムについて子どもと話し合い、家族ぐるみで健全な生活リズムを築く。

・食事を共にするなど、家族での会話を増やし、積極的に子どもにかかわっていくよう工夫する。

・携帯電話の所持や使用方法、必要性など、改めて話し合いの機会を設定し、携帯電話の利便性と危険性について、親子で理解し、使用する時のルールづくりを進める。

◇　教育委員会では

「高知県教育振興基本計画」、『学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン【改訂版】～「学力向上・いじめ問題等対策計画」～』に基づき、家庭や地域の教育力の向上に資するよう、具体的な取組の充実を図る。

・家庭や地域の教育力を高め学校と家庭が協働して基本的生活習慣の定着を図るよう、より一層の啓発を行う。

・「早ね　早おき　朝ごはん」運動を県民運動として継続する。

・基本的な生活習慣の定着には幼児期からの習慣化が大切であるため、各課が連携して取組を進める。

・携帯電話に関する情報を積極的に発信するとともに、携帯メーカーとの連携を強化し、子どもを守るための仕組みづくりを進める。

（参考）　　小中学生の望ましい生活習慣　（例）

		小学生		中学生
		低学年	高学年	
就寝時間		午後9時まで	午後10時まで	午後11時まで
起床時間		午前6時30分		午前6時30分
睡眠時間		9～10時間	8～9時間	7～8時間
学習時間		30分～1時間	1～1時間30分	1時間～2時間
自由時間	テレビ・テレビゲーム	1時間30分未満		1時間30分未満
	読書	30分以上		30分以上
	運動	放課後、外遊びでしっかり体を動かそう		運動部以外の人はできるだけ体を動かそう

２　自尊感情に関する内容

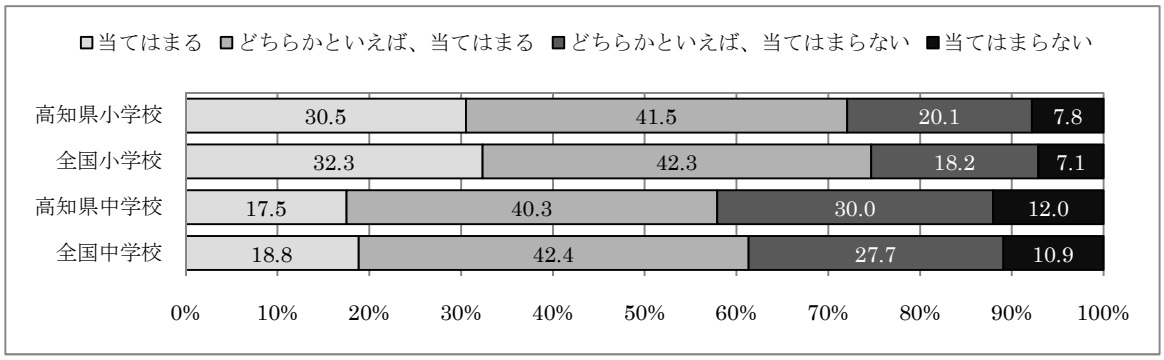
（１）　調査結果

①　自尊感情

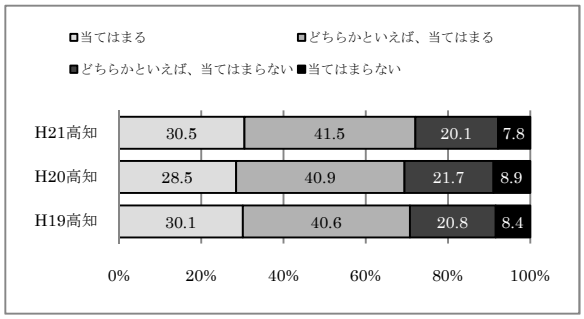
○　自分には、よいところがあると思いますかに対する肯定群の小学生は７２・０％で、全国より２．６ポイント下回り、中学生は５７．８％で、全国より３．４ポイント下回っているが、本県の１９年度に比べると、小・中学生とも増加傾向にある。

○　自分にはよいところがあると思う小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

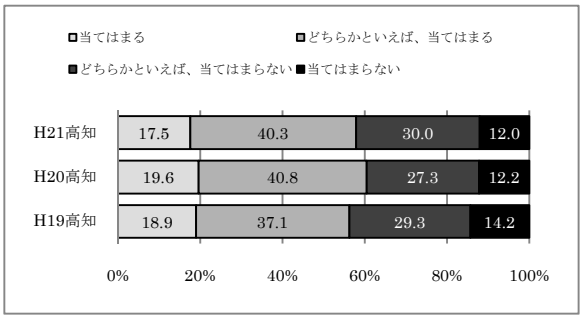
■　自分には、よいところがあると思いますか　　［児童生徒質問紙調査　質問７］



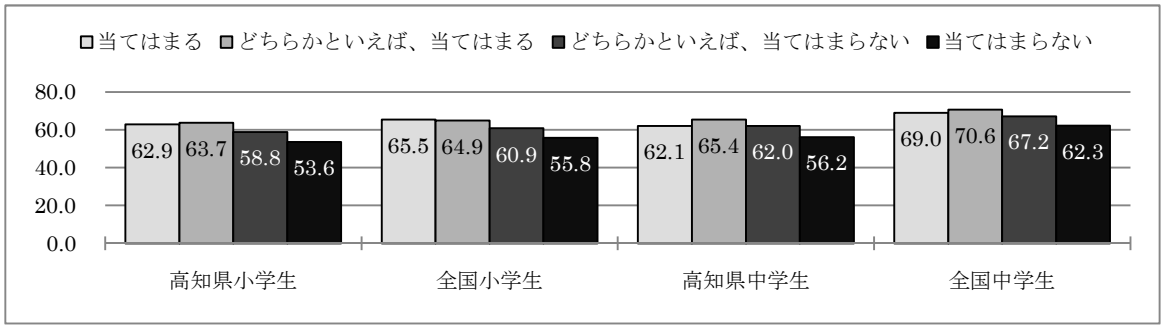
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞



② 意欲

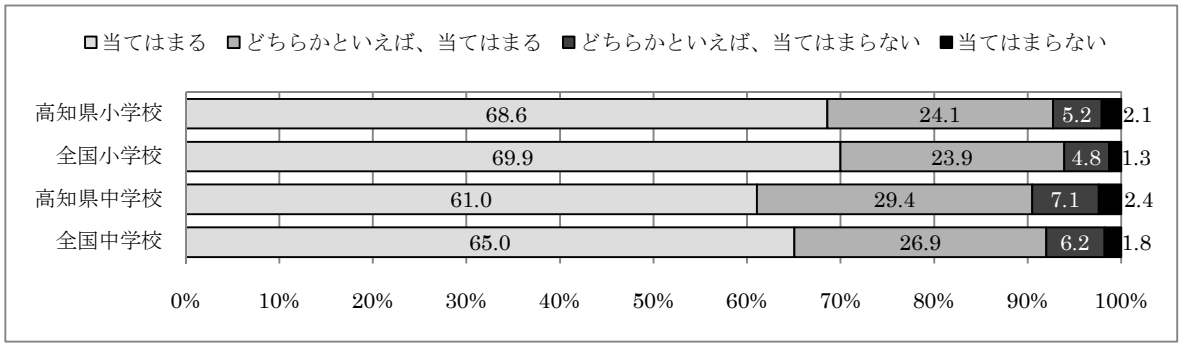
○ ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますかに対する肯定群の小学生は９２．７%、中学生は９０．４%で、小・中学生とも全国とほぼ同じである。

○ 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますかに対する肯定群の小学生は７３．２%、中学生は６１．６%で小・中学生とも全国とほぼ同じである。小学生は本県の２０年度に比べ２．６ポイント増加し、中学生は本県の１９年度と比べ２．９ポイント増加している。

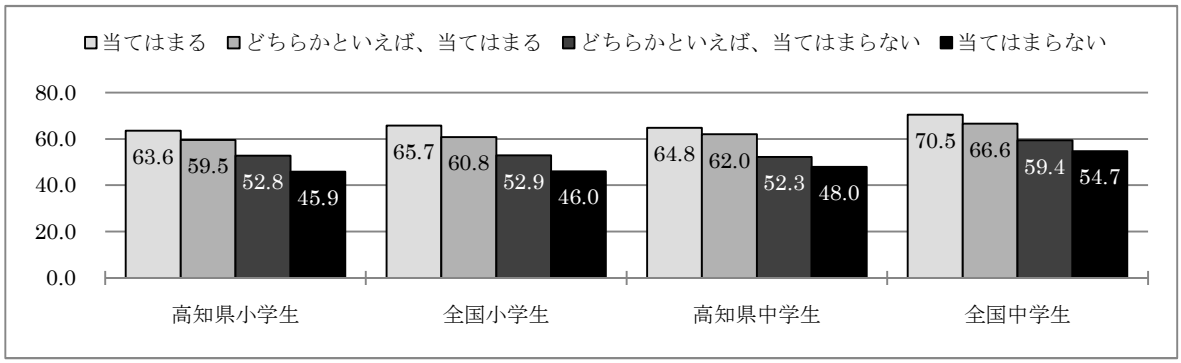
○ 将来の夢や目標を持っていますかに対する肯定群の小学生は８４．７%、中学生は７０．６%で、小・中学生とも全国とほぼ同じであり、本県の１９年度に比べると、増加している。

○ ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがあると思う小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

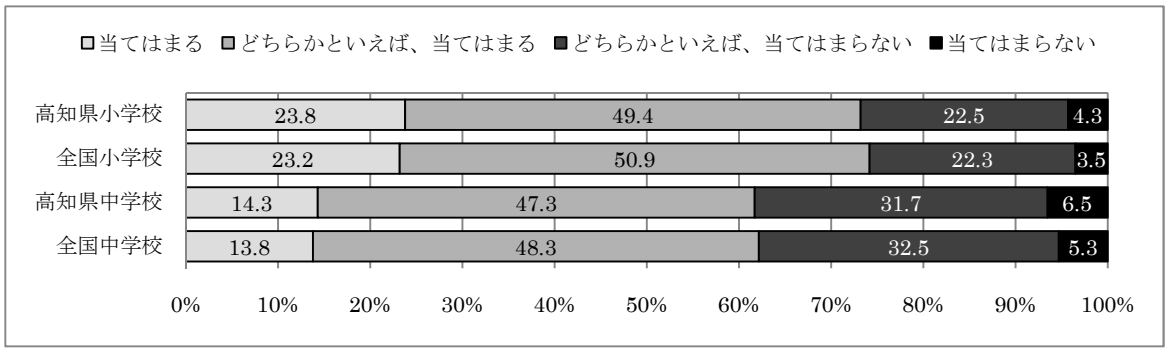
■ ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか　［児童生徒質問紙調査　質問５］



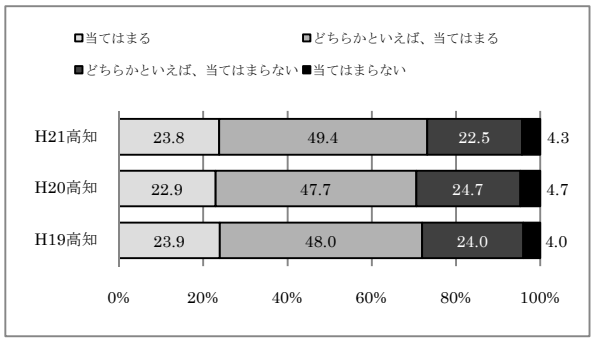
＜平均正答率との相関関係＞



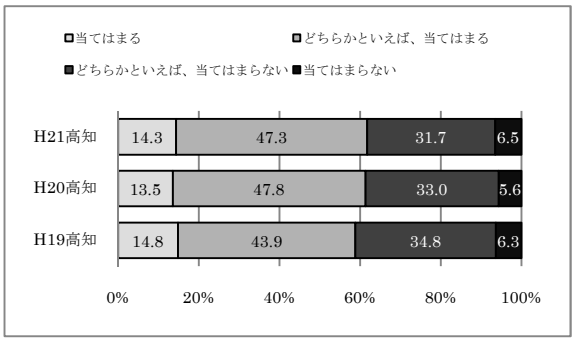
■　難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか　　［児童生徒質問紙調査　質問６］



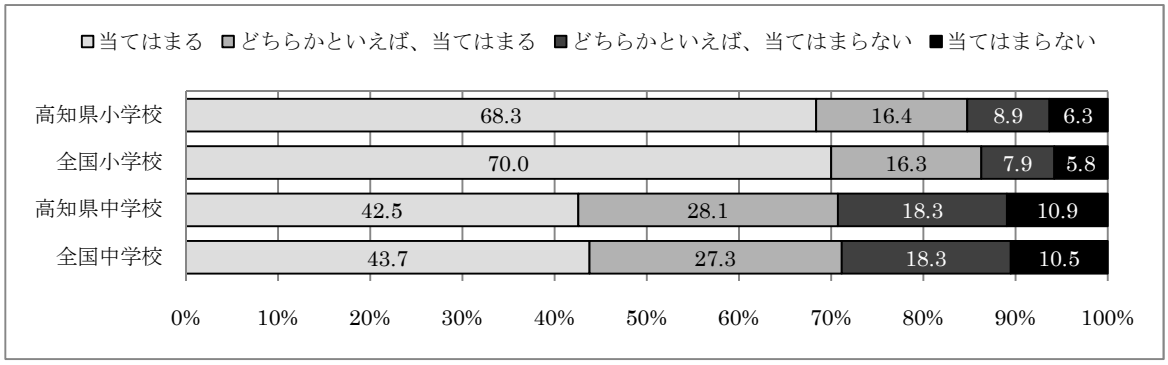
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



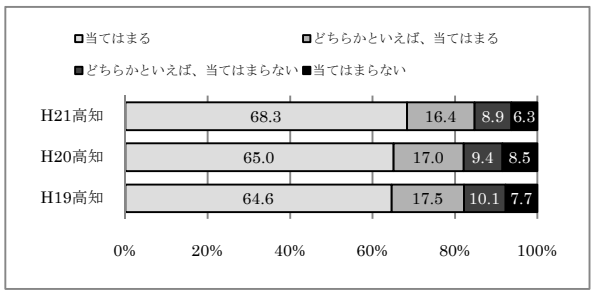
【中学校】



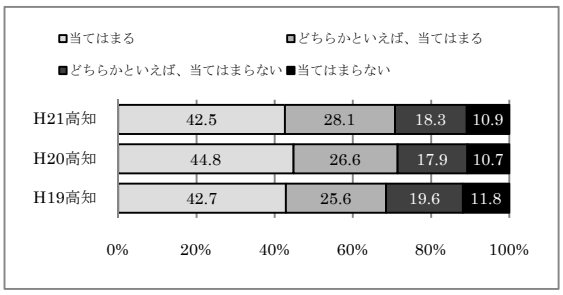
■　将来の夢や目標を持っていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問８］



（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



③　意欲を高める指導

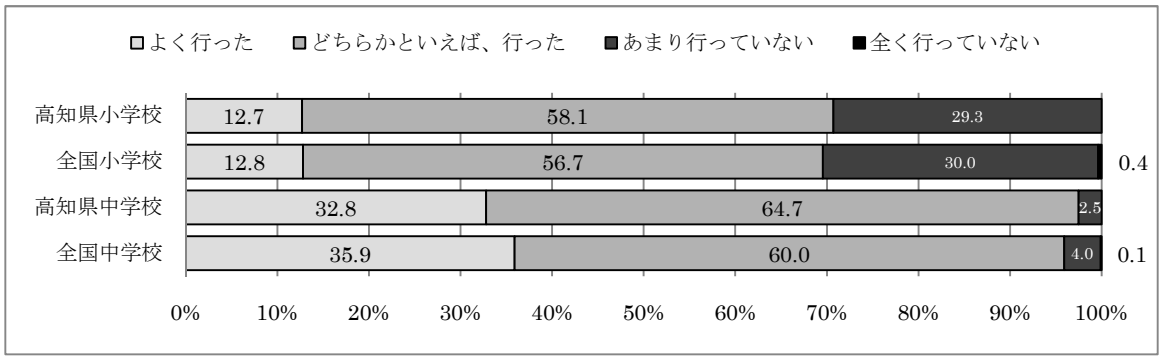
□　将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしているに対する肯定群の小学校は７０．８％で全国とほぼ同じであり、中学校は９７．５％で全国より１．６ポイント上回っている。
　本県の２０年度に比べ、小学校は９．４ポイント増加し、中学校は３．３ポイント増加している。

□　学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えていますかに対する肯定群の小学校は８９．５％で、全国とほぼ同じであるが、中学校は７２．３％で、全国より８．６ポイント下回っている。本県の２０年度に比べ、小学校は２．１ポイント増加している。

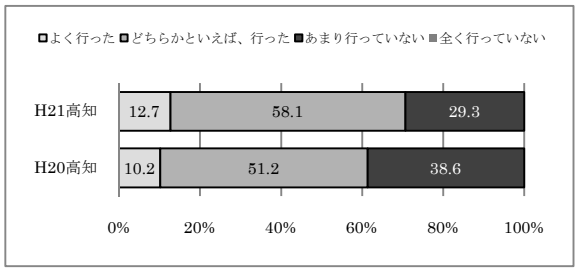
□　学級全員で取り組む課題を与えている学校ほど、正答率が高い傾向が見られる。

□　児童・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか

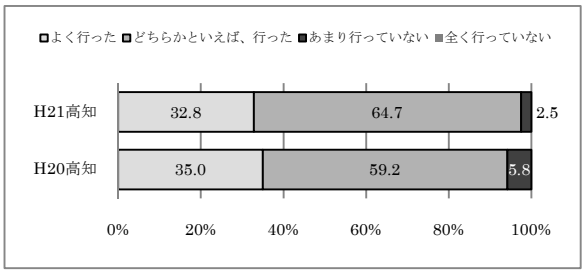
［学校質問紙調査　（小）質問３０　（中）質問３０］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】

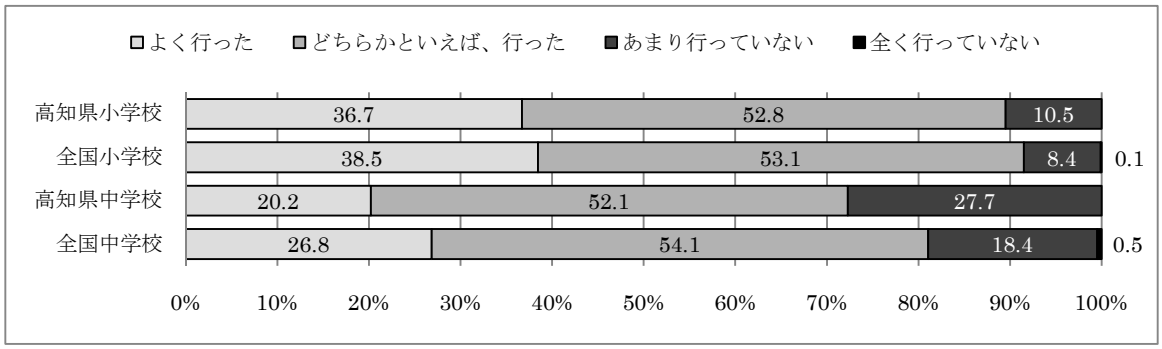


【中学校】

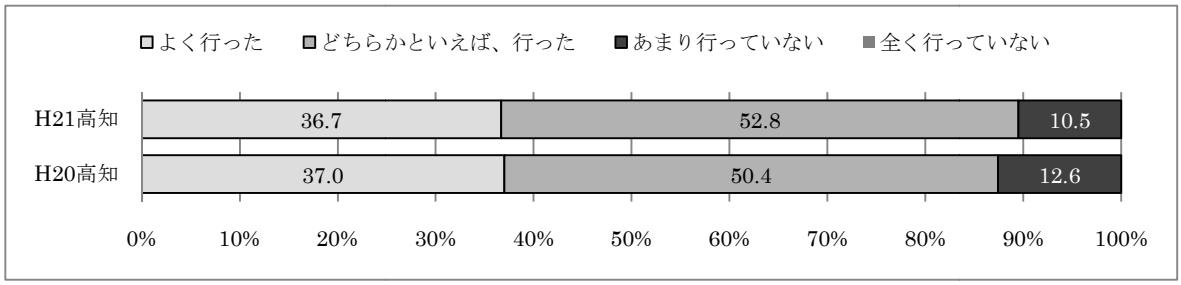


□　児童・生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えていますか

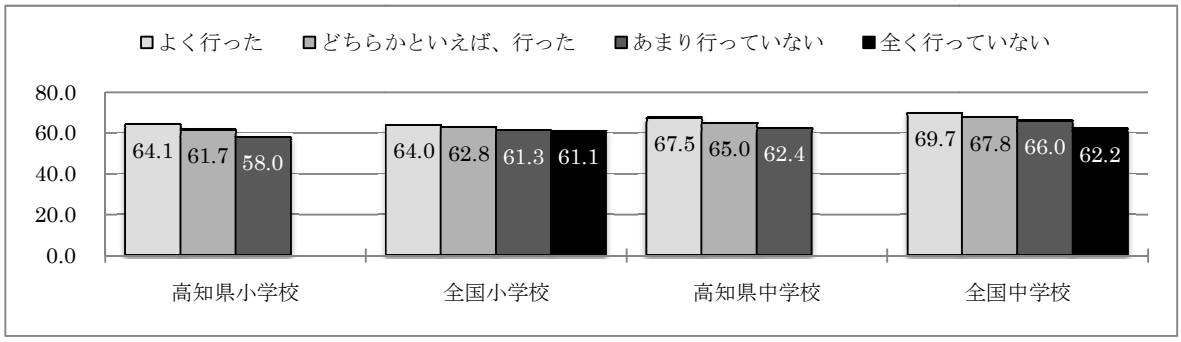
［学校質問紙調査　（小）質問３３　（中）質問３３］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



＜平均正答率との相関関係＞



（２）　調査結果の考察

①　成果

・自分にはよいところがあると思う、難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している、将来の夢や目標を持っている小・中学生が増加傾向にあり、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導や、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える指導をしている学校の割合が増えてきた成果が現れはじめたと考えられる。

人や社会とのかかわり P.82

②　課題

◇　小・中学生

・自分にはよいところがあると思う小・中学生の割合は、全国に比べて低い。また、小学生より中学生の方がより低くなっている。

◇　中学校

・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている学校の割合が全国より８．６ポイント下回っている。

（３）今後の取組

◇　学校では

管理職がリーダーシップを発揮して、小・中学生が仲間とかかわり合いながら主体的に判断して行動したり、自分の将来の夢や目標を考え、そのためにしなければいけないことを考えたりすることができる機会を充実するよう教育課程を見直す。

・互いにがんばりを認め合い、励まし合う学級や学校の雰囲気をつくる。

・主体性を伸ばす生徒指導や心の教育を充実させる。

・学習目標を明確にし、発言や活動の時間を確保して、一人一人が「分かる」、「できた」と

実感する授業を行う。その際、目的意識をもって自分で学習を進める学習や、自己選択や自己決定を大切にした学習も取り入れる。

授業 P.117

・「夢」や「希望」を実現するための発達段階に応じたキャリア教育を推進する。
・教職員が連携し、小・中学生のよいところやがんばっていることを見つけ、言葉や態度で評価する。
・ともに子どもたちを育てる視点で家庭や地域と連携する体制を整える。

◇　家庭・地域では

子どもの話を聞き、よさやがんばりをほめ、家庭や地域の中で子どもが様々な体験や学習を好奇心をもって取り組んでみようとすることができる環境を整えたりする。

・学校でのできごとを聞いたり、将来の夢や進路について早い時期から話し合ったりできるようにする。
・生活習慣を見直し、意欲が高まるよう、健全な生活リズムを築く。

◇　教育委員会では

「高知県教育振興基本計画」、『学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン【改訂版】～「学力向上・いじめ問題等対策計画」～』に基づき、心身ともに健やかで「夢」と「希望」にあふれた子どもたちを育成するよう、具体的な取組の充実を図る。

・学校と家庭や地域が連携した取組ができる機会を充実させる。
・教育課程の編成・実施に関する研修等を充実するとともに、キャリア教育などに係る施策を実施する。
・地域の文化施設等を充実し、子どもが様々な角度から調べたり考えたりすることができる環境を整える。
・人を信頼する気持ちや自己肯定感、自らかかわろうとする意欲（主体性）、最後まであきらめずに取り組む力などは、幼児期から育まれるため、幼児期からの豊かな心の教育に取り組む。

人や社会とのかかわり P.84

※親育ち支援推進事業

保護者を対象に、教育的な視点から子どもの育ちと大人のかかわり方の講話や子育て相談を実施し、保護者への啓発とともに、保育所・幼稚園の保護者支援力を向上させる。

３　人や社会とのかかわりに関する内容

（１）　調査結果

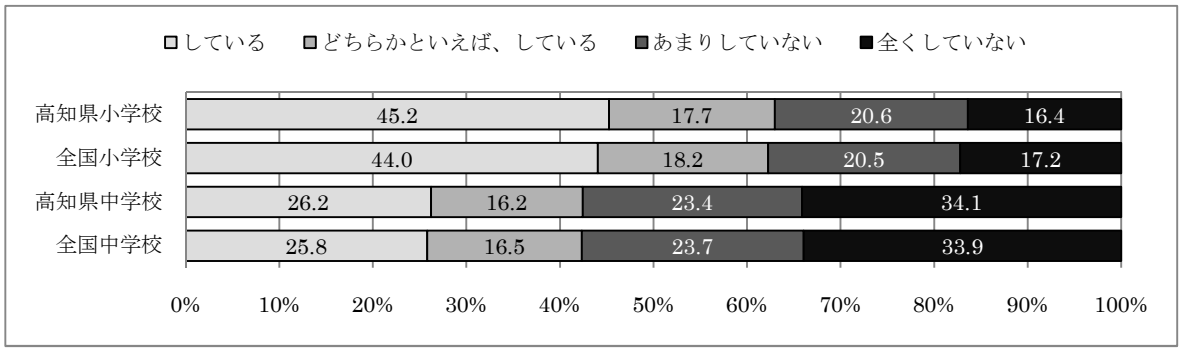
①　家族とのかかわり：朝食、夕食

○　家の人と、普段（月～金曜日）、朝食を一緒に食べていますかに対して「している」小学生は４５．２%で、全国より１．２ポイント上回り、１９年度に比べ、増加している。中学生は、２６．２%で、全国とほぼ同じであり、１９年度以降、大きな変化はない。

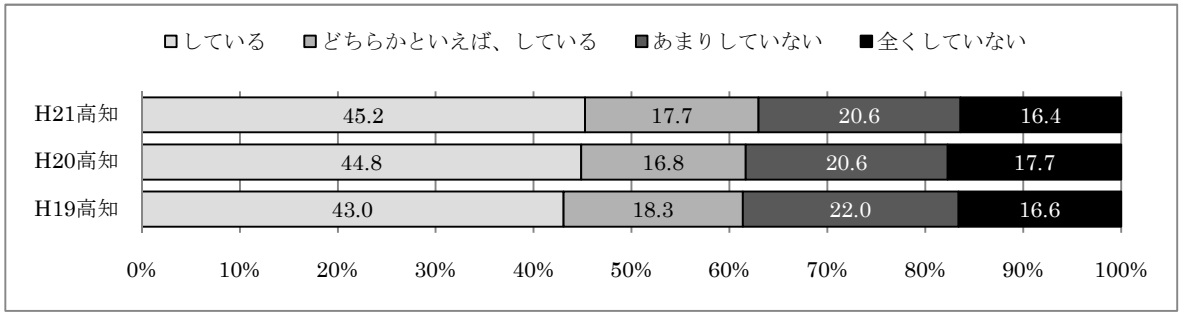
○　家の人と、普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べていますかに対して「している」小学生の割合は、６６．４%で、全国より４．５ポイント下回っている。中学生は、５７．７%で、全国とほぼ同じである。

○　中学生においては朝食、夕食を家の人と一緒に食べているほど、正答率が高い傾向が見られる。

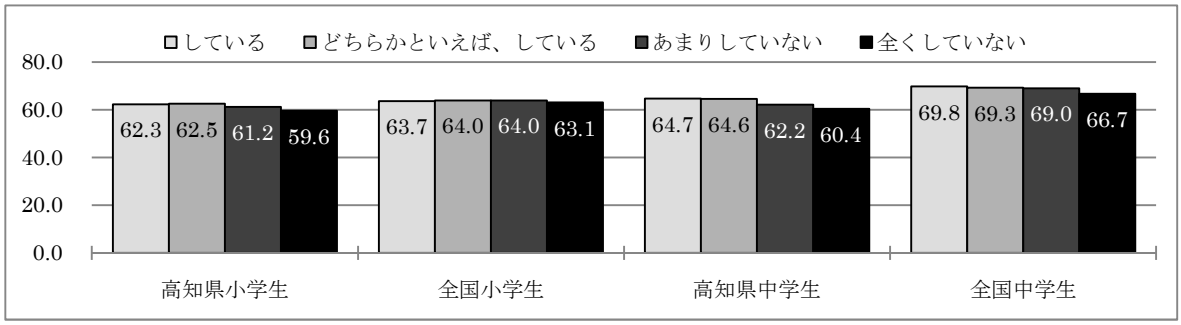
■　家の人と、普段（月～金曜日）朝食を一緒に食べていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２１］



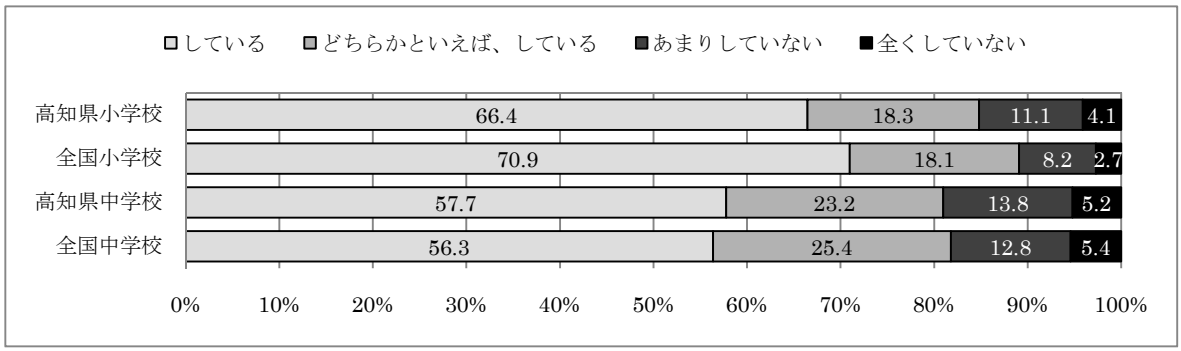
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



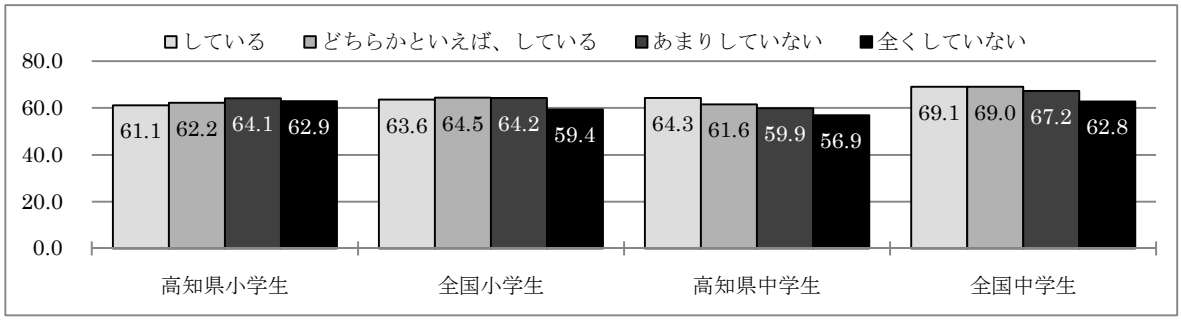
＜平均正答率との相関関係＞



■　家の人と、普段（月～金曜日）夕食を一緒に食べていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２２］



＜平均正答率との相関関係＞

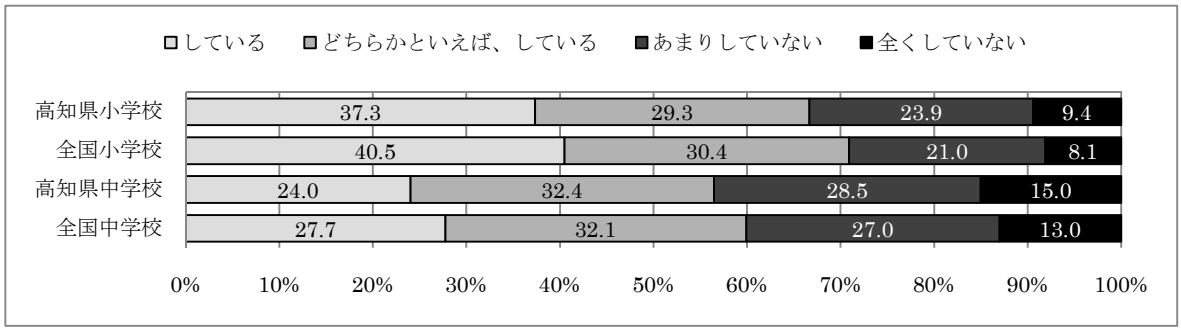


②　家族とのかかわり：会話

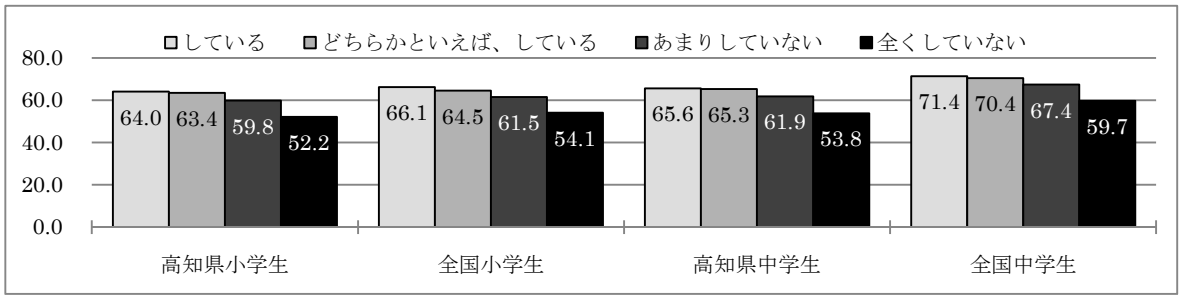
○　家の人と学校での出来事について話をしているに対する肯定群の小学生は６６．６％で、全国より４．３ポイント下回り、中学生は５６．４％で、全国より３．４ポイント下回っている。小・中学生とも、１９年度以降、大きな変化は見られない。

○　家の人と学校での出来事を話している小・中学生ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

■　家の人と学校での出来事について話をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２３］



＜平均正答率との相関関係＞



③　周囲の人とのかかわりに関する内容

○　人が困っているときは、進んで助けていますかに対する肯定群の小学生は７８．７％で全国とほぼ同じであり、１９年度に比べ２．５ポイント増加している。中学生は６８．９％であり、全国より３．３ポイント下回っている。

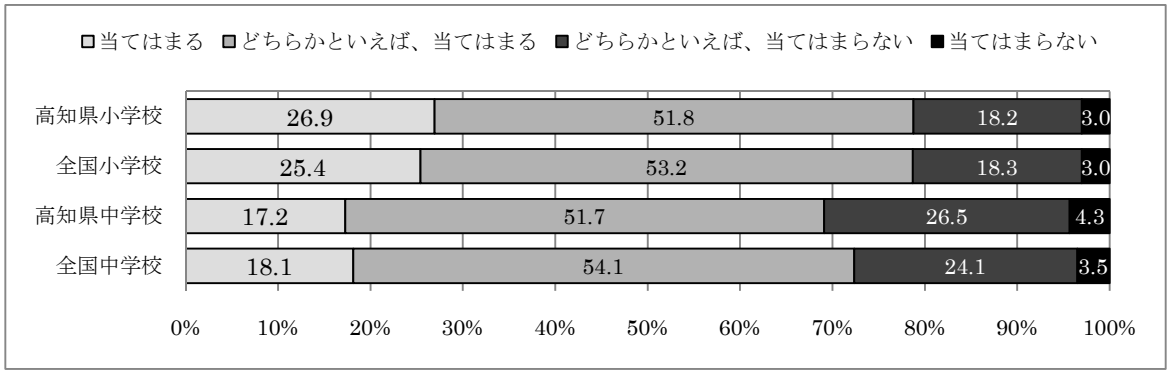
○　人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますかに対する肯定群の小学生は８９．７％で全国とほぼ同じであるが、中学生は８８．５％で、全国より３．４ポイント下回っている。

○　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますかに対する肯定群の小学生は９５．１％、中学生は８９．３％で、小・中学生とも全国とほぼ同じである。

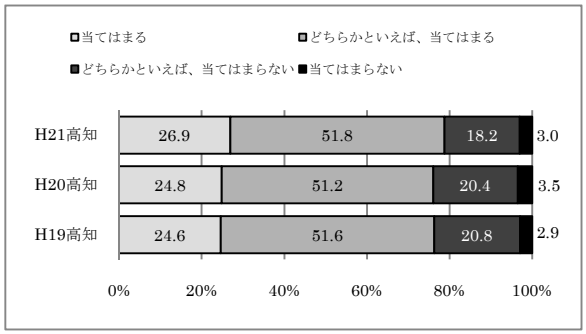
○　人の役に立つ人間になりたいと思いますかに対する肯定群の小学生は９１．４％、中学生は８８．１％で、全国とほぼ同じである。

○　人の気持ちが分かる人間になりたい、いじめは、どんな理由があってもいけない、人の役に立つ人間になりたいと思う小・中学生ほど正答率に高い傾向が見られる。

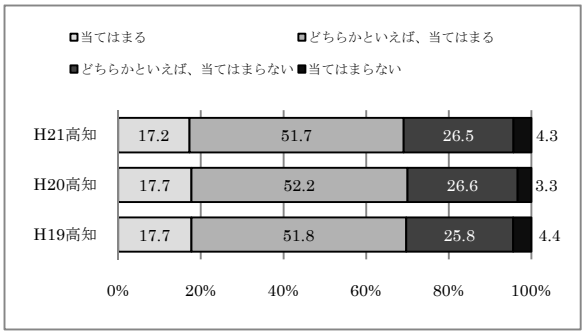
■　人が困っているときは、進んで助けていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３９］



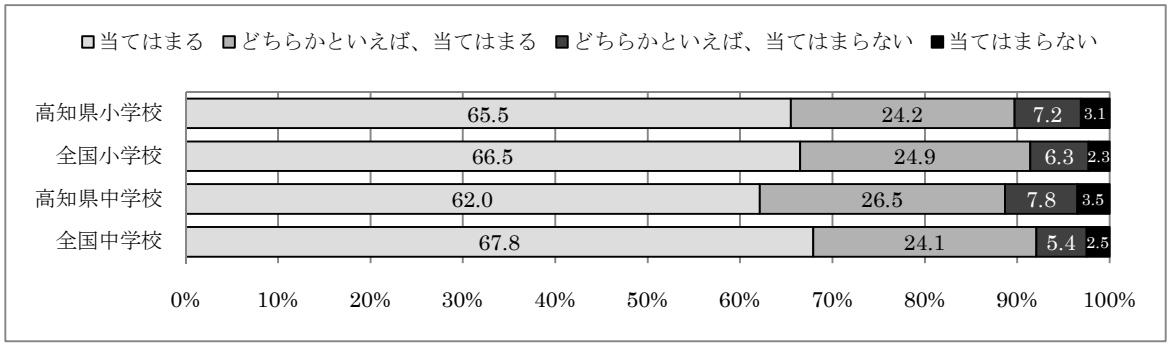
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



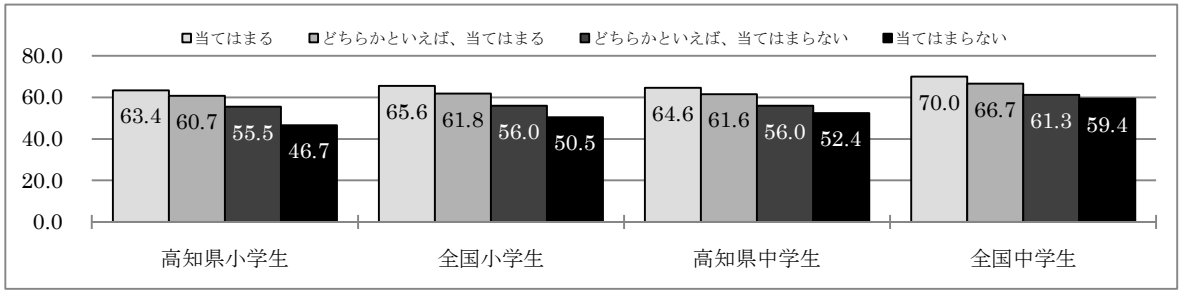
【中学校】



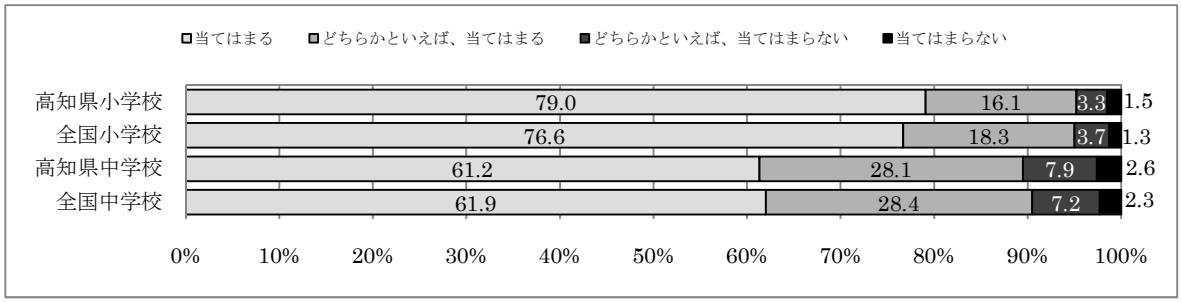
■　人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４１］



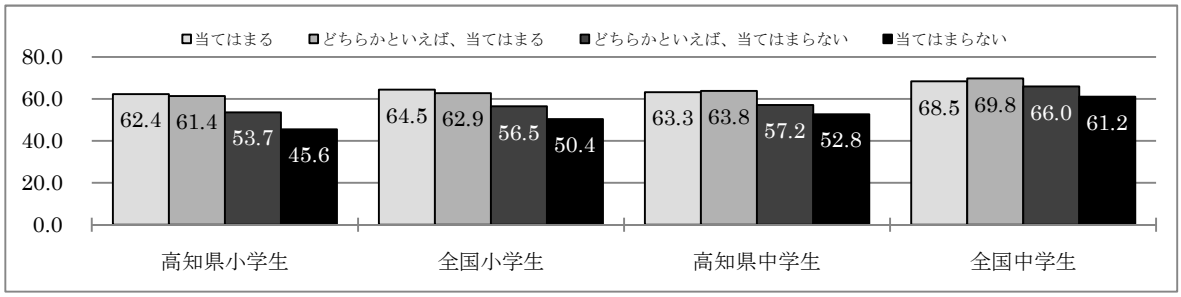
＜平均正答率との相関関係＞



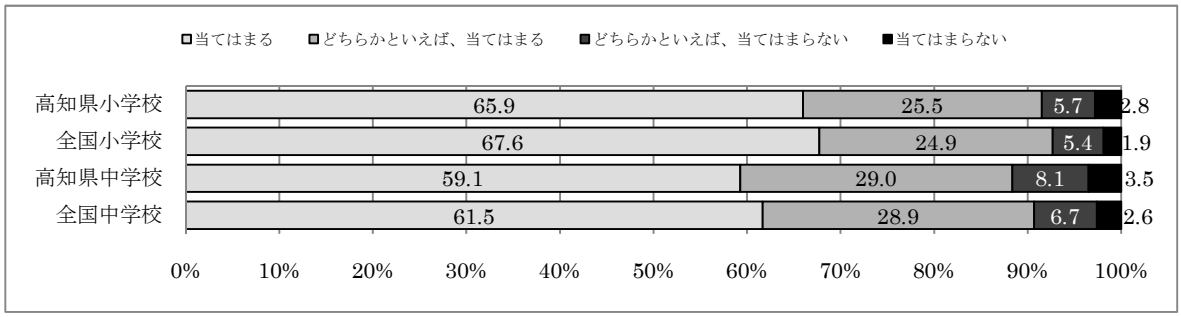
■　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４２］



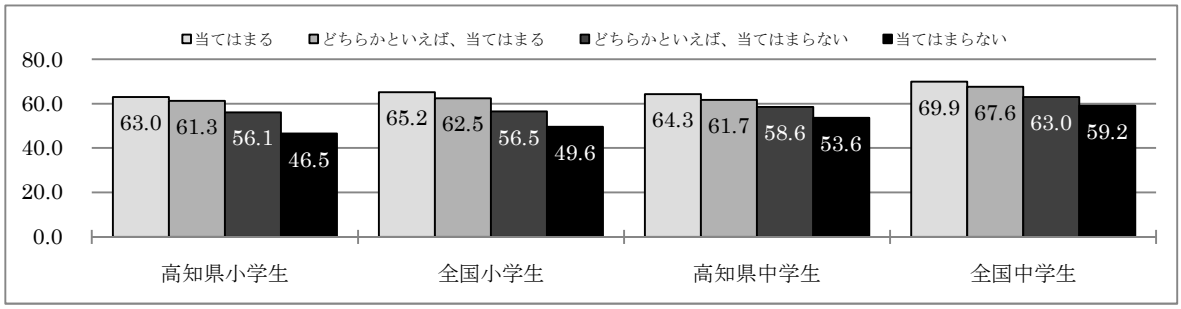
＜平均正答率との相関関係＞



■　人の役に立つ人間になりたいと思いますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４３］



＜平均正答率との相関関係＞

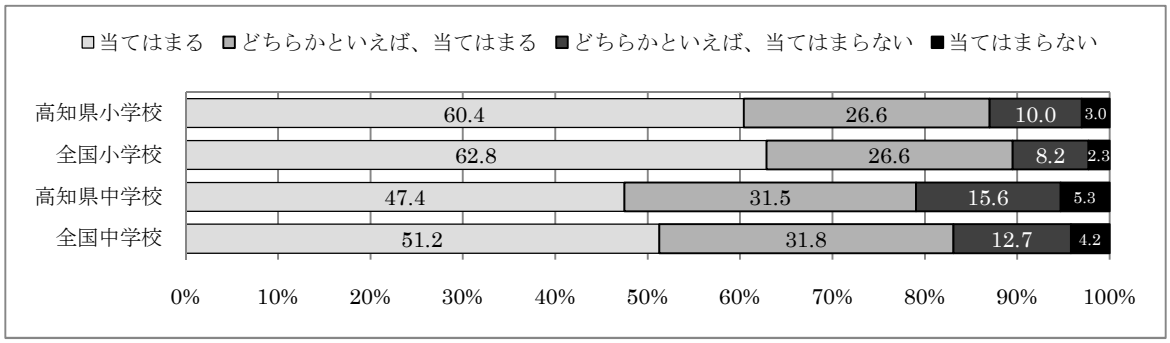


④　周囲の人とのかかわりに関する内容：あいさつ

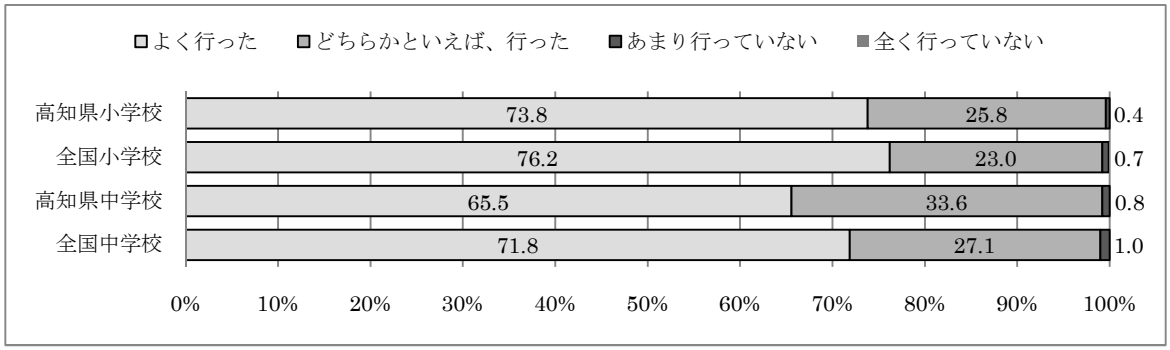
○　近所の人に会ったときは、あいさつをしていますかに対する肯定群の小学生は８７．０%で、全国より２．４ポイント下回り、中学生は７８．９%で、全国より４．１ポイント下回っている。

□　学校や地域であいさつをするよう指導しているに対する肯定群の小・中学校は９９%をこえているが、「よく行った」小学校は７３．８%で全国より２．４ポイント下回り、中学校は６５．５%で、全国より６．３ポイント下回っている。「よく行った」学校は、本県の２０年度に比べ、小学校は６．３ポイント、中学校は５．５ポイント増加している。

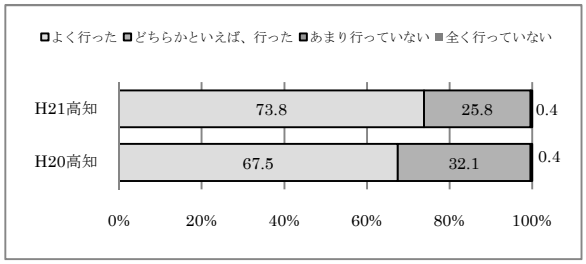
■　近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４０］



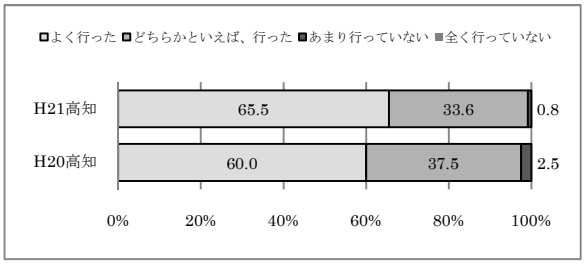
□　学校や地域であいさつをするよう指導していますか　　［学校質問紙調査（小）質問３７　（中）質問３７］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】

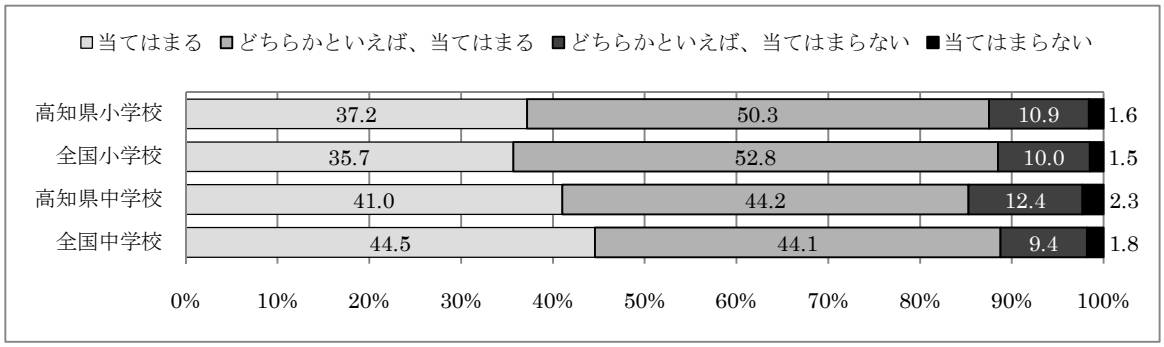


⑤　周囲の人とのかかわりに関する内容：規範意識

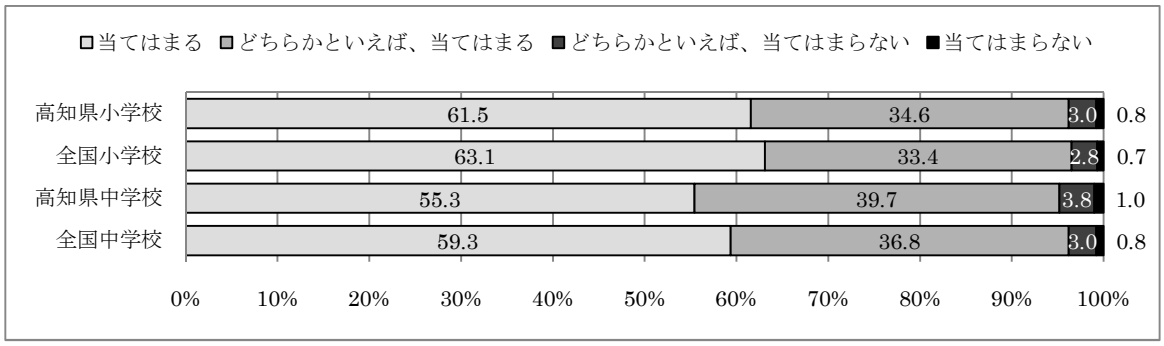
○　学校の決まりを守っていますかに対する肯定群の小学生は８７．５%で、全国とほぼ同じであり、中学生は８５．２%で、全国より３．４ポイント下回っている。

○　友達との約束を守っていますかに対する肯定群の小学生は９６．１%、中学生９５．０%で、全国とほぼ同じであり、１９年度から、徐々に増加している。

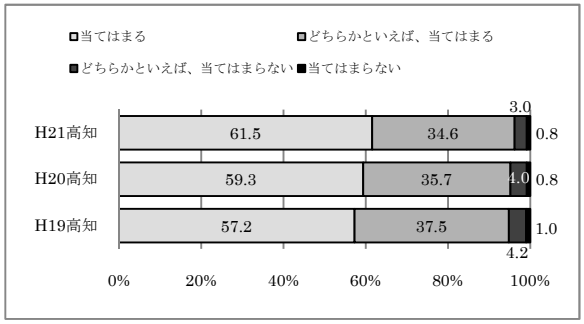
■　学校のきまりを守っていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３７］



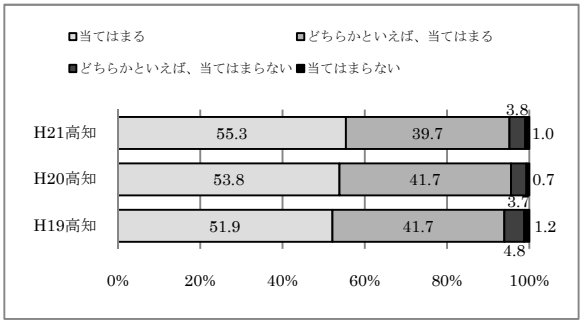
■　友達との約束を守っていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３８］



（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】

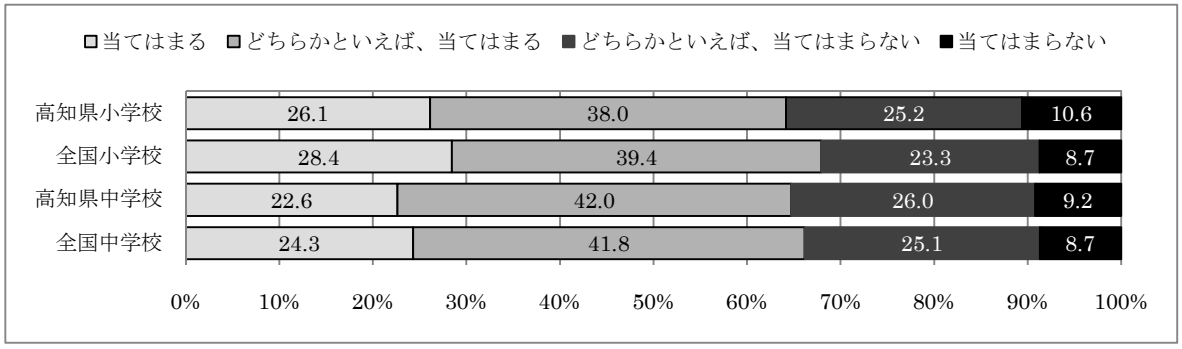


⑥　社会への関心：新聞やニュース

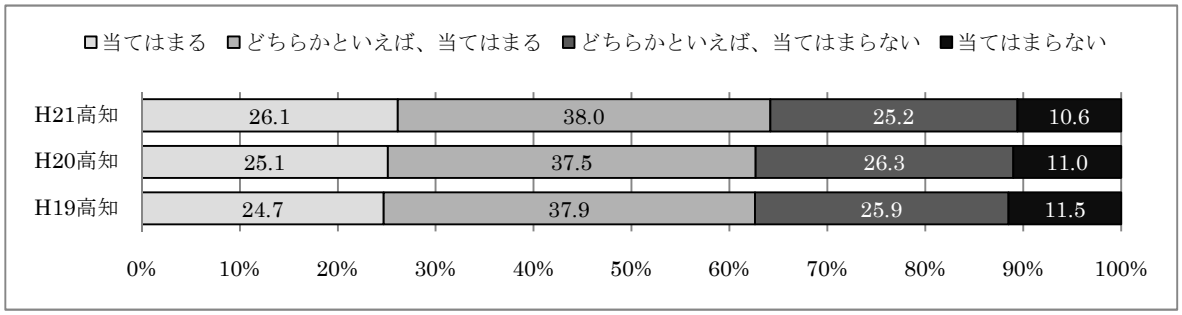
○　新聞やテレビのニュースなどに関心があるに対して肯定群の小学生は６４．１％で全国より３．７ポイント下回り、中学生は６４．６％で、全国とほぼ同じである。本県の１９年度に比べ、小学生は増加傾向にある。

○　新聞やテレビのニュースなどに関心がある小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

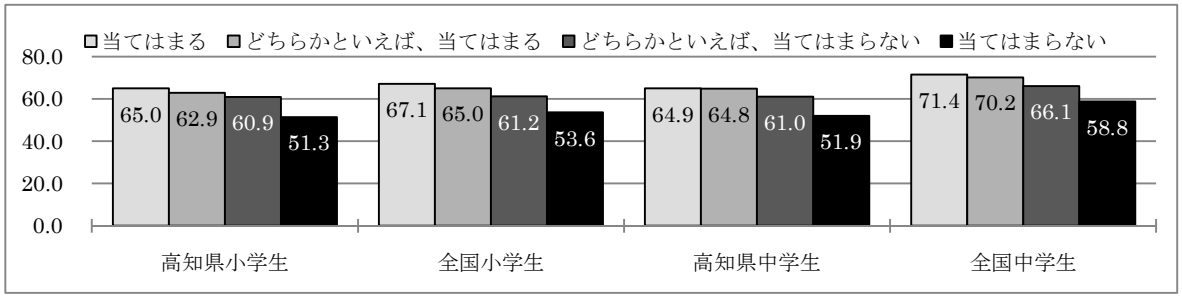
■　新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３４］



（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



＜平均正答率との相関関係＞

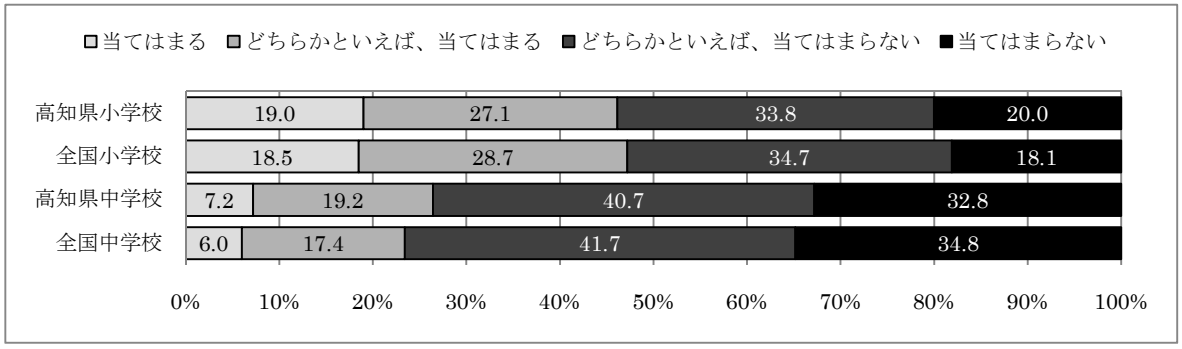


⑦　社会への関心：今住んでいる地域

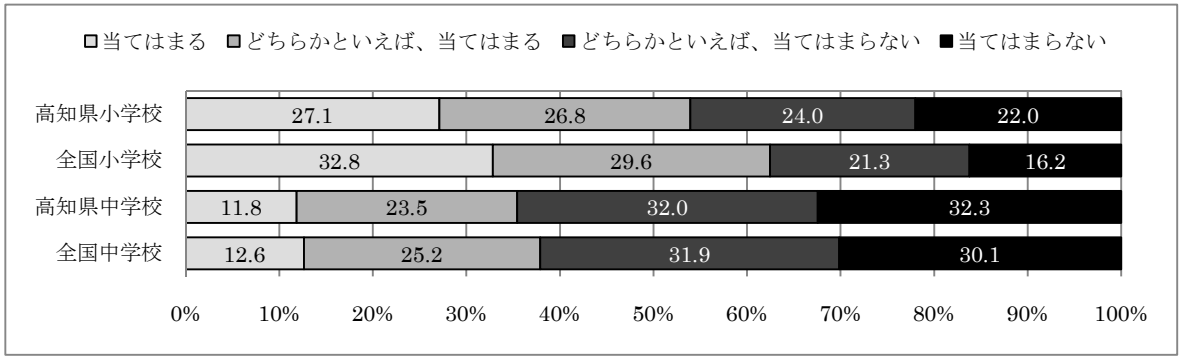
○　今住んでいる地域の歴史や自然について関心があるに対する肯定群の小学生は４６．１％で全国とほぼ同じであり、中学生は２６．４％で全国より３．０ポイント上回っている。

○　今住んでいる地域の行事に参加しているに対する肯定群の小学生は５３．９％で、全国より８．５ポイント下回り、中学生は３５．３％で、全国より２．５ポイント下回っている。

■　今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３５］



■　今住んでいる地域の行事に参加していますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３６］



（２）調査結果の考察

①　成果

・人が困っているときは、進んで助けているや、新聞やテレビのニュースなどに関心のある小学生の割合が増加しており、自分にはよいところがあると思うや難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している小学生の割合の増加ともあわせて、主体的に行動している小学生が増えていることがうかがわれる。

自尊感情 P.73

・集団や社会で生活するうえで重要な、きまりや約束を守ろうと意識し、判断することに関して、友だちとの約束を守っている小・中学生は平成１９年度から徐々に増加しており、規範意識の高まりが見られる。

・学校や地域であいさつをするように指導をよく行った小・中学校の割合は全国より下回っているが、本県の平成２０年度に比べると、小・中学校とも５ポイント以上増加しており、学校が積極的に改善をしようとしていることがうかがわれる。

② 課題

・朝食を摂取することはできているが、家族と一緒に食べることについては、まだ十分に改善されていない。あわせて、学校での出来事を家で話せていないことも課題である。

・家の人と学校での出来事について話しているに対する肯定群の割合は、小・中学生とも全国より低いが、家の人と夕食を一緒に食べているに「している」と答えた割合と近い数値になっているため、子どもとの会話などのやりとりをする機会を工夫して設ける必要があることがうかがわれる。

・人が困っているときは、進んで助けているや、人の気持ちが分かる人間になりたいと思うに対する肯定群の中学生は全国より３ポイント以上下回っており、近所の人にあいさつをしているや、地域の行事に参加している小・中学生の割合も全国より２．４～８．５ポイ下回っているため、人間関係の希薄さや、人とのかかわりに関する行動の具体化に課題が見られる。

（３）今後の取組

◇ 学校では

集団や社会で生活するうえで、きまりや約束を守ることの大切さを伝えるとともに、小・中学生が自ら考え、判断する機会を重視する。そのために、管理職がリーダーシップを発揮し、道徳教育、生徒指導、人間関係づくり、発達段階に応じた人権教育にかかわる教育課程を充実させる。

・さまざまな人とかかわる体験学習を取り入れるなど教育課程の充実を図るとともに、家庭と連携した取組を進める。

・学校通信、学年通信、学級通信などを活用して、学校の状況を積極的に保護者に知らせ、家庭での話題提供を行っていく。

◇ 家庭・地域では

・会話の機会を増やすよう、食事の時間帯の調整などの工夫によって、積極的に子どもとの会話を増やすようにしていくなど、大人から子どもにかかわる機会や方法を日ごろから工夫して実行する。

・規則を守ることを大人が自ら実行して教える。

・子どもの話を聞き、よさやがんばりをほめたり、好奇心をもって取り組んでみようとすることができる環境を整える。

・家庭や地域の中で子どもが様々な体験や学習をしていくことができる環境を整える。

◇ 教育委員会では

「高知県教育振興基本計画」、『学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン【改訂版】～「学力向上・いじめ問題等対策計画」～』に基づき、心の教育や教育的な風土づくりを進

めるために具体的な取組の充実を図る。

・道徳教育、生徒指導、人間関係づくり、発達段階に応じた人権教育に関する施策を充実し、相互に関連をもたせていくことが重要である。

・家族との会話や絆などを大切にすることについて情報発信をするとともに、教育の原点である家庭の教育力を高める働きかけを行う。

・マナーやモラルについて考える機会を提供し、地域ぐるみで規範意識を高める取組を行う。

・家庭や地域で子どもとかかわることの大切さについて啓発するとともに、地域社会と子どもがかかわり合うことができる環境を整える。

・人を信頼する気持ちは、幼児期から育まれるため、幼児期からの豊かな心の教育に取り組む。

自尊感情 P.74

４　家庭学習に関する内容

（１）調査結果

①　家庭学習の時間

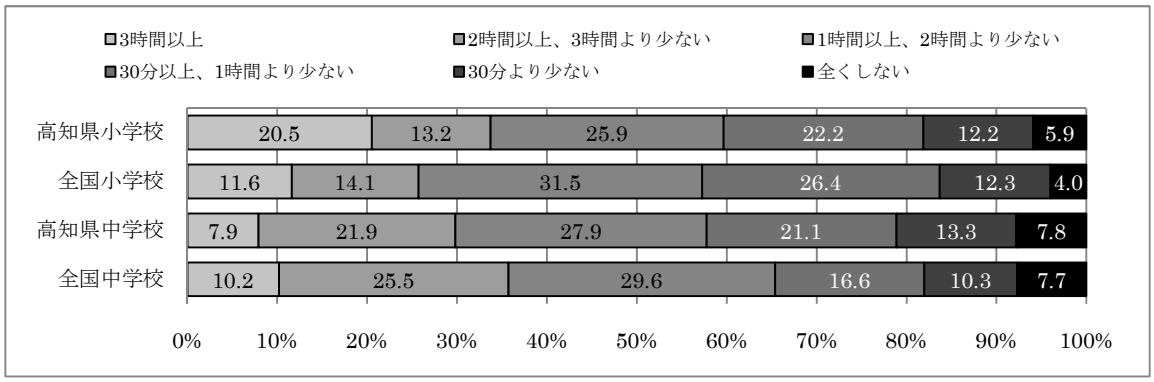
○　平日について、１日あたりの学習時間が３０分未満の小学生の割合は、１８．１%で全国より１．８ポイント上回り、中学生は２１．１%で、全国より３．１ポイント上回っているが、本県の２０年度に比べ、小学生は１．３ポイント、中学生は、３．３ポイント減少している。

○　休日について、１日あたりの学習時間が、小学生は「３時間以上」は１７．２%で、全国より５．９ポイント多く、「１時間より少ない」は４７．５%で、全国とほぼ同じであるが、「全く勉強しない」は１４．０%で、全国より２．２ポイント多い。中学生は、「３時間以上」は１１．２%で、全国より４．２ポイント下回り、「１時間より少ない」は全国より４．１ポイント上回っている。

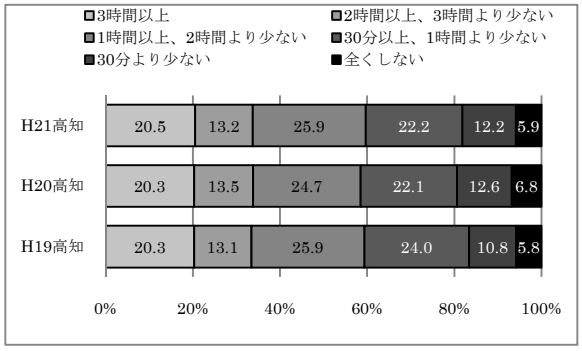
○　学習時間が長い小・中学生のほど、正答率が高い傾向が見られる。

■　学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか

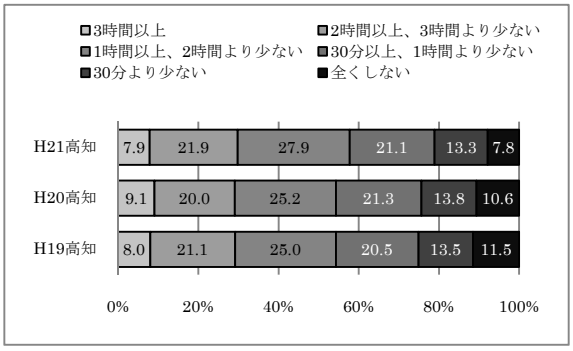
［児童生徒質問紙調査　質問１６］



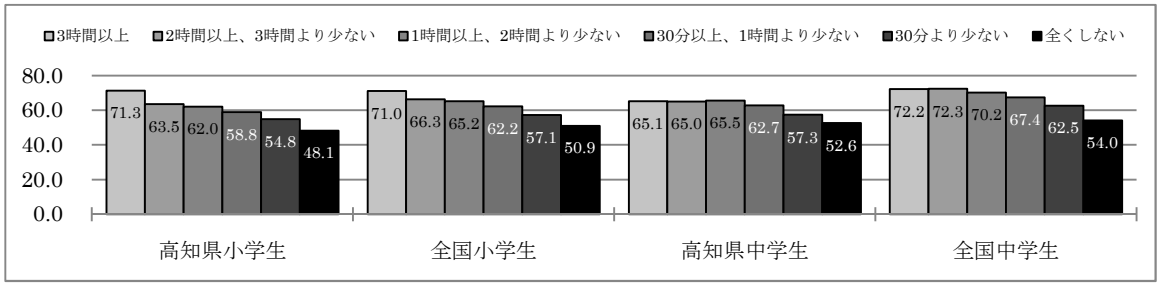
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】

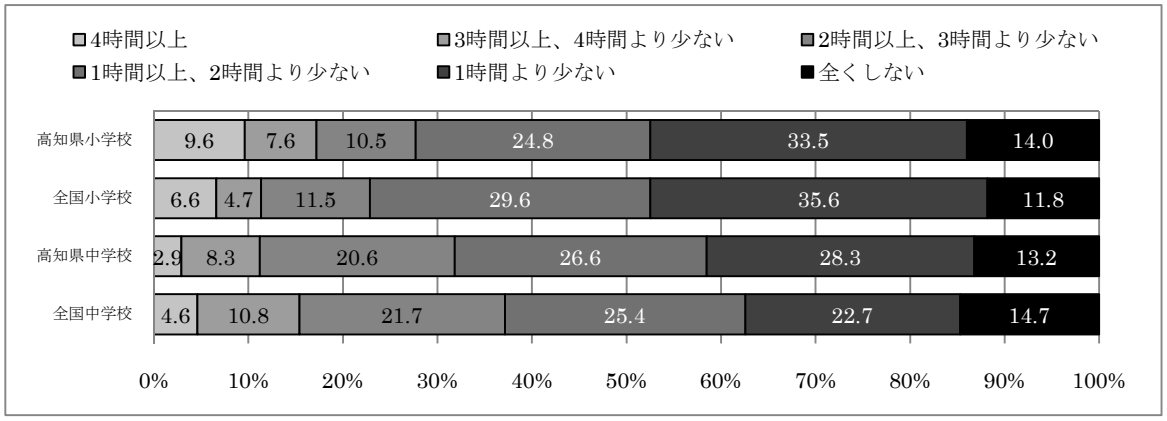


＜平均正答率との相関関係＞

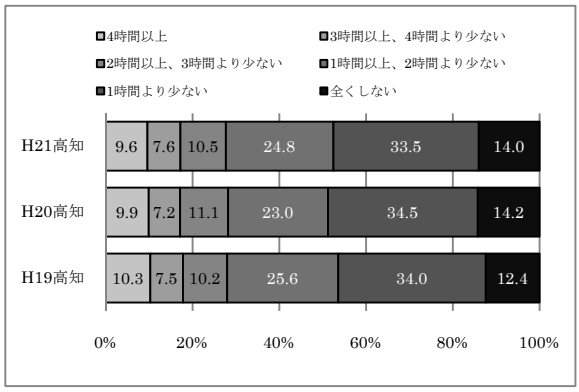


■　土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか

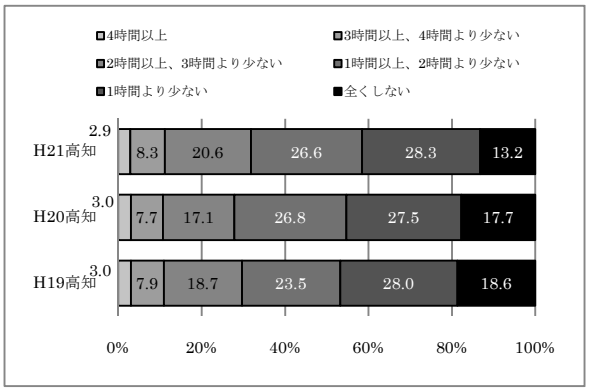
［児童生徒質問紙調査　質問１７］



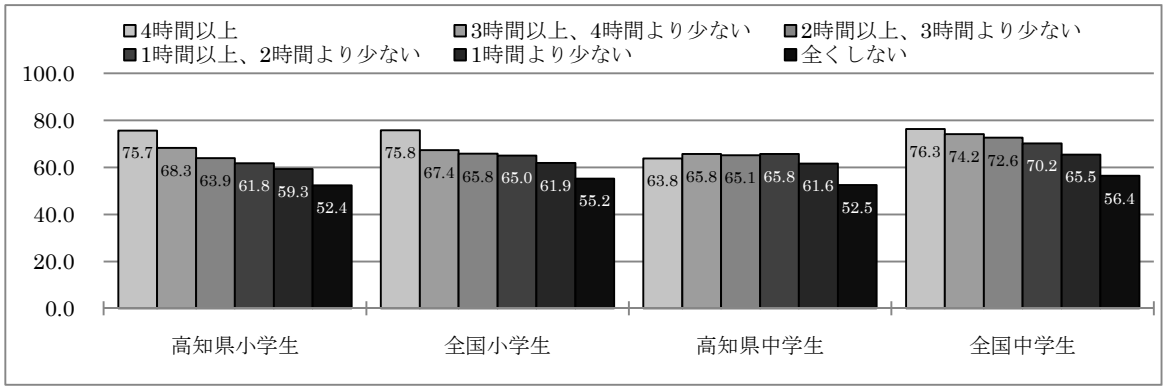
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞

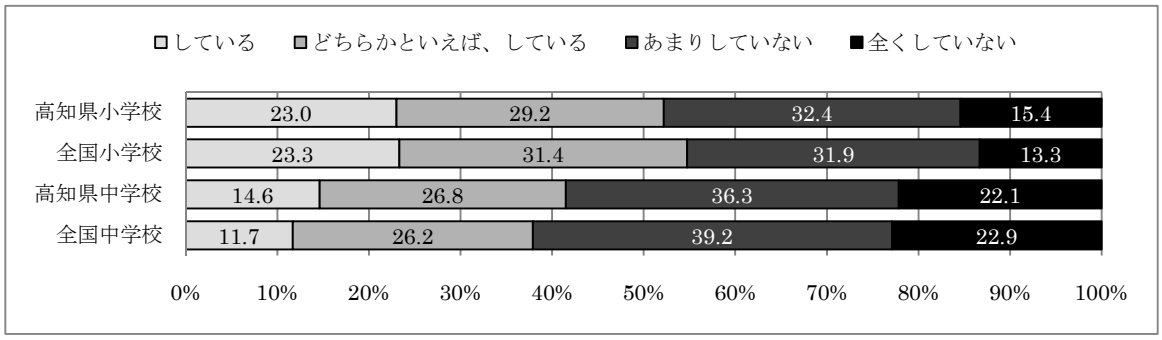


②　自分で計画を立てた勉強

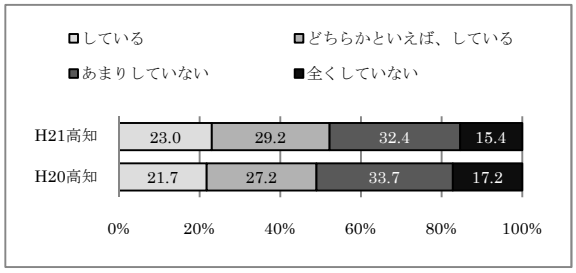
○　家で自分で計画を立てて勉強をしているに対する肯定群の小学生は、５２．２%で、全国より２．５ポイント下回り、中学生は、４１．４%で、全国より３．５ポイント上回っている。本県の２０年度に比べ、小学生は３．３ポイント、中学生は６．３ポイント増加している。

○　自分で計画を立てて勉強している小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

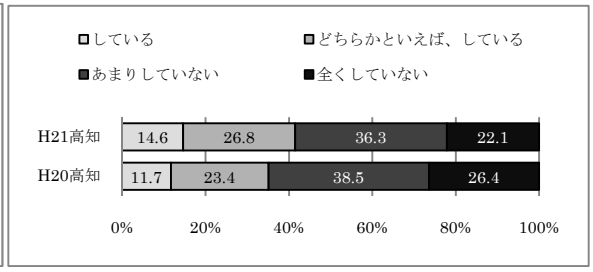
■　家で自分で計画を立てて勉強をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２６］



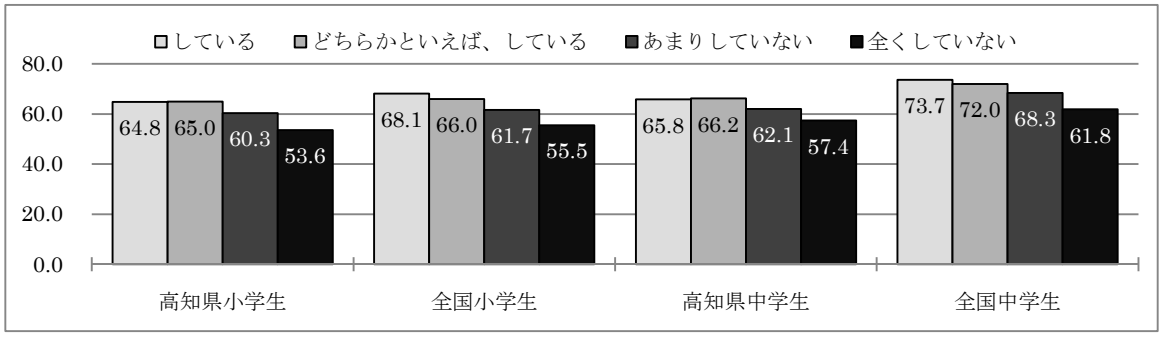
（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



＜平均正答率との相関関係＞

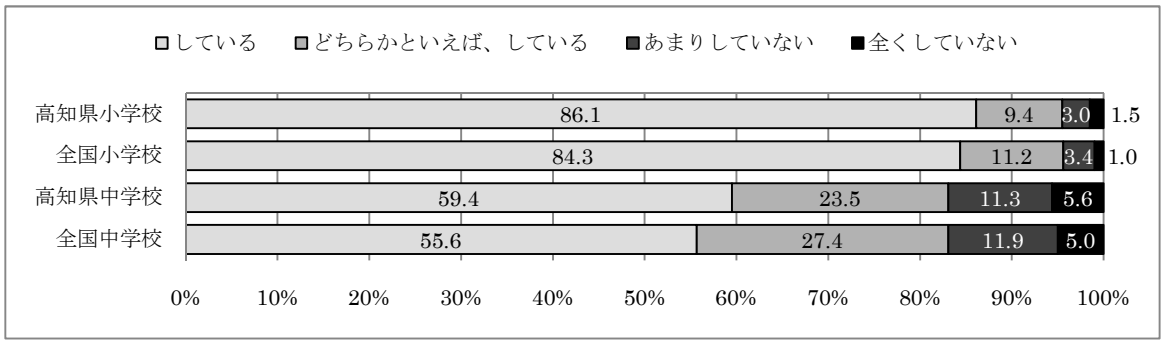


③　宿題

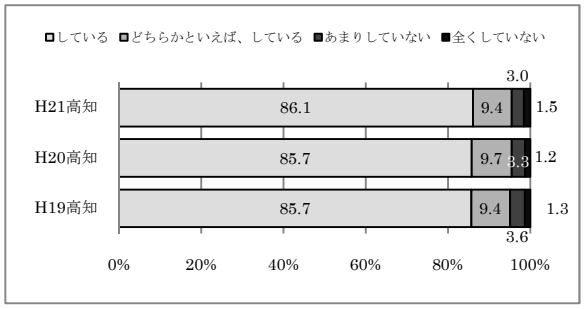
○　家庭での学習内容として、「宿題をしている」の肯定群は、小学生は９５．５％、中学生は８２．９％で、小・中学生とも全国とほぼ同じである。中学生は、本県の２０年度に比べ、８．０ポイント増加している。

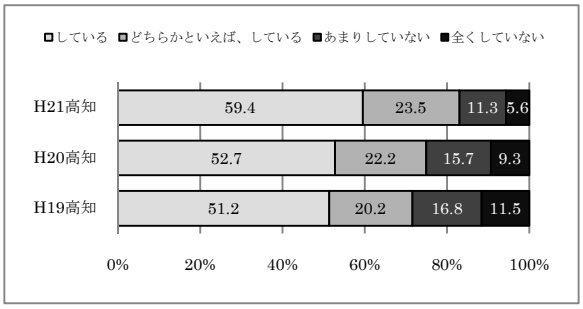
○　宿題をしている小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。

■　家で学校の宿題をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２７］

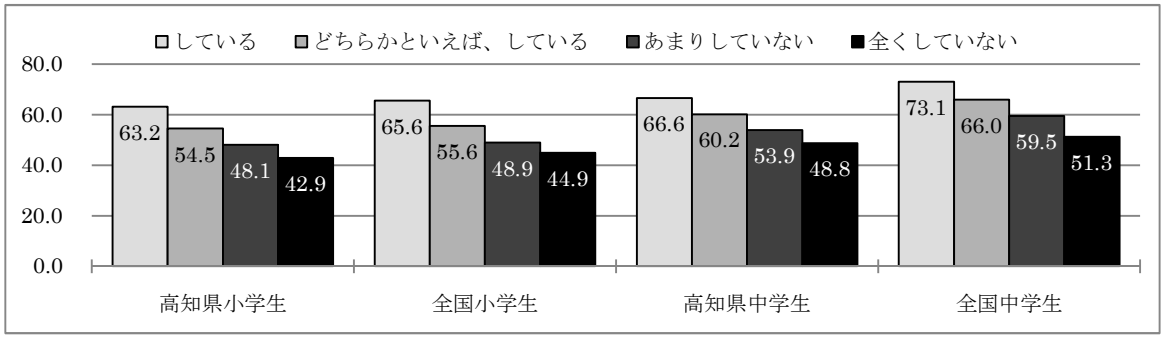


（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





＜平均正答率との相関関係＞



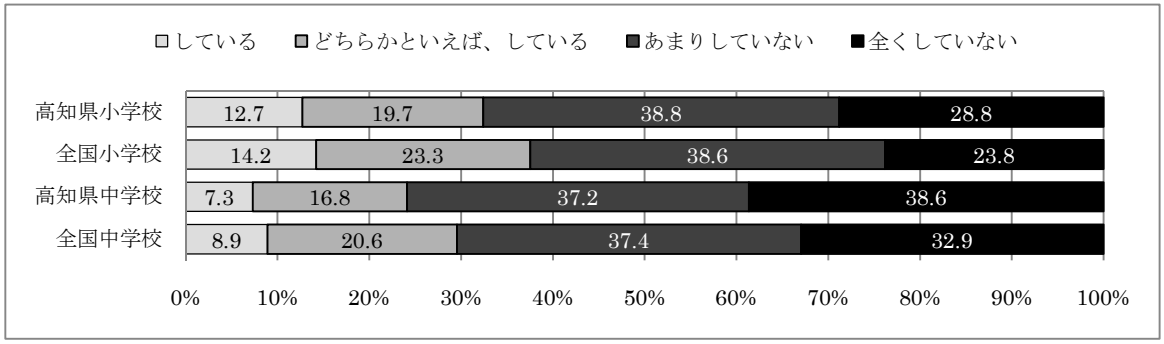
④　予習・復習等

○　小学生は、「授業の予習をしている」の肯定群は３２．４%、「授業の復習をしている」の肯定群は４０．６%「苦手な教科の勉強をしている」の肯定群は４２．８%で、それぞれ全国より５ポイント以上下回っているが、本県の２０年度に比べ、「予習」は、３．９ポイント、「復習」は２．８ポイント増加している。

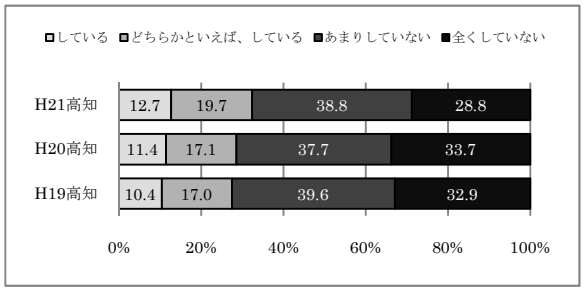
○　中学生は、「授業の予習をしている」の肯定群は２４．１%で、全国より５．４ポイント下回っているが、「授業の復習をしている」の肯定群は４９．３%で、全国より８．８ポイント上回り、「苦手な教科の勉強をしている」の肯定群は４４．７%で、全国より３．０ポイント上回っている。本県の２０年度に比べ、「予習」は２．１ポイント、「復習」は５．０ポイント増加している。

○　復習をしている小・中学生ほど、正答率が高い傾向が見られる。小学生と全国の中学生では、予習をしているほど正答率が高い傾向が見られる。

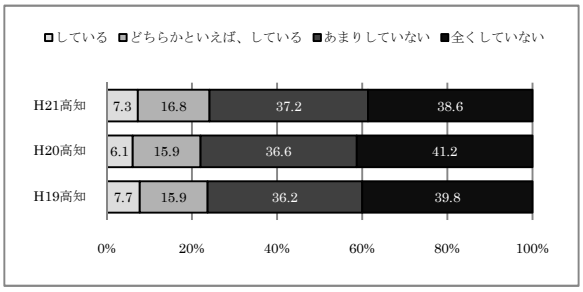
■　家で学校の授業の予習をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２８］



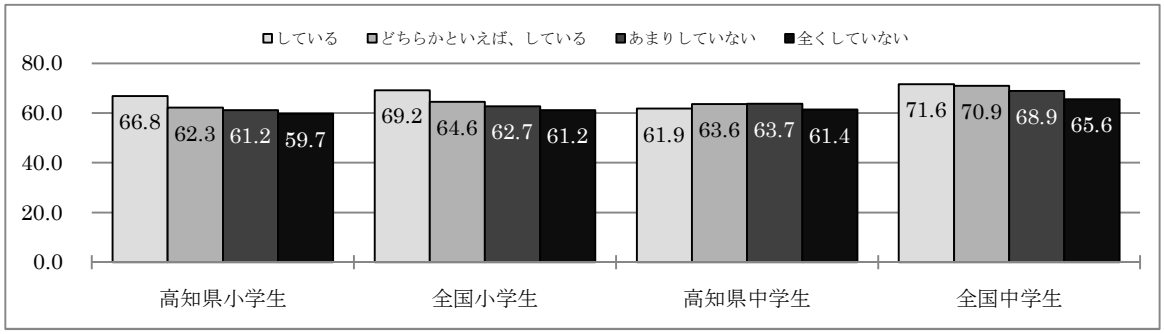
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



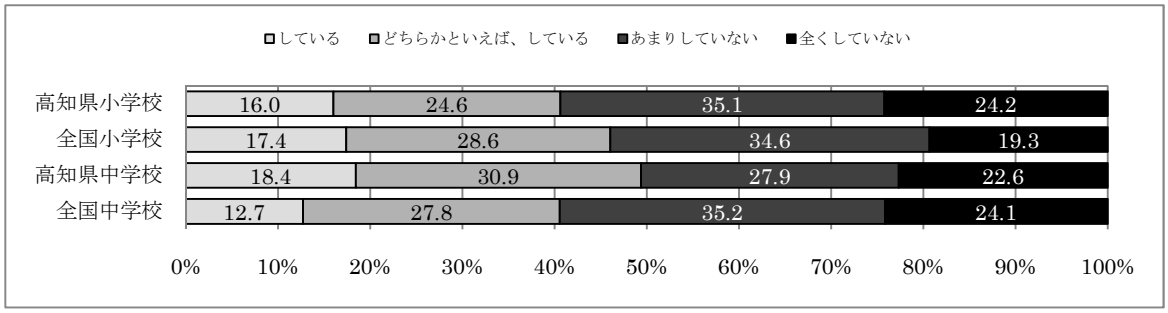
【中学校】



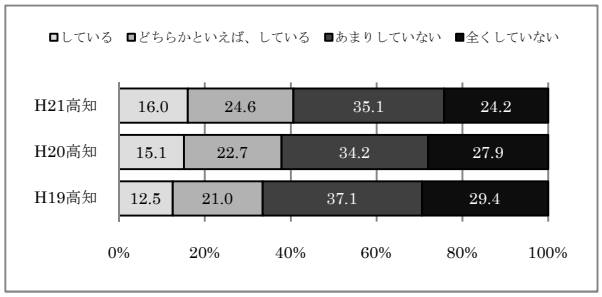
＜平均正答率との相関関係＞



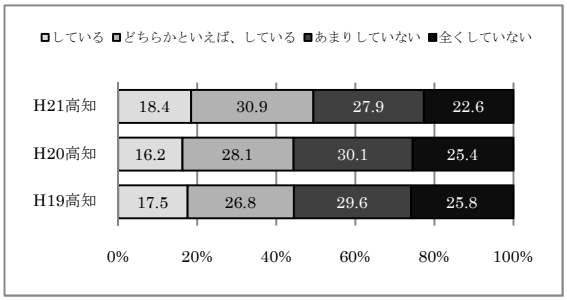
■　家で学校の授業の復習をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問２９］



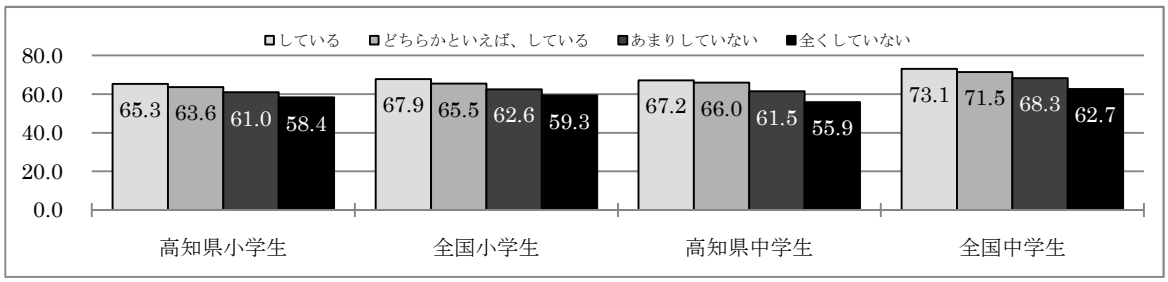
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



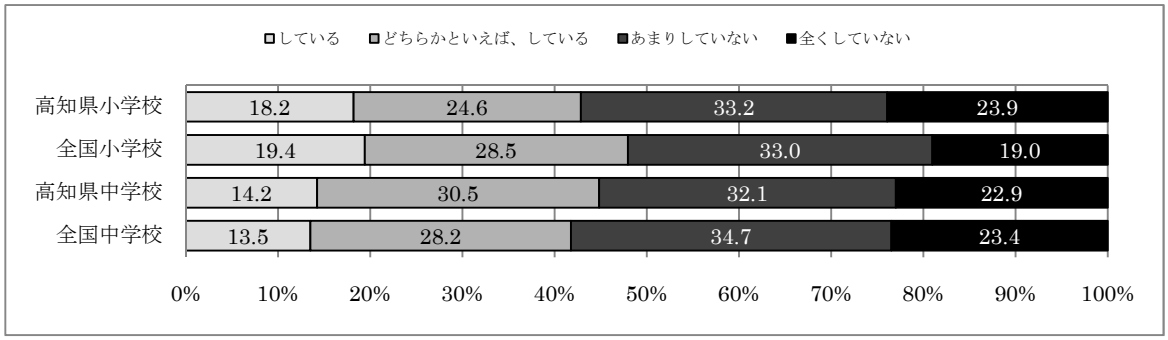
【中学校】



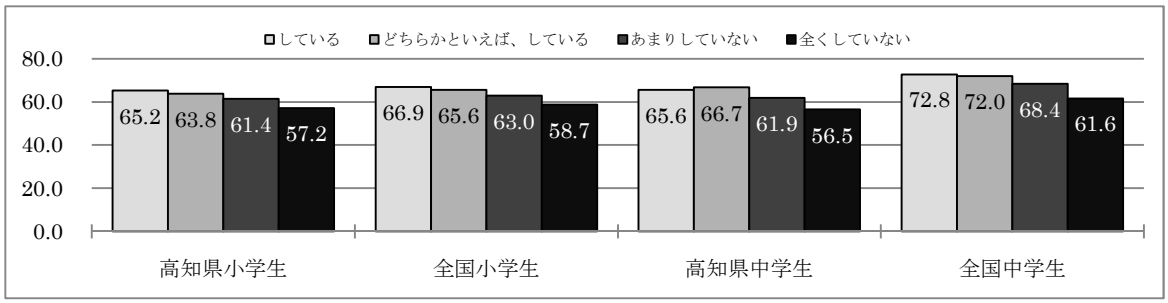
＜平均正答率との相関関係＞



■　家で苦手な教科の勉強をしていますか　　［児童生徒質問紙調査　質問３０］



＜平均正答率との相関関係＞



⑤　家庭学習の課題の与え方

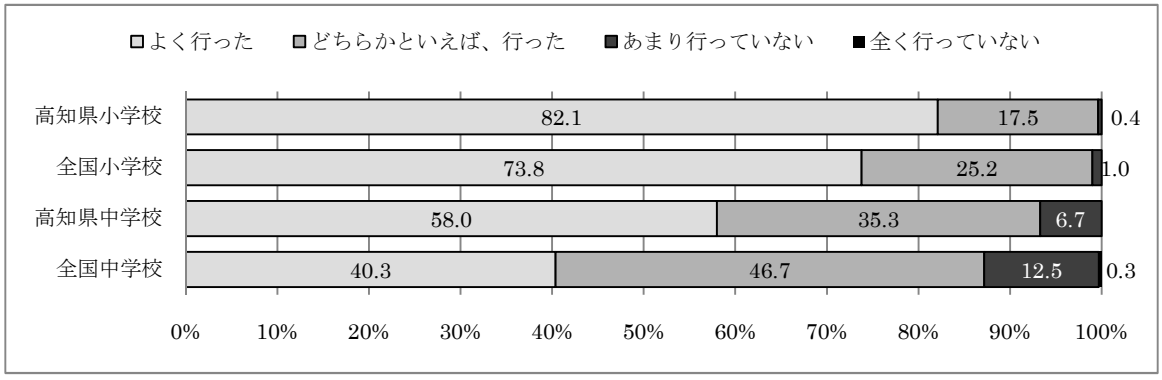
□　国語や算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたかに対する小学校の肯定群の割合は９９％をこえ、「よく行った」の割合も８０％をこえており、「よく行った」は１９年度から徐々に増加している。中学校の肯定群の割合は、国語は９３．３％で全国より６．３ポイント上回り、数学は８７．４％で全国より３．１ポイント下回っている。「よく行った」の割合は、国語は５８．０％、数学は４７．９％であるが、２０年度に比べ、国語は７．２ポイント、数学は４．６ポイント増加している。

□　国語や算数・数学の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますかに対する小・中学校とも肯定群の割合は、全国を１０ポイント以上上回っている。

□　国語や算数・数学の指導として、家庭学習の課題を与えましたか

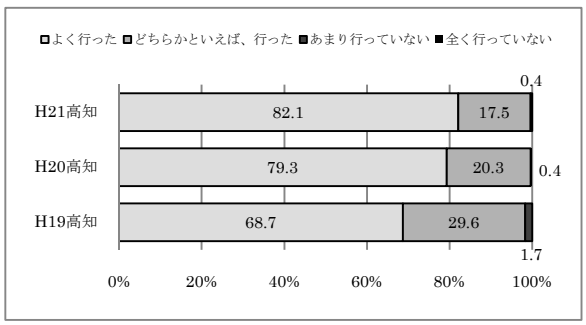
［学校質問紙調査（小）質問７６、８０　（中）質問７３、７７］

【国語】　（学校質問紙調査（小）質問７６　（中）質問７３）

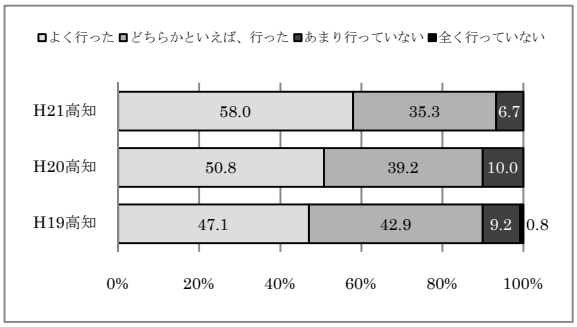


（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）

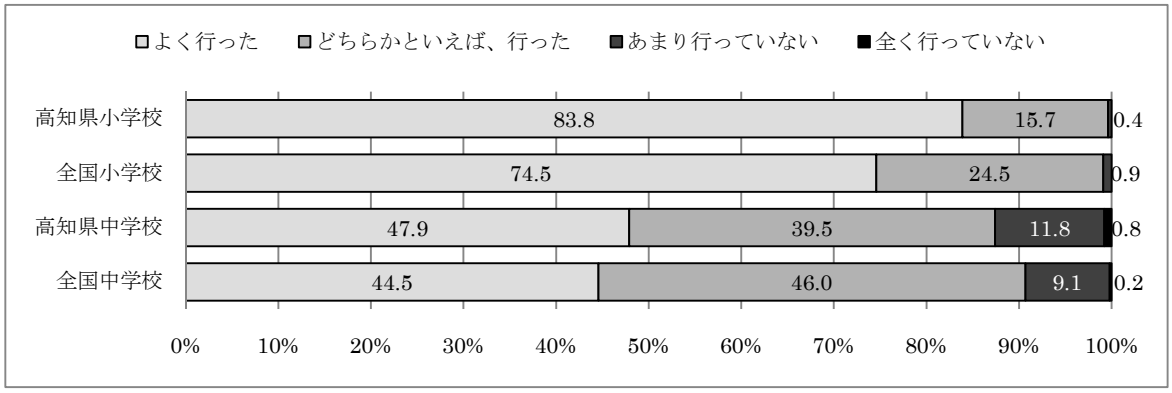
【小学校・国語】



【中学校・国語】

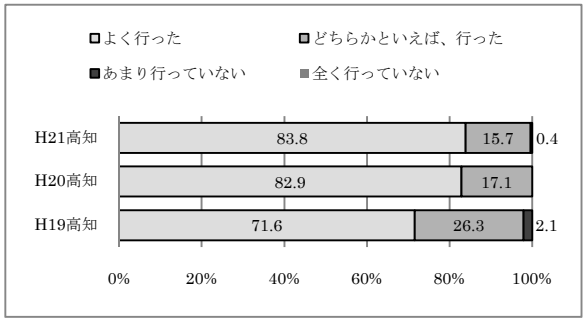


【算数・数学】　（学校質問紙調査（小）質問８０　（中）質問７７）

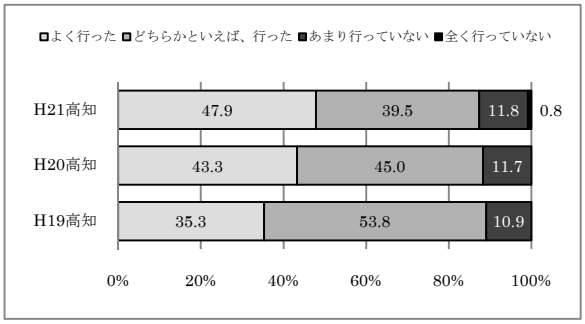


（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）

【小学校・算数】



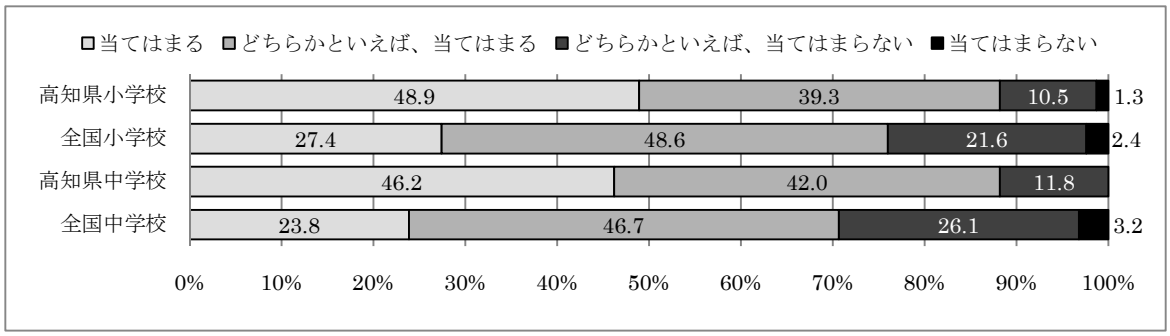
【中学校・数学】



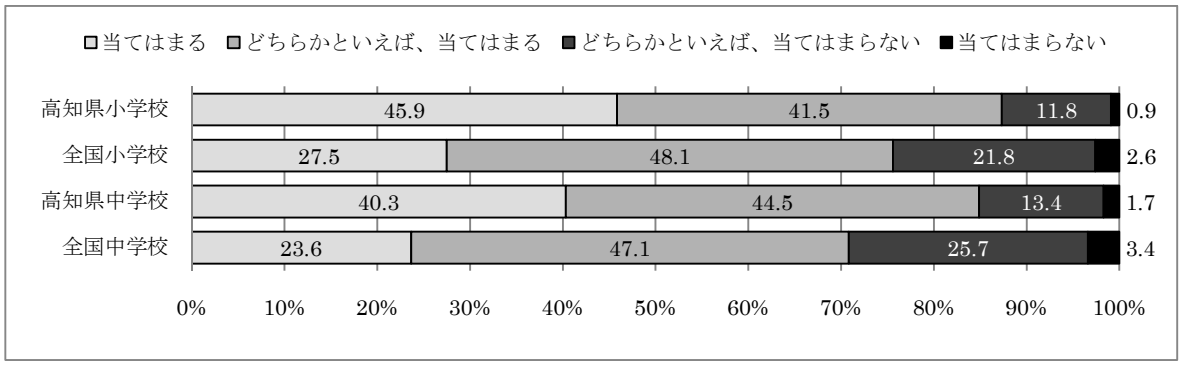
□　国語や算数・数学の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか

［学校質問紙調査（小）質問７８、８２　（中）質問７５、７９］

【国語】（学校質問紙調査（小）質問７８　（中）質問７５）



【算数・数学】（学校質問紙調査（小）質問８２　（中）質問７９）



⑥　家庭学習の評価・指導

□　国語や算数・数学の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について評価・指導を行いましたかに対する肯定群の小学校は国語、算数ともに９８．７％で、「よく行った」の割合も７２％をこえ、全国より１６．９ポイント上回っている。

　中学校の国語の肯定群は９１．６％で、全国より２．０ポイント下回り、本県の２０年度より４．３ポイント減少している、「よく行った」割合は５４．６％で、全国より６．２ポイント上回り、本県の２０年度より、５．４ポイント増加している。

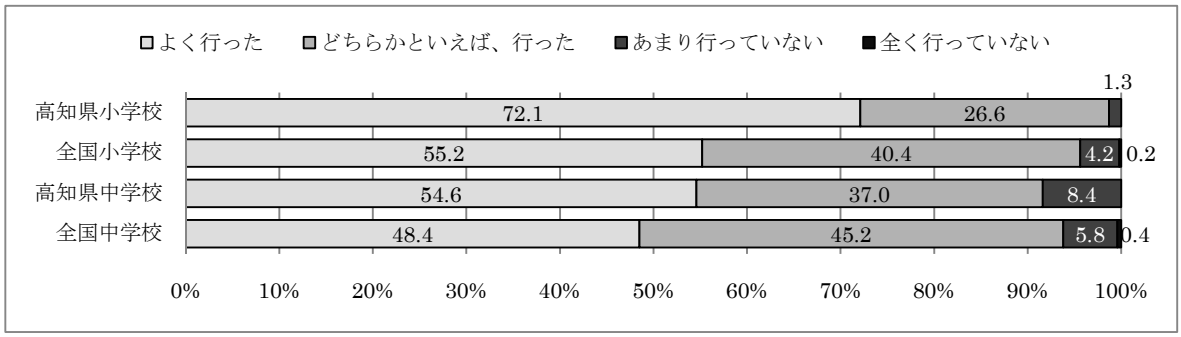
　中学校の数学の肯定群は９０．７％で、全国より２．２ポイント下回り、本県の２０年度より５．１ポイント減少しているが、「よく行った」割合は、５２．９％で、全国より６．２ポイント上回り、本県の２０年度より５．４ポイント増加している。

□　家庭学習の課題について、算数・数学において、評価・指導を行っている方に、正答率が高い傾向が見られる。

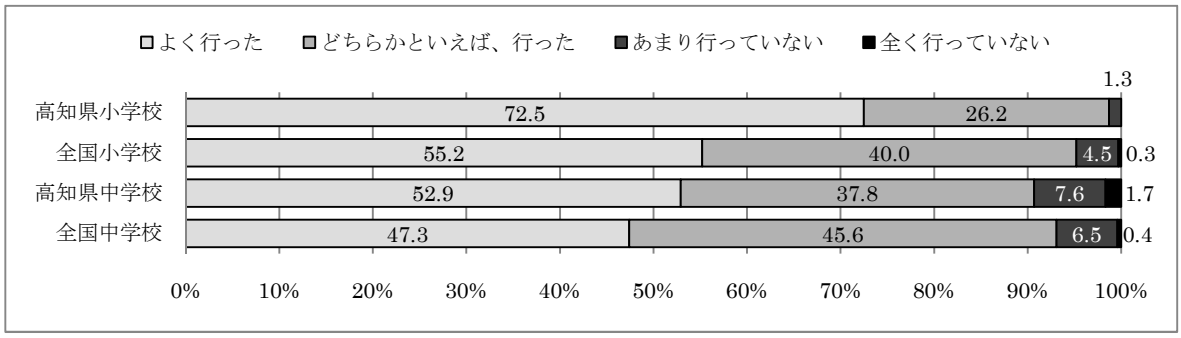
□　国語や算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか

［学校質問紙調査（小）質問７９、８３（中）質問７６、８０］

【国語】　（学校質問紙調査（小）質問７９　（中）質問７６）

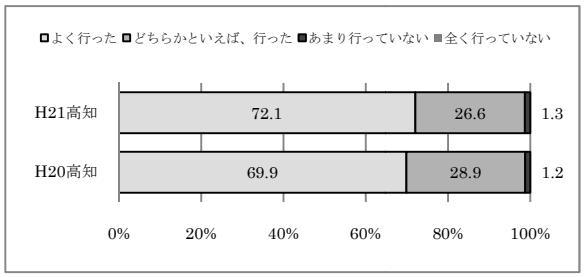


【算数・数学】　（学校質問紙調査（小）質問８３　（中）質問８０）

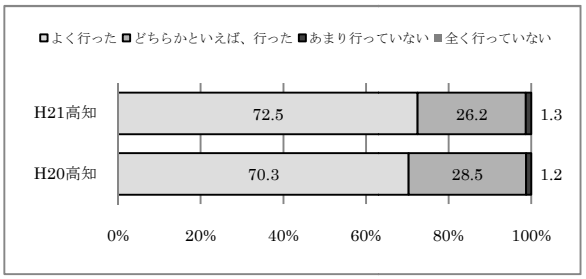


（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）

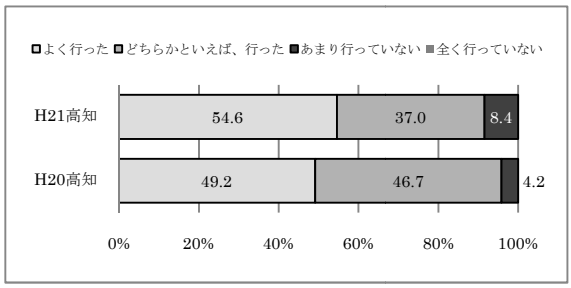
【小学校・国語】



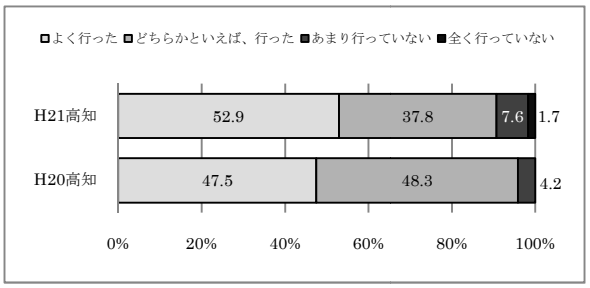
【小学校・算数】



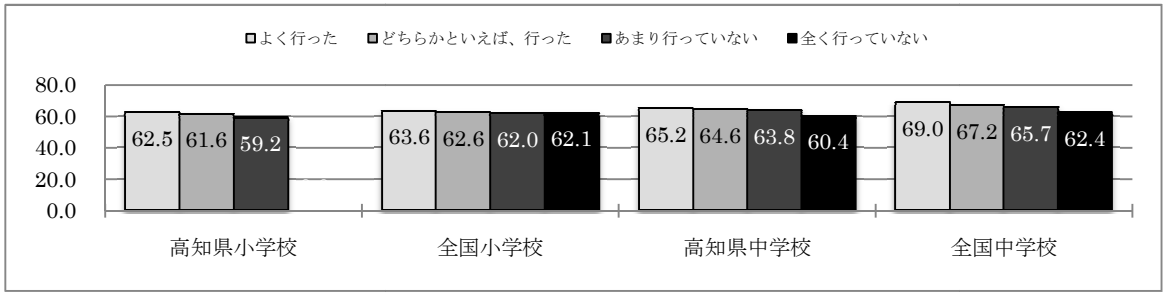
【中学校・国語】



【中学校・数学】



＜平均正答率との相関関係＞【算数・数学】



（２）調査結果の考察

①　成果

・中学生の、授業時間以外に全く勉強をしない生徒の割合は平成２０年度に比べ、減少しており、各中学校が家庭学習の習慣化に向けて取組を行った成果と考えられる。

・宿題をしている中学生、自分で計画を立てた勉強や予習や復習をしている小・中学生の割合が増えてきており、家庭学習の習慣が身に付きはじめていると考えられる。

・国語や算数・数学において、家庭学習の課題（宿題）を与える学校の割合が増えていることや、家庭学習の課題の与え方について校内の共通理解を図っている学校の割合が高いことなどから、家庭学習の習慣化に向けた取組を組織的に行う学校が増えてきたと推測できる。

② 課題

◇ 小学生

・授業時間以外の１日あたりの学習時間が３時間以上の割合は、平日は２０．５%、休日は１７．２%で、全国より上回っているが、１時間未満の割合は、平日が４０．３%、休日が４７．５%、全く勉強しない割合は、平日が５．９%、休日は１４．０%で、全くしない割合も全国よりやや多く、学習時間に二極化の傾向が見られる。

・宿題は、よくやっているが、自分で計画を立てての学習や、授業の予習・復習といった自分で考えて学習している割合は、全国より下回っている。

◇ 中学生

・授業時間以外の１日あたりの学習時間で、全く勉強しない割合は平成２０年度より減少しているが、平日７．８%、休日１３．２%の中学生が全く勉強していない。１時間未満の割合は、平日が４２．２%で、全国より７．６ポイント上回り、休日は４１．５%で、全国より４．１ポイント上回っており、全体として学習時間が全国より少ない。

・授業の予習をしている割合が低く、本県の中学生のみ、予習が正答率にあまり反映していないことから、予習の仕方や授業とのリンクのさせ方などを見直す必要がある。

◇ 学校

・中学校において、国語や数学の家庭学習の評価・指導について「よく行った」と回答する学校の割合は増加しているが、肯定群全体の割合は、本県の平成２０年度より減少しているため、各学校に取組の差が生じつつあるのではないかと危惧される。

（４）今後の取組

◇ 学校では

・各学校が作成する学校改善プランに家庭学習の取組を明確に位置付け、職員間で共通理解を図り、学年や教科の間での連携を確実に行って取り組む。あわせて、小・中学校で連携し、児童生徒の状況を共通確認して取り組むようにする。

・家庭学習の習慣を付けるため、宿題の質と量を充実させる。その際、児童生徒が自ら考えて学習できるようになるよう、家庭学習の内容を工夫するとともに、学習の仕方を指導して、予習や復習などを自分で計画を立てて学習できるようにする。

・授業と家庭学習のサイクル化を図り、児童生徒が学習の見通しをもつことができるようにする。

・家庭学習の内容や方法等について保護者にも周知し、家庭への協力も積極的に要請する。その際、小・中学校が連携し、小・中学校と保護者が共通理解をして取り組むようにする。

◇ 家庭では

・学習できる環境づくりや、基本的な生活習慣を身に付けさせることを大切にし、１日の中

に確実に学習ができる時間を設けるなど、家庭で学習する習慣を身に付けさせるようにする。

基本的生活習慣
P.67

・学校のことなどについて子どもの話を聞く場を設けるよう心がけたり、ニュースなどの話題について一緒に考えたりするなどして、学習に対する意欲をもたせるように心がける。

◇　教育委員会では

「高知県教育振興基本計画」、『学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン【改訂版】～「学力向上・いじめ問題等対策計画」～』に基づき、教育の質の向上、家庭や地域の教育力を向上させるために具体的な取組の充実を図る。

・各学校の「学力向上のための学校改善プラン」が着実に実行されるよう、指導・助言する。
・授業と関連付けた宿題や、予習・授業・復習のサイクルが自然に成り立つような授業づくりについて指導・助言する。
・算数・数学定着事業等により、家庭学習でも活用できる教材を提供する。
・放課後や週末などの学校に積極的にかかわって支援するとともに、地域の教育施設や環境を整えて、学校と家庭をつなぐ働きかけをする。

５　読書、学校図書館、ＩＣＴに関する内容

（１）調査結果

①　読書生活

○　平日に、家や図書館で３０分以上読書をする小学生は３４．０%、中学生は２６．０%で全国とほぼ同じである。

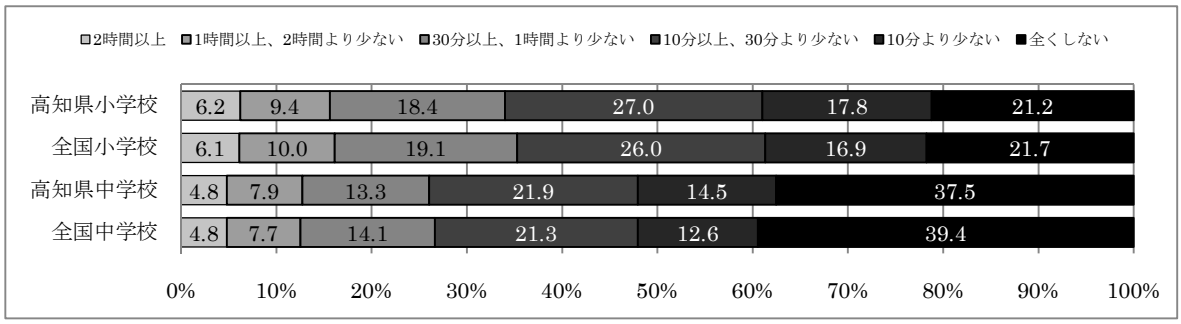
○　昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に月に１回程度以上行く小学生は４５．３%、中学生は１９．５%で、全国とほぼ同じである。

○　読書が好きに対する肯定群の小学生は７６．１%、中学生は７０．４%で、全国より３ポイント以上上回っている。

○　読書が好きな小・中学生ほど正答率が高い傾向が見られる。

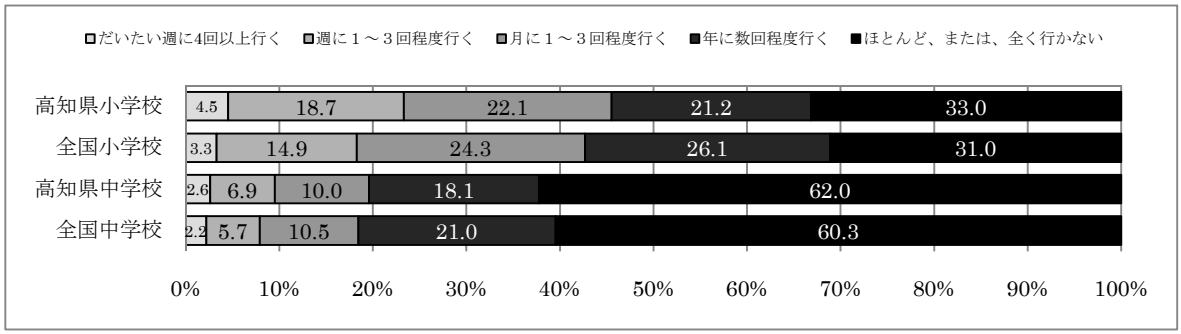
■　家や図書館で、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

［児童生徒質問紙調査　質問１９］



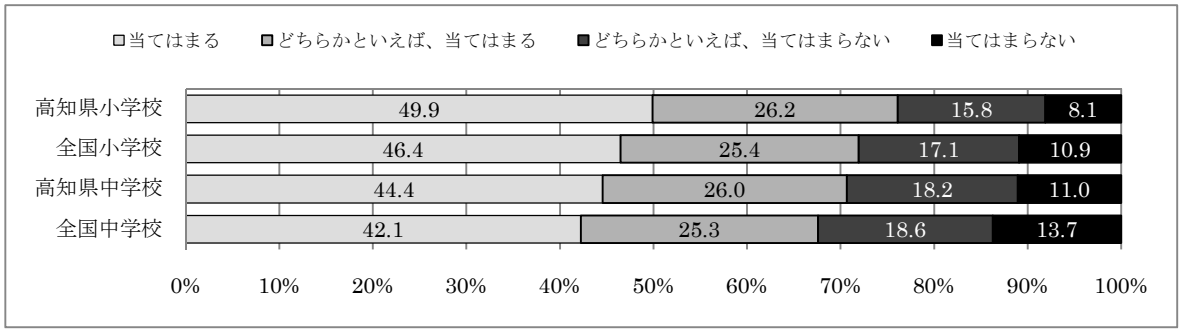
■　昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか

［児童生徒質問紙調査　質問２０］

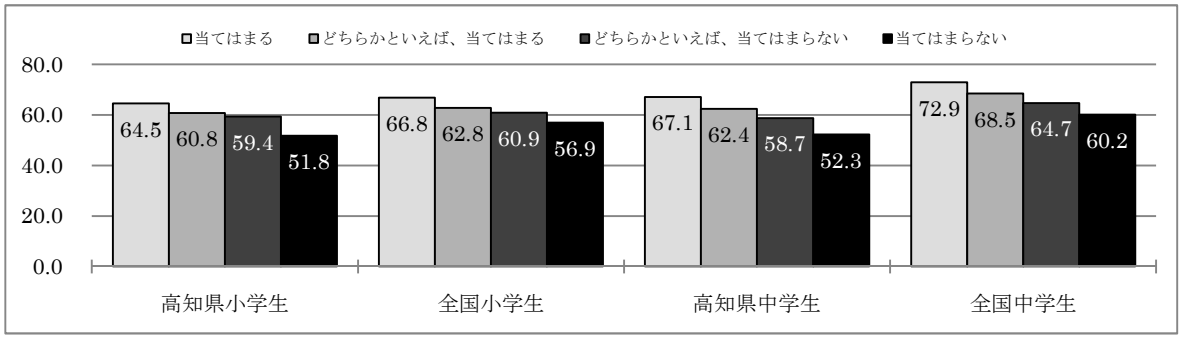


■　読書は好きですか

［児童生徒質問紙調査　質問５５］



＜平均正答率との相関関係＞

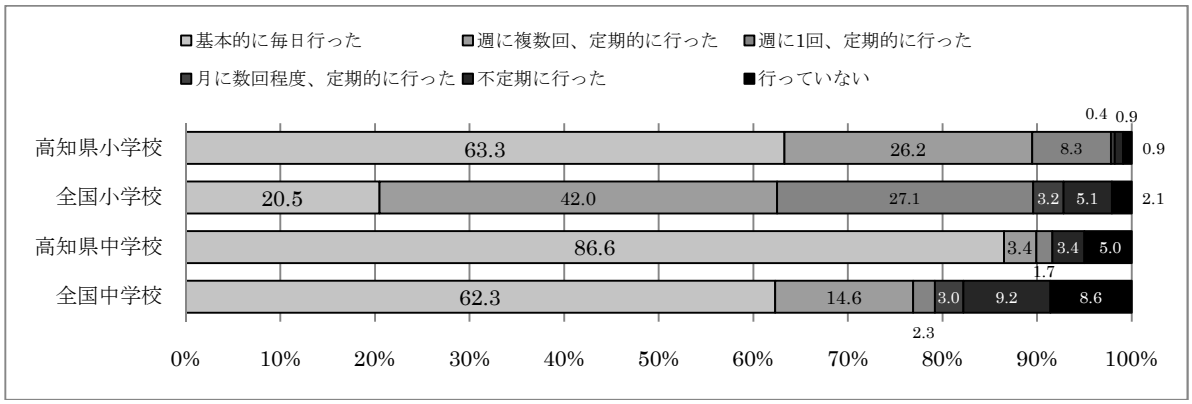


② 読書や学校図書館に関する学校の取組

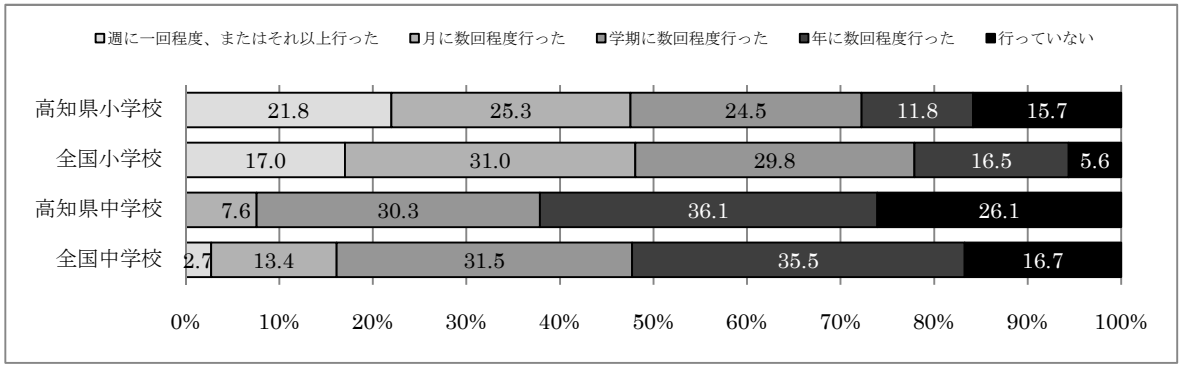
□ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を、週に複数回以上行っている小学校は８９．５%で、全国より２７．０ポイント上回り、中学校は９０．０%で全国より１３．１ポイント上回っている。毎日行っている小学校は６３．３%、中学校は８６．６%である。

□ 学校図書館を活用した授業を計画的に月に数回程度以上行った小学校は４７．１%で全国とほぼ同じであり、中学校は７．６%で全国より８．５ポイント下回っている。学期に数回程度以上行った小学校は７１．６%で全国より６．２ポイント下回り、中学校は３７．９%で、全国より９．７ポイント下回っている。

□ 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか　［学校質問紙調査（小）質問２３　（中）質問２３］



□ 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか　［学校質問紙調査（小）質問２４　（中）質問２４］

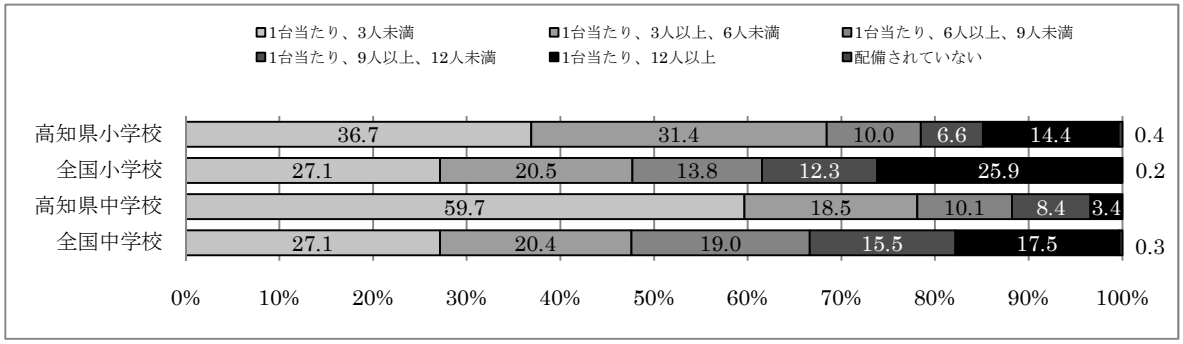


③　コンピュータの設置状況

□　教育用コンピュータ１台当たり３人未満の児童生徒数の学校は、小学校は３６・７％で全国より９．６ポイント上回り、中学校は５９．７％で全国より３２．６ポイント上回っている。

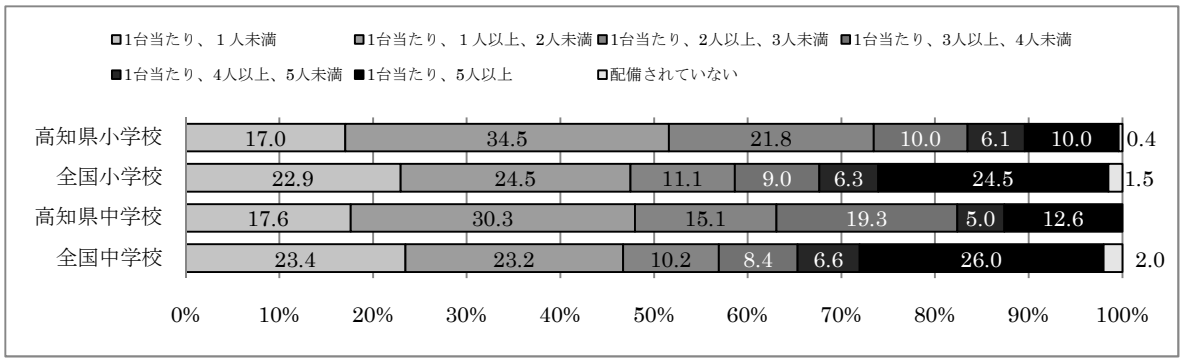
□　職員用コンピュータ１台当たり２人未満の使用の学校は、小学校は５１．５％で全国より４．１ポイント上回っており、中学校は４７．９％で全国とほぼ同じである。

■　学校の教育用コンピュータ※１台当たりの児童・生徒数　　［学校質問紙調査（小）質問１７　（中）質問１７］



※事務・管理・校務処理以外の教育目的に使用するコンピュータ

■　学校の職員用コンピュータ１台当たりの職員数（事務職員は除く）
［学校質問紙調査（小）質問１８　（中）質問１８］



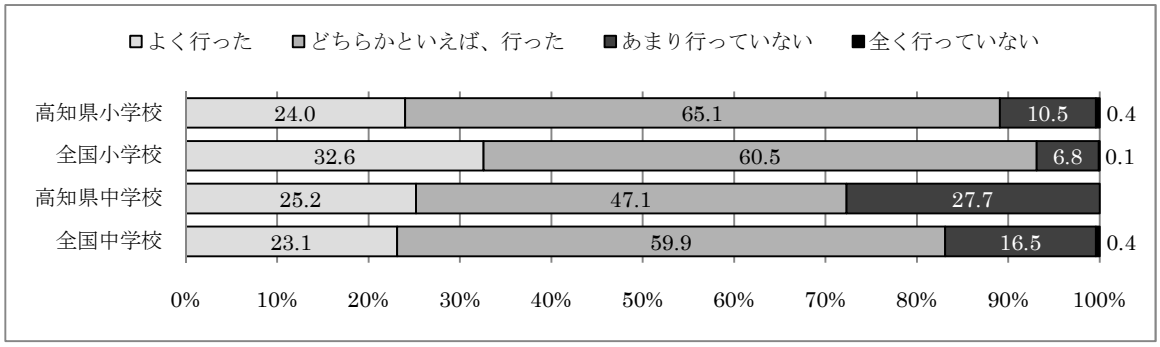
④　コンピュータの教科等の指導における活用

□　児童生徒に対して、本やインターネットなどを使って資料の調べ方を指導しているに対する肯定群の小学校は８９．１％で、全国より４ポイント下回り、中学校は７２．３％で、全国より１０．７ポイント下回っている。

□　国語や算数・数学の指導として、普通教室でのインターネットを活用した授業の実施状況の割合は、小・中学校ともほぼ全国と同じ傾向である。「ほとんど、または全く行っていない」学校の割合は、小学校は６０％をこえ、中学校は８０％をこえており、小学校より中学校が２０ポイントほど上回っている。

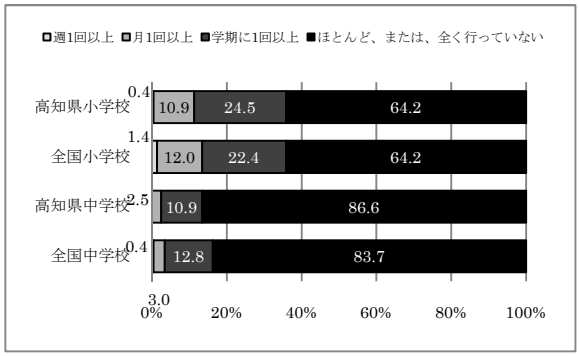
□　国語や算数・数学の指導として、教員がコンピュータ等を使って、デジタル教材を活用するなどの工夫を行った授業を「ほとんど、または全く行っていない」学校の割合は、小学校は３８．４％（国語）、４７．６％（算数）で、全国より１０ポイント以上上回り、中学校は５９．７％（国語）、５８．８％（数学）で、全国より７ポイント以上上回っている。

□　児童・生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導していますか
［学校質問紙調査（小）質問３４　（中）質問３４］

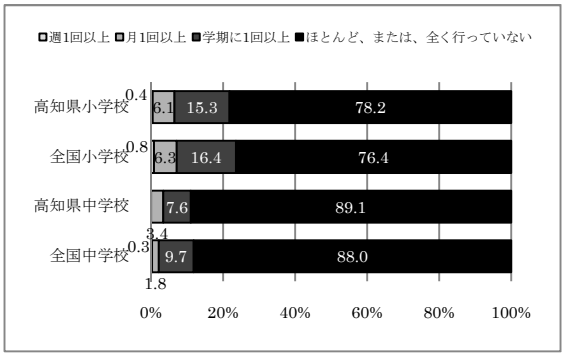


□　国語や算数・数学の指導として、普通教室でのインターネットを活用した授業を行っていますか

【国語】［学校質問紙調査　（小）質問３８（中）質問３８］

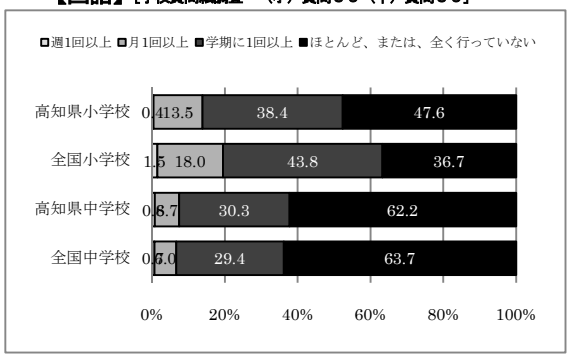


【算数・数学】［学校質問紙調査　（小）質問４１（中）質問４１］

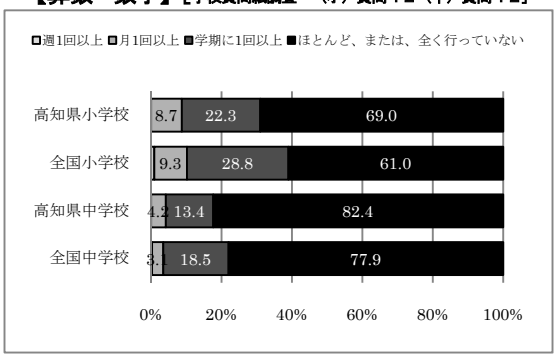


□　国語や算数・数学の指導として、発表や自分の考えを整理する際に、児童・生徒がコンピュータを使う学習活動を行っていますか

【国語】［学校質問紙調査　（小）質問３９（中）質問３９］

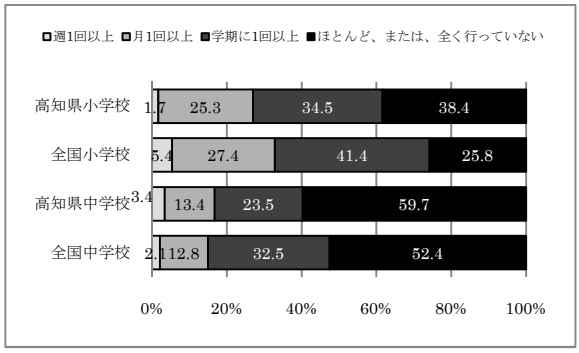


【算数・数学】［学校質問紙調査　（小）質問４２（中）質問４２］

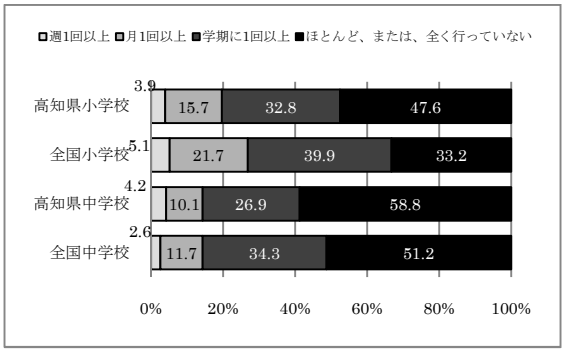


□　国語や算数・数学の指導として、教員がコンピュータ等を使って、資料等を拡大表示したり、デジタル教材を活用するなどの工夫をしていますか

【国語】［学校質問紙調査　（小）質問４０（中）質問４０］



【算数・数学】［学校質問紙調査　（小）質問４３（中）質問４３］



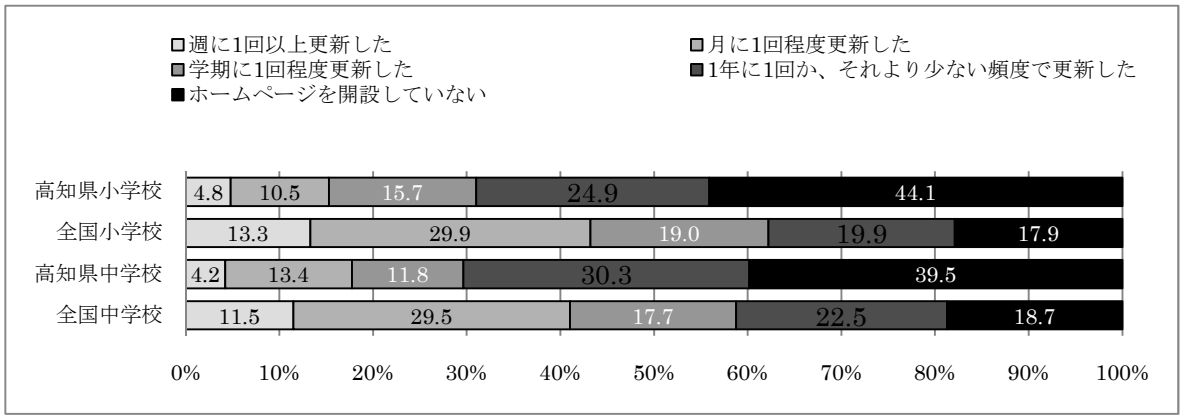
⑤　ホームページによる情報提供

□　ホームページを開設していない学校の割合は、小学校は４４．１%、中学校は３９．５%あり、小学校は、全国より２６．２ポイント上回り、中学校は全国より２０．８ポイント上回っている。

□　ホームページによる学校の教育活動の情報提供について、更新回数が「週１回以上」と「月１回程度」の学校を合わせた割合は、小学校は１５．３%、中学校は１７．６%である。

■　学校の教育活動の情報について、前年度にどのくらいの頻度でホームページを更新し、情報提供を行いましたか。

［学校質問紙調査　（小）質問８６　　（中）質問　８３］



（２）調査結果の考察

《読書、学校図書館》

①　成果

・読書が好きな小・中学生の割合は、平成１９年度から７０%以上に定着しており、「朝の読書」等の一斉読書の時間の実施率の高さなどの成果と考えられる。

②　課題

◇　学校

・昼休みや放課後に学校図書館を活用する小・中学生が少ないことから、図書資料の充実や、使いやすい学校図書館になっているかなどについて、検討する必要がある。

・「朝の読書」などの一斉読書の時間の実施率に比べ、授業における学校図書館の計画的な活用は低い。学校図書館の学習・情報センターとしての機能を充実させ、授業で効果的に学校図書館を活用することで、学習を充実させるとともに、多様な読書への関心を高める必要がある。

授業 P.116

《ＩＣＴ》

① 成果

・国語、算数・数学の授業におけるインターネットの活用は、あまり活発には行われていないが、活用頻度については、平成２０年度に比べ、小・中学校とも増えており、教職員の意識の高まりがうかがわれる。特に、小学校では、国語・算数とも学期に１回以上の活用が７．３ポイント伸びている。

② 課題

・児童生徒の教育用コンピュータの設置状況は、全国を上回り、環境整備は整っているものの、小・中学校ともに授業で十分に活用されていない状況にある。

・ホームページを活用した情報提供が、小・中学校とも弱い。また、ホームページを開設していない小・中学校が全国より２０ポイント以上高く、学校の教育活動を効果的に情報発信するための仕組みづくりが必要である。

地域との連携 P.131

（３）今後の取組

《読書、学校図書館》

◇ 学校では

・読書センター、学習・情報センター等の機能を充実させ、意図的、計画的な読書指導、授業における学校図書館の活用などを進める。

・学校図書館の開館時間を工夫するなど、小・中学生が利用しやすい学校図書館にする。

・読書ボランティアなど、地域の人材の活用を工夫し、小・中学生に、本との多様な出会いをうながすよう、学校図書館経営を充実する。

◇ 家庭では

・基本的生活習慣を確立し、家庭で読書をする時間を確保したり、子どもと一緒に読書をする時間をつくったりするなど、子どもの生活に読書が位置付くよう工夫する。

・地域の図書館等を活用し、子どもの身近なところに本がある環境を整える。

◇ 地域では

・地域の図書館の図書資料を充実したり、子どもと図書館をつなぐ企画を行ったりするなど、子どもの身近なところに本がある環境を整える。

《ＩＣＴ》

◇ 学校では

・学校全体でＩＣＴの活用が効果的に行われるよう、校内研修で継続した取組を進める。

・ＩＣＴ活用指導力などの研修に積極的に参加できるよう校内体制を整える。

◇ 教育委員会では

・教職員や学校の実態に応じた実践的な研修を実施する。

・教育の情報化、校務の情報化が一層図られるよう、校務用ＩＣＴ環境の整備を進める。

◇　今後の取組に関する事業では

・ＩＣＴ活用指導力向上研修

ＩＣＴ活用指導力の向上を目指す教員を対象として、集合研修を夏季休業中に実施する。平成２１年度は小学校、平成２２年度は中学校、平成２３年度は高等学校を対象とする。

・e - ラーニング型研修「ＩＣＴスキルアップオンライン」

授業での教材づくりやＩＣＴ指導力の向上のため、受講者が自分の生活に合った研修時間を設定し、インターネットを活用しながら自分のペースでＩＣＴスキルアップに取り組むe - ラーニング研修を実施する。

・ＩＣＴの環境整備に対応する支援

市町村（学校組合）教育委員会が進めるＩＣＴ環境整備や各学校のホームページ開設に対応する支援を行う。電子黒板やコンピュータなどＩＣＴ機器に関する様々な問題解決のための電話対応を行う「学校ヘルプデスク」を設置し、ＩＣＴ機器の活用支援を行う。

６　授業・学習サポート等に関する内容

（１）調査結果

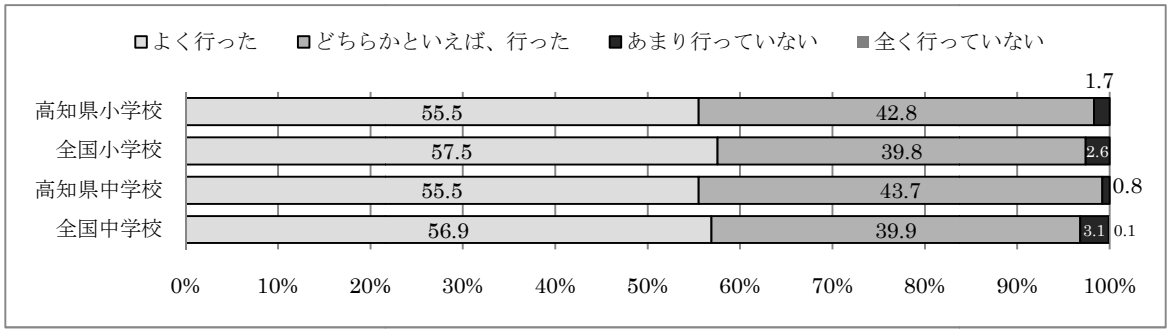
①　学習規律、学習方法の指導

□　学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底しているに対する肯定群は、小・中学校とも１００％に近くなっている。中学校は「よく行った」割合が５５．５％で、２０年度に比べ６．３ポイント増加している。

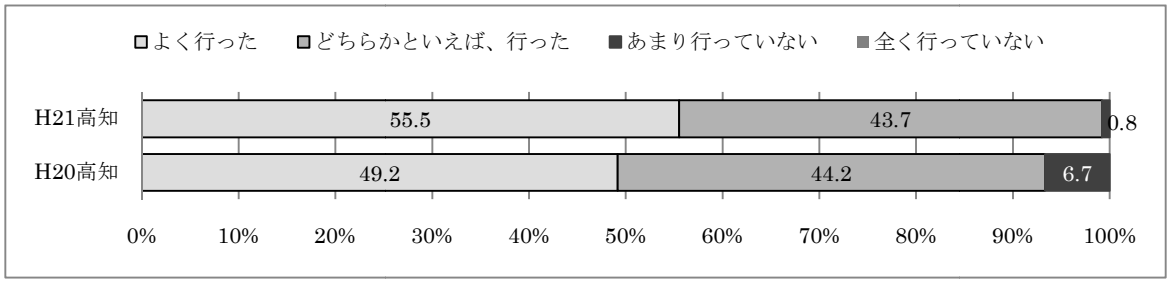
□　学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしているに対する肯定群は、小・中学校とも９５％をこえているが、「よく行った」は、小学校は５４．６％、中学校は４３．７％である。中学校は「よく行った」が、２０年度に比べ２．９ポイント高くなった。

□　学習規律や学習方法の指導を行っている学校に正答率が高い傾向が見られる。

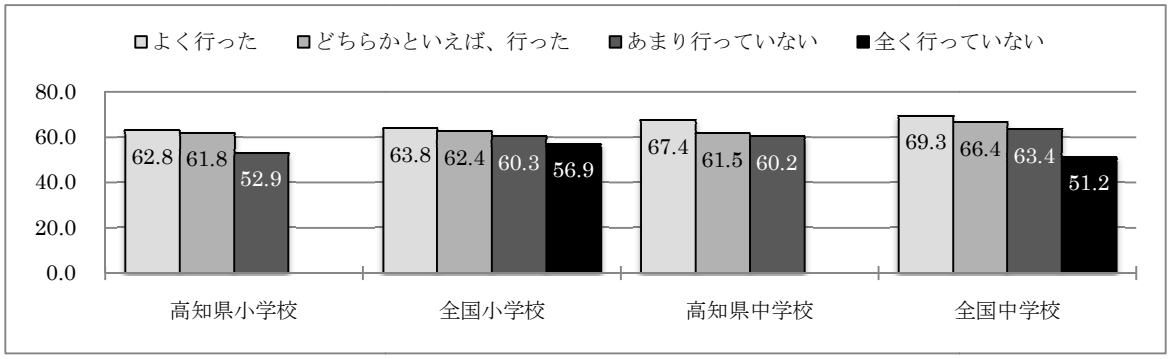
□　学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底していますか　　［学校質問紙調査　（小）質問３１　（中）質問３１］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【中学校】



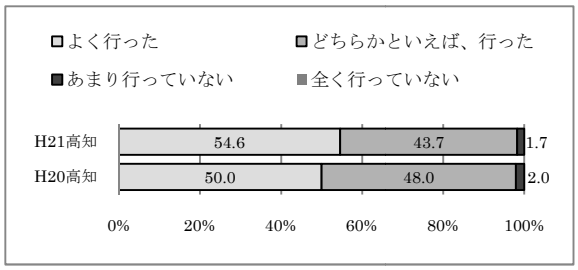
＜平均正答率との相関関係＞

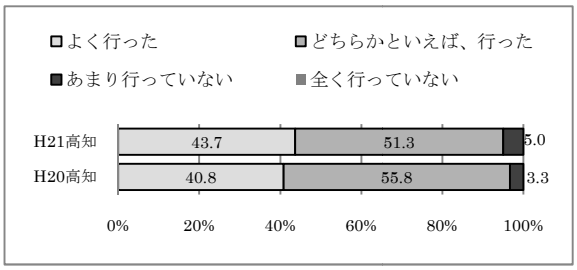


□　学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしていますか

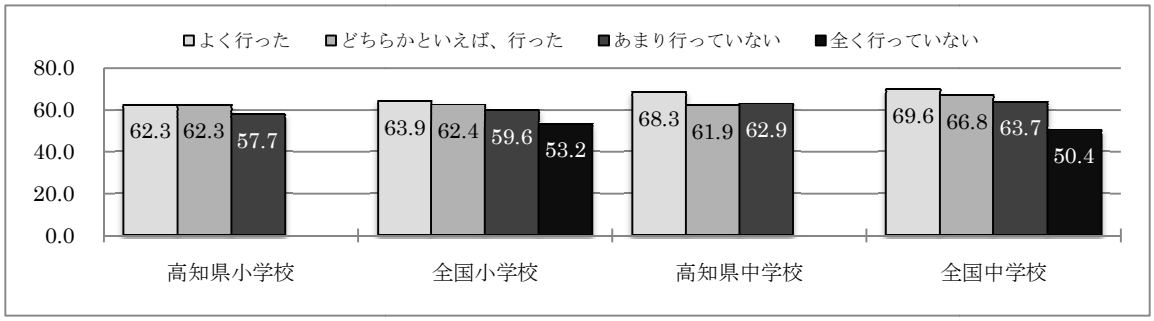
［学校質問紙調査　（小）質問３２　（中）質問３２］

（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





＜平均正答率との相関関係＞



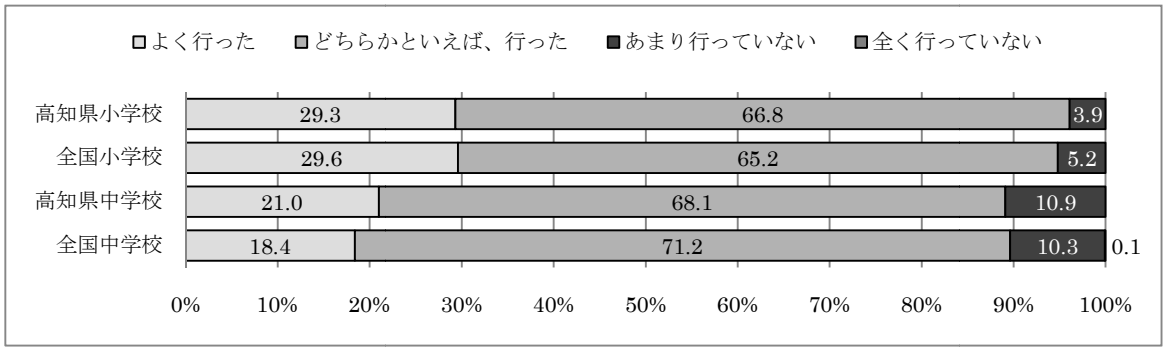
②　様々な考えや思考を深めたりする発問や指導

□　児童生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしているに対する肯定群の小学校は９６．１%、中学校は８９．１%で、全国とほぼ同じである。「よく行った」小学校は２９．３%で、本県の２０年度に比べ６．１ポイント増加し、中学校は２１．０%で、２１年度の全国より２．６ポイント上回っている。

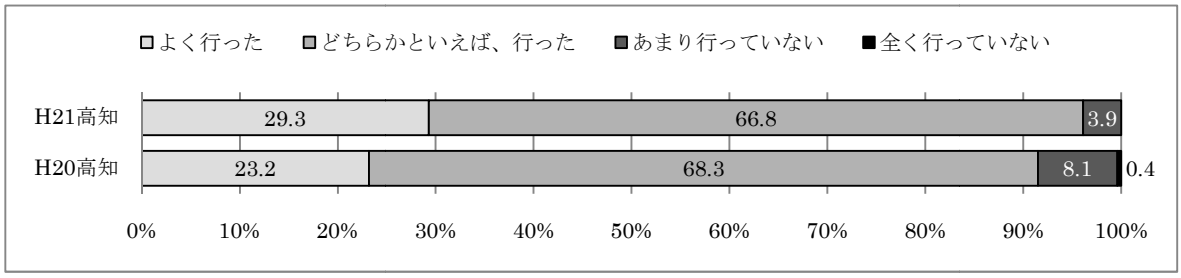
□　児童生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行った学校の方に、全国的には正答率が高い傾向が見られる。

□　児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか

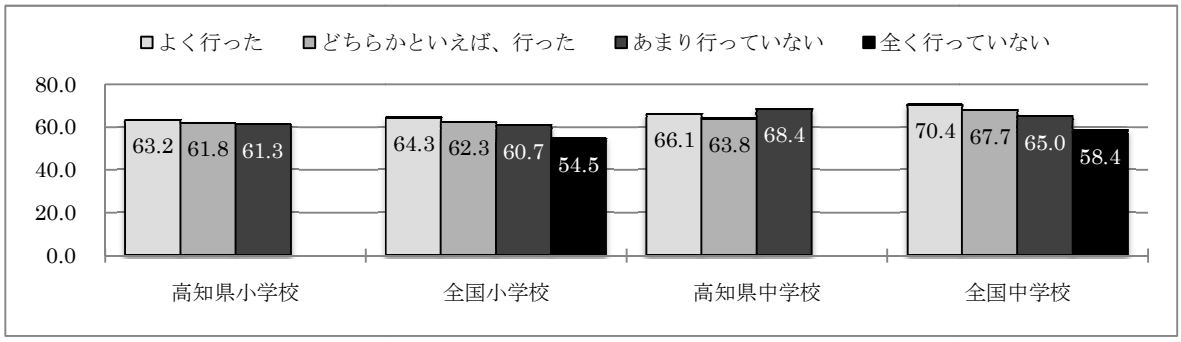
［学校質問紙調査（小）質問２８　（中）質問２８］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



＜平均正答率との相関関係＞



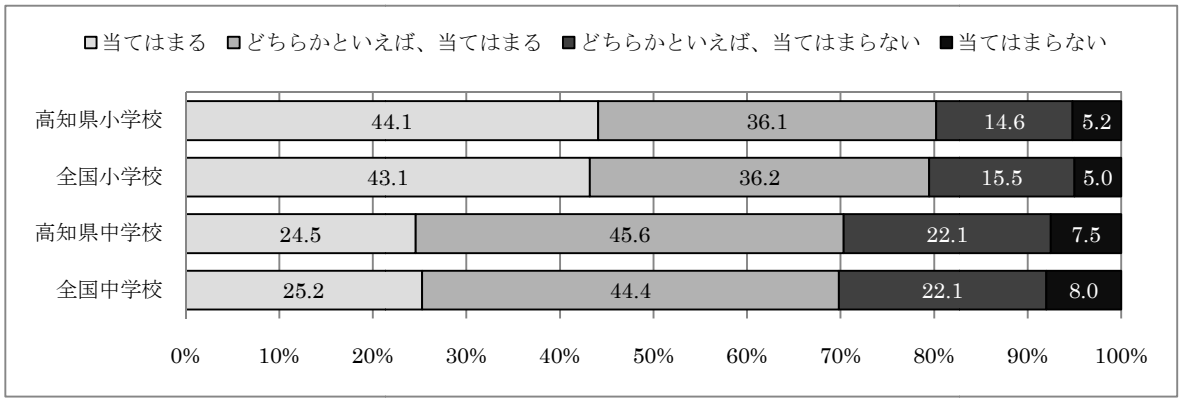
③　自分の考えを発表する機会

○　普段の授業で自分の考えを発表する機会があるに対する肯定群の小・中学生は７０％をこえているが、「当てはまる」小学生は４４．１％、中学生は２４．５％で、中学生は２０年度に比べ７．４ポイント減少している。

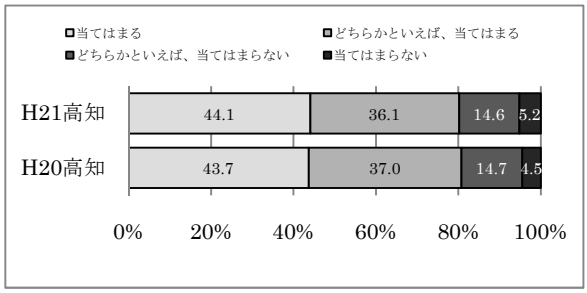
□　学校質問紙調査で、生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めているに対する肯定群の小・中学校は９６％をこえているが、「よく行った」学校は、小学校は３８．５％、中学校は２４．４％で、中学校は２０年度に比べ５．６ポイント減少している。

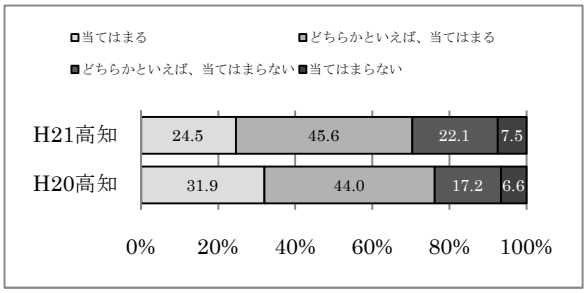
□　自分の考えを発表する機会があると思う小・中学生に正答率が高い傾向が見られる。

■　普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか　　［児童生徒質問紙調査　質問４７］

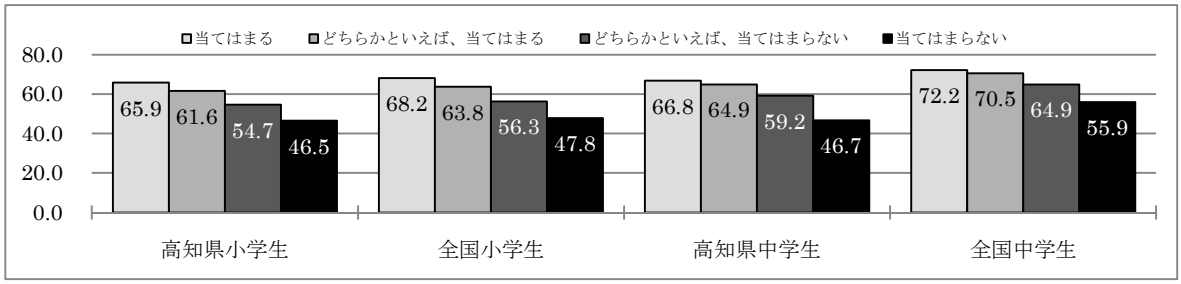


（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】



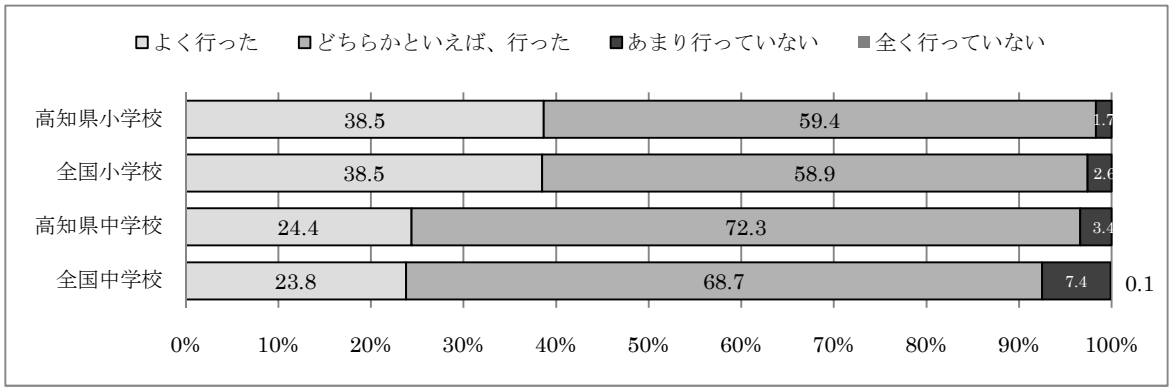


＜平均正答率との相関関係＞

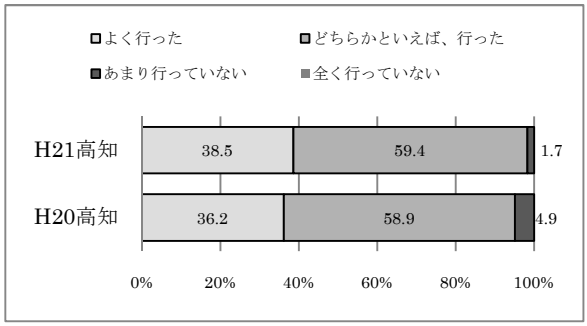


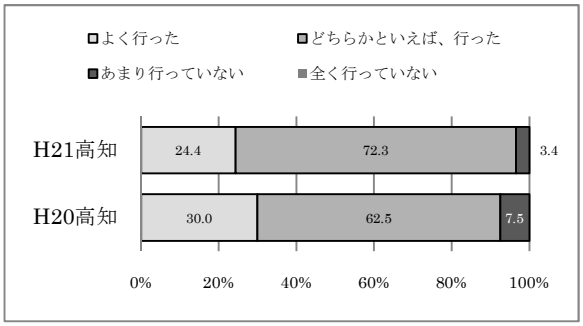
□　児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていますか

［学校質問紙調査　（小）質問２９　（中）質問２９］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





④　情報を集めて整理し、自分の考えをまとめる

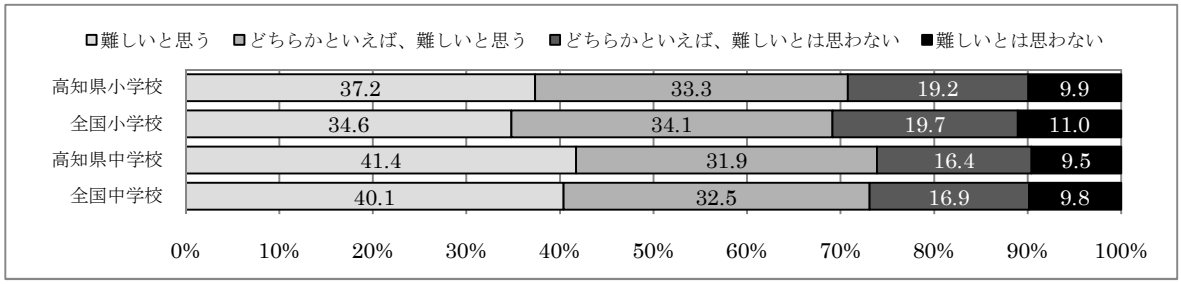
○　４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことに対して「難しいと思う」と「どちらかといえば難しいと思う」小・中学生は７０％をこえており、「難しいと思う」小学生は３７．２％で、全国より２．６ポイント上回り、中学生は４１．４％で、全国より１．３ポイント上回っている。

○　学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることに対して「難しいと思う」と「どちらかといえばそう思う」小・中学生は６０％をこえており、「難しい」と思う割合は、小学生は２４．８％で全国とほぼ同じであるが、中学生は３８．２％で、全国より１．４ポイント上回っている。

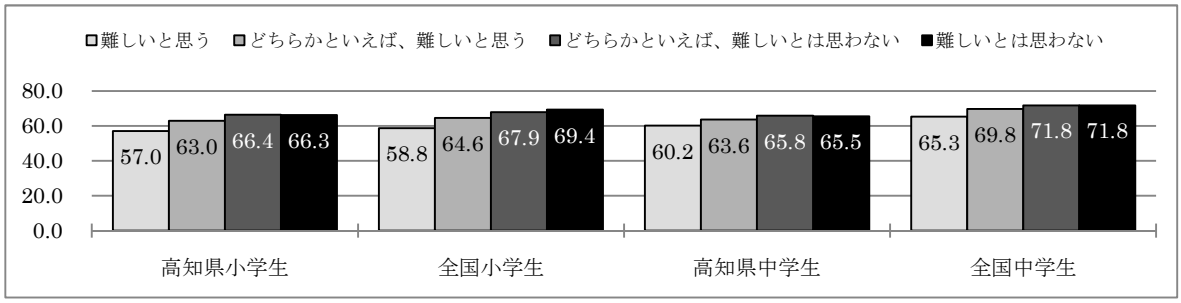
○　４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことや自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと思わない小・中学生に正答率が高い傾向が見られる。

■　４００字づめ原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか

［児童生徒質問紙調査　質問５０］

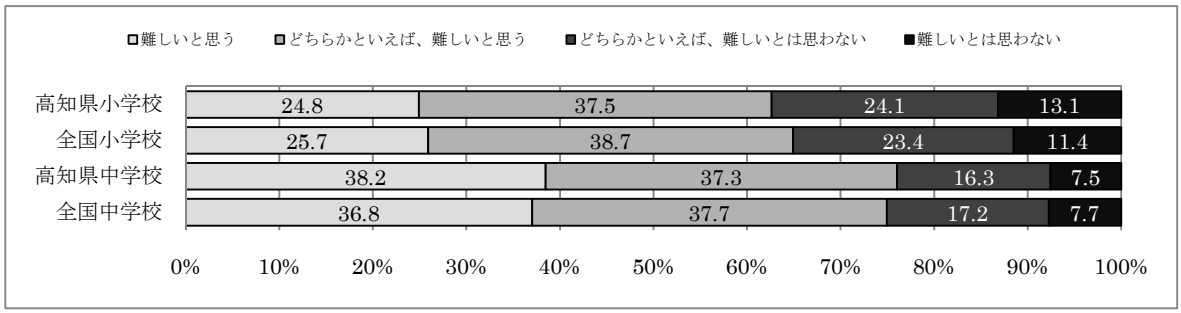


＜平均正答率との相関関係＞

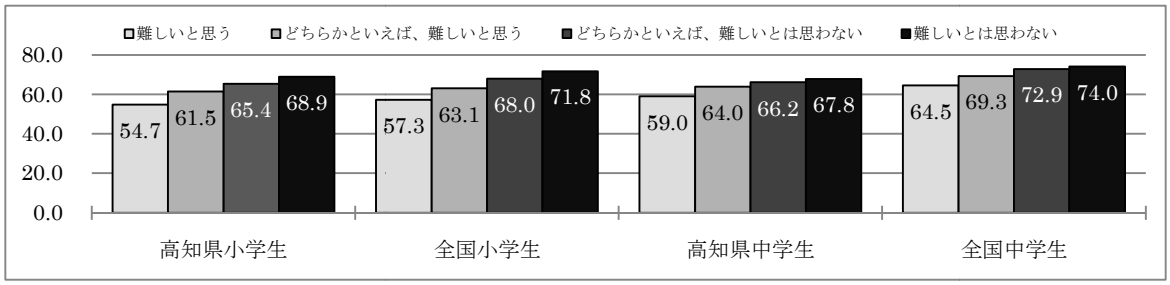


■　学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますか

［児童生徒質問紙調査　質問５１］



＜平均正答率との相関関係＞

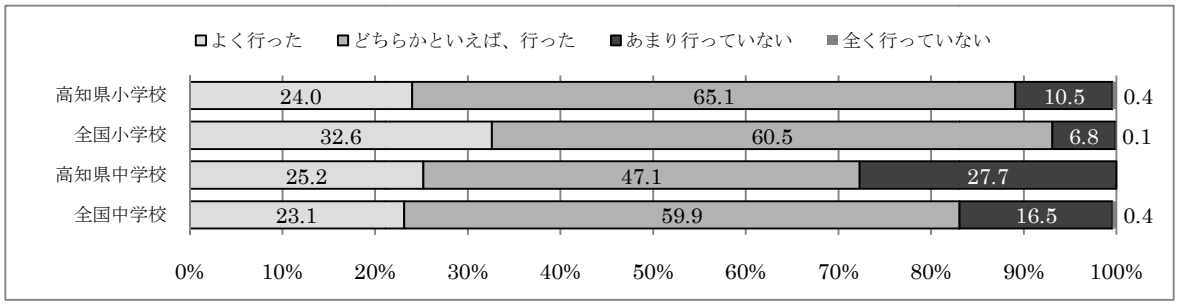


□「本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導している」、「資料を使って発表ができるよう指導している」、「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章にしている」に対する肯定群の小学校は、いずれも８５％をこえているが、全国より３～４ポイント下回り、「よく行った」は、いずれも２０％台である。中学校の肯定群は、いずれも７０％をこえているが、全国より８．２～１０．９ポイント下回り、「よく行った」は、調べ方の指導が２５．２％であるほかは１６％台である。

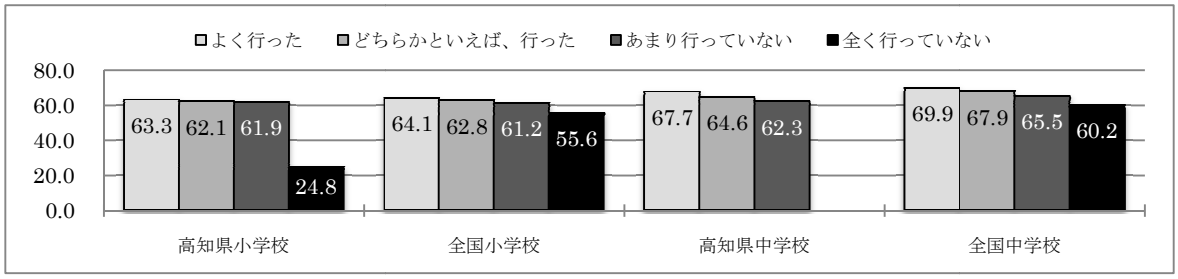
□　資料の調べ方、資料を使った発表の仕方、調べたことや自分の考えを文章にするなどの指導をよく行っている学校の方に正答率が高い傾向が見られる。

□　児童・生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導していますか

［学校質問紙調査（小）質問３４　（中）３４］

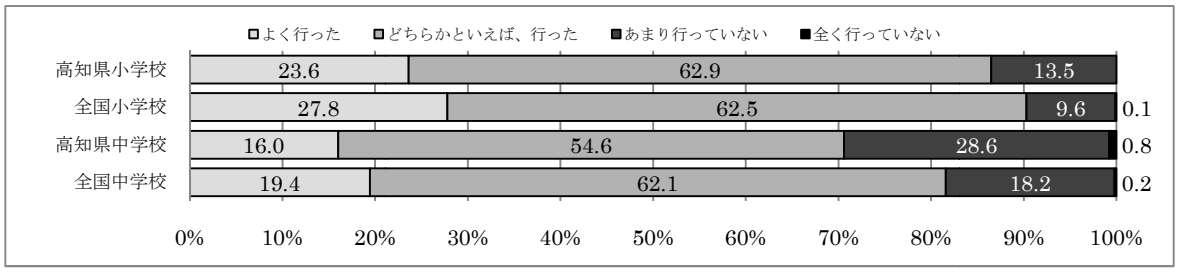


＜平均正答率との相関関係＞

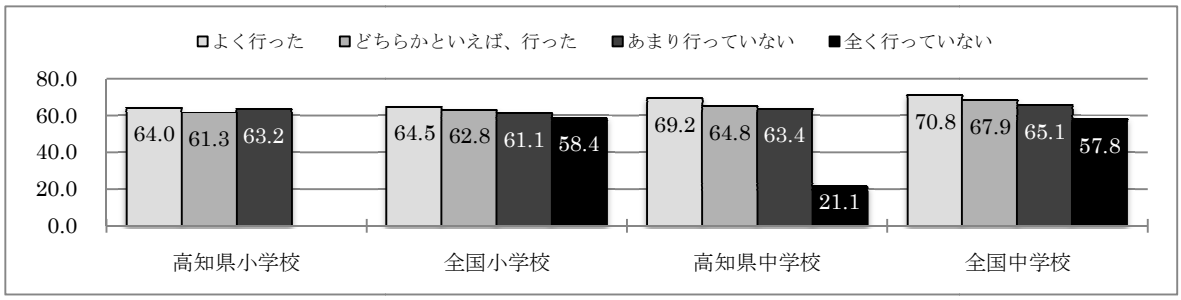


□　児童・生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導していますか

［学校質問紙調査（小）質問３５　（中）３５］

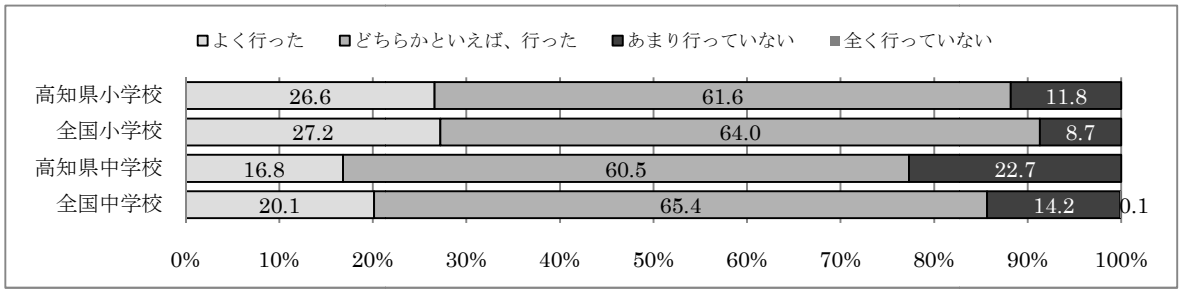


＜平均正答率との相関関係＞

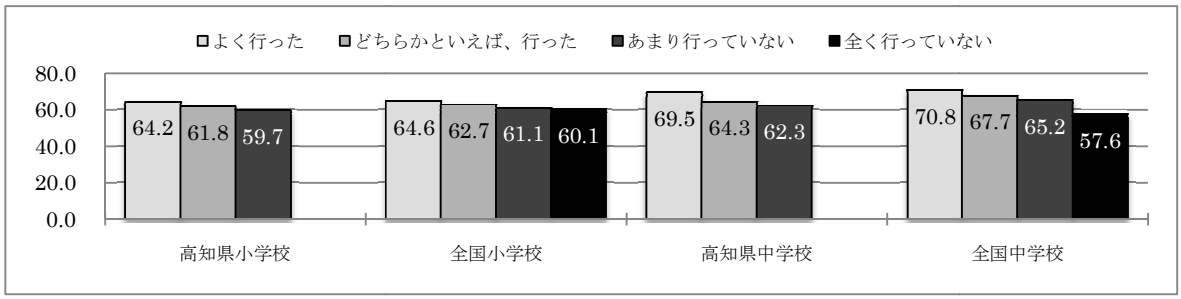


□　児童・生徒が、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていますか

［学校質問紙調査（小）質問３６　（中）３６］



＜平均正答率との相関関係＞



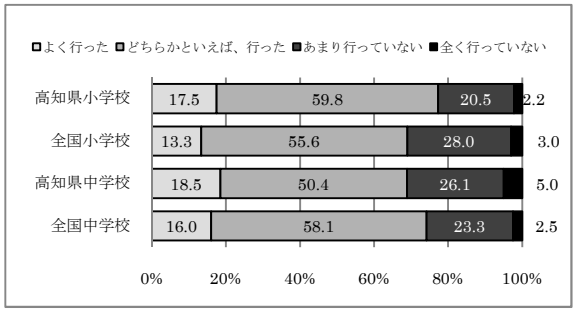
⑤　補充的な学習・発展的な学習の指導

□　小学校において、補充的な学習に対する肯定群は、国語は７７．３%で全国より８．４ポイント上回り、算数は８９．１%で全国とほぼ同じである。「よく行った」は、国語は１７．５%、算数は３４．５%である。

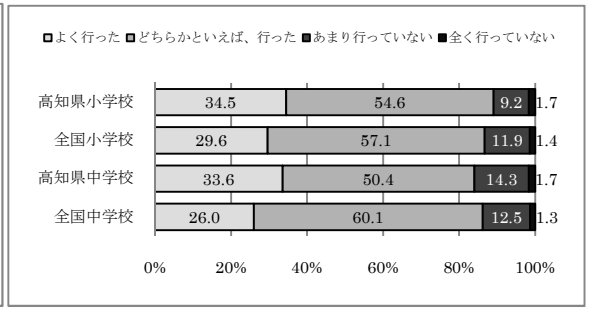
□　小学校において、発展的な学習に対する肯定群は、国語は４８．９%で全国より９．７ポイント上回り、算数は５６．３%で全国とほぼ同じであるが、「よく行った」は、国語は７．０%、算数は８．７%である。

□　国語や算数の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか　　［学校質問紙調査（小）質問５６、６３］

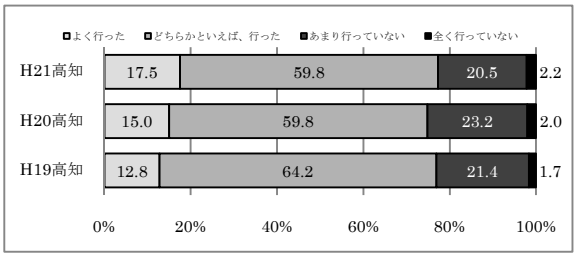
〈国語〉



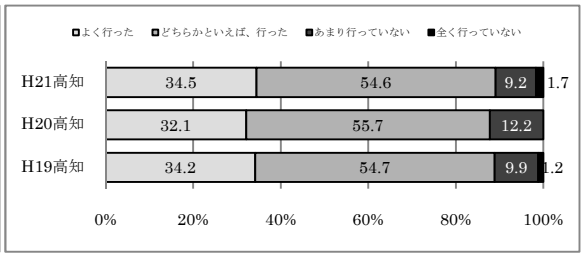
〈算数・数学〉



（平成１９年度～平成２１年度経年比較）【小学校国語】

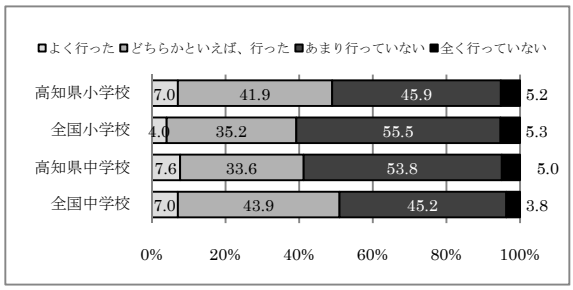


【小学校算数】

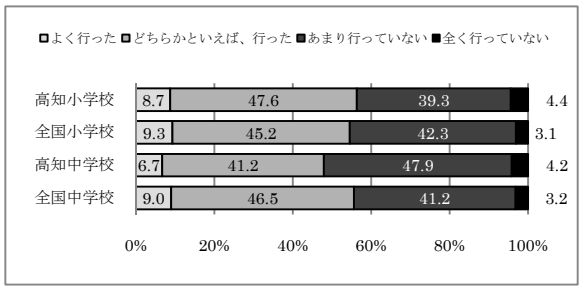


□　国語や算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか　　［学校質問紙調査（小）質問５７、６４］

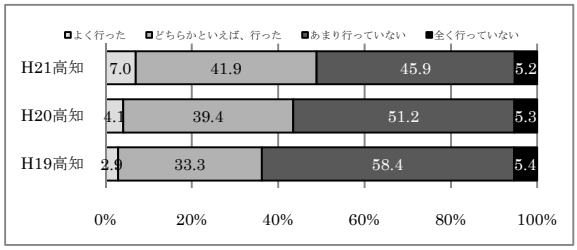
〈国語〉



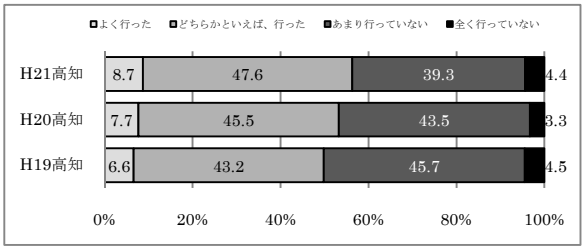
〈算数・数学〉



（平成１９年度～平成２１年度経年比較）【小学校国語】



【小学校算数】

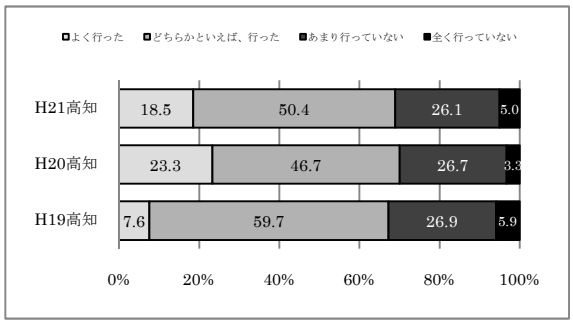


□　中学校において、補充的な学習に対する肯定群は、国語は６８．９％で全国より５．２ポイント下回り、数学は８４．０％で全国とほぼ同じであるが、本県の２０年度に比べ５．２ポイント減少している。「よく行った」は、国語は１８．５％で、本県の２０年度に比べ５．２ポイント減少し、数学は３３．６％で、本県の２０年度とほぼ同じである。

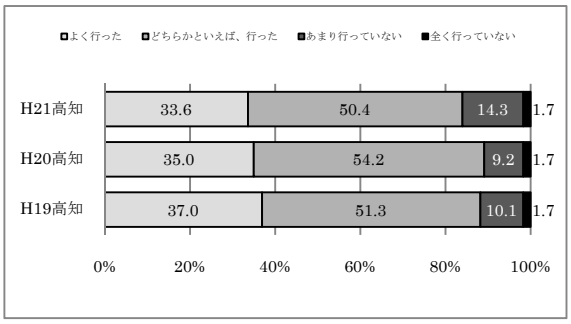
□　中学校において、発展的な学習に対する肯定群は、国語は４１．２％で全国を９．７ポイント下回り、数学は４７．９％で全国を７．６ポイント下回っている。「よく行った」は、国語は７．６％で、本県の２０年度に比べ５．７ポイント減少し、数学は６．７％で、本県の２０年度に比べ１０ポイント減少している。

□　国語や数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか　　［学校質問紙調査（中）質問５６、６２］

（平成１９年度～平成２１年度経年比較）【中学校国語】

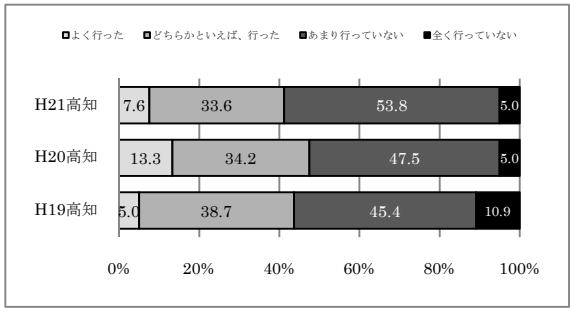


【中学校数学】

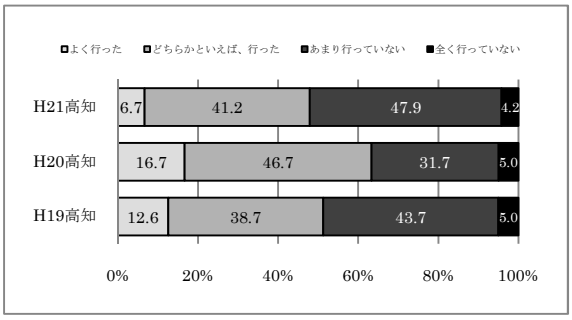


□　国語や数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか　　［学校質問紙調査（中）質問５７、６３］

（平成１９年度～平成２１年度経年比較）【中学校国語】



【中学校数学】

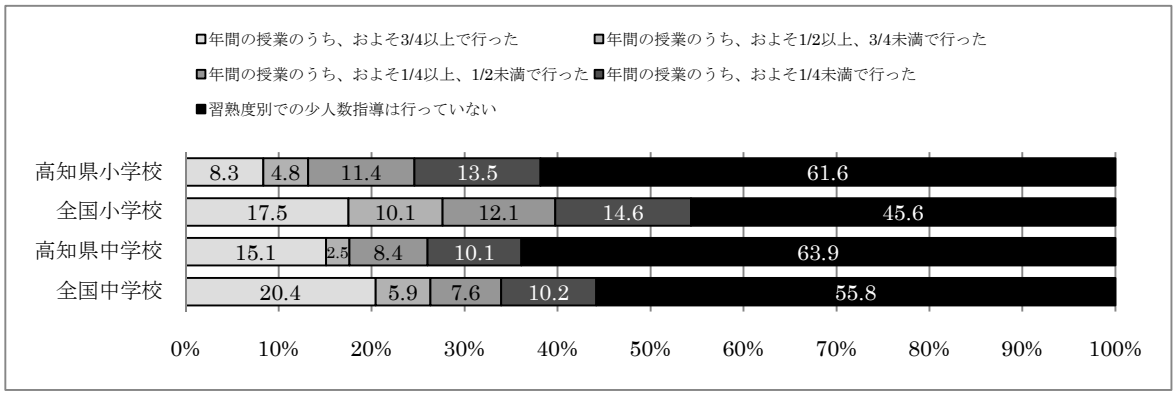


⑥　個に応じた指導：習熟度に応じた少人数による指導（算数・数学）

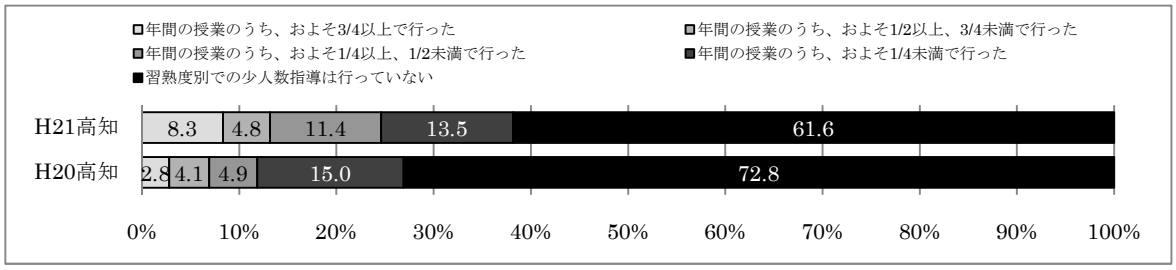
□　調査対象学年に対する算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行った小学校は、第５学年時は３８．０%で、全国より１６．３ポイント下回り、第４学年時は３１．１%で、全国より１８ポイント下回っている。本県の２０年度に比べ第５学年時は１１．２ポイント増加している。

□　調査対象学年に対する数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行った中学校の割合は、第２学年時は３６．１%で、全国より８．０ポイント下回り、第１学年時は２６．１%で全国より１１．４ポイント下回っている。

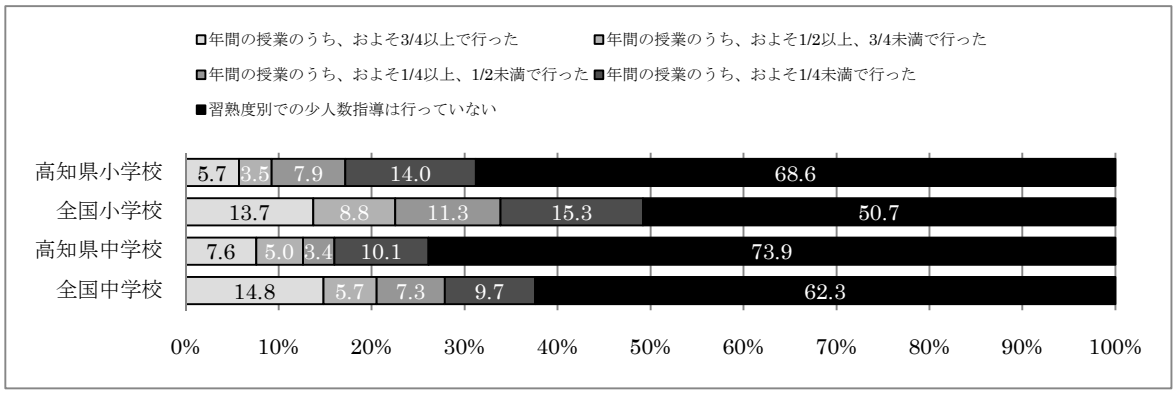
□　前年度の算数（第５学年時）・数学（第２学年時）の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか　　［学校質問紙調査　（小）質問５０　（中）質問５０］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



□　第４学年（小）・第１学年（中）のときの算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか　　［学校質問紙調査　（小）質問５４　（中）質問５４］

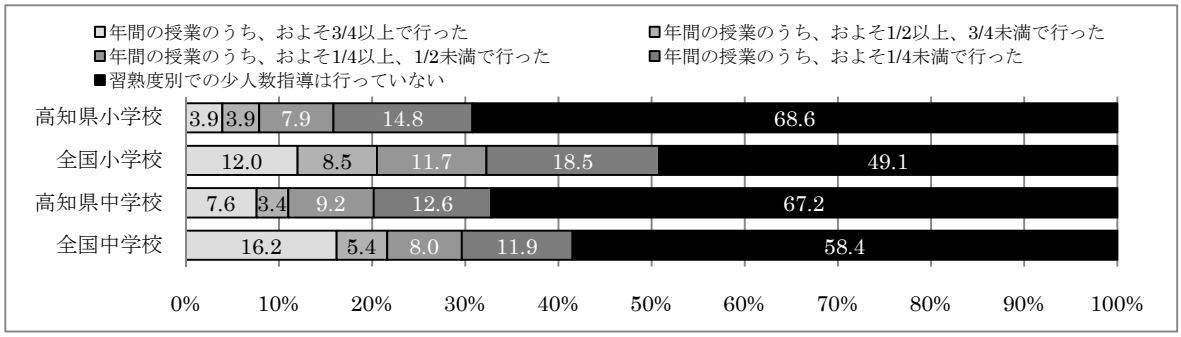


特別支援教育
P.134

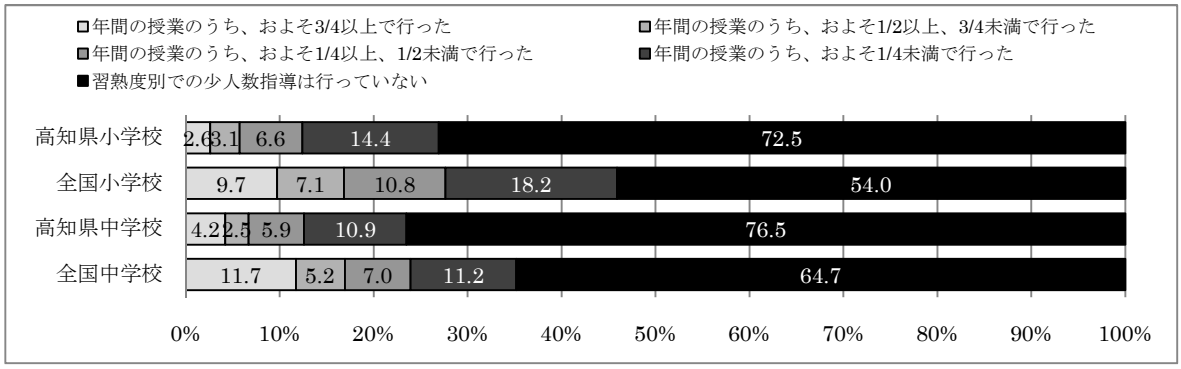
□　調査対象学年に対する算数の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行っている小学校は、第５学年時は３０．５%で、全国より２０．２ポイント下回り、第４学年時は２６．７%で、全国より１９．１ポイント下回っている。

□　調査対象学年に対する数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行っている中学校は、第２学年時は３２．８%で、全国より８．７ポイント下回り、第１学年時は２３．５%で、全国より１１．６ポイント下回っている。

□　前年度の算数（第５学年時）・数学（第２学年時）の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか　　［学校質問紙調査　（小）質問５１　（中）質問５１］



□　第４学年（小）・第１学年（中）のときの算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか。　　［学校質問紙調査　（小）質問５５（中）質問５５］



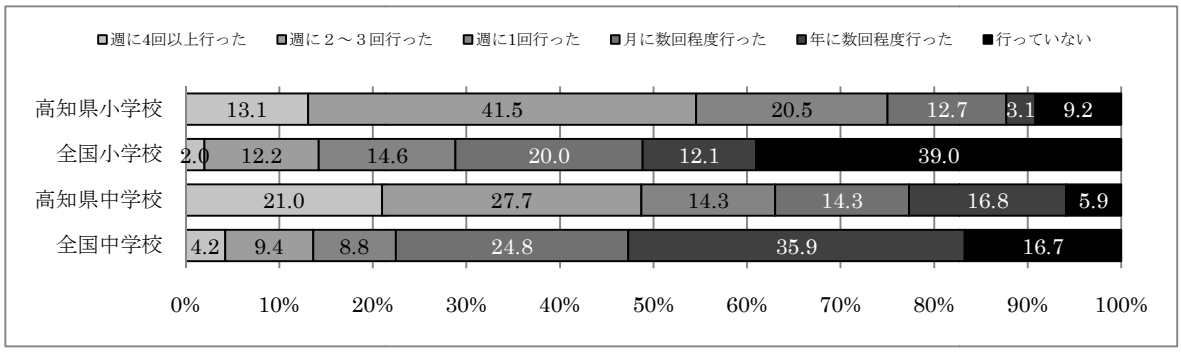
⑦補充的な学習サポート

□　放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している小・中学校は９０%をこえ、全国を大きく上回っている。週に１回以上実施している小学校は７５．１%、中学校は６３．０%である。

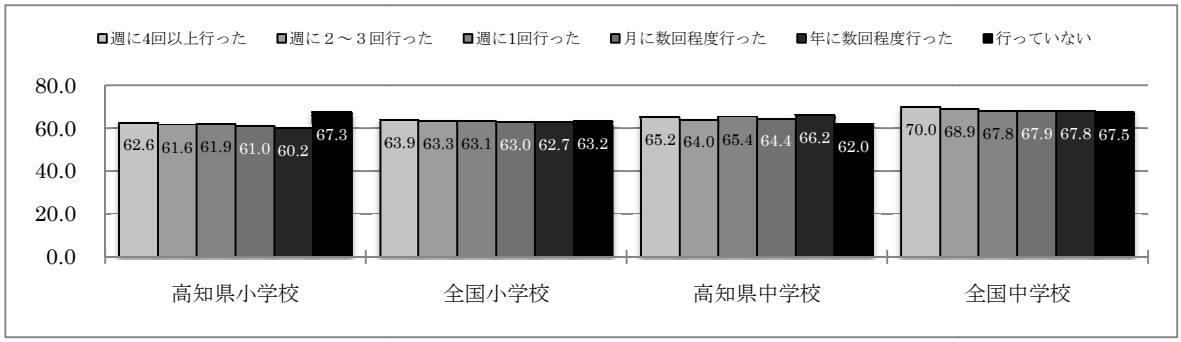
□　長期休業中に補充的な学習サポートを実施している小学校は４７．６%で、全国より９．４ポイント下回り、中学校は９３．３%で、全国より１３．０ポイント上回っている。中学校は延べ９日以上実施した学校は５２．９%で、全国より２８．３ポイント上回っている。

□　長期休業中に補充的な学習サポートを実施している学校においては、小学校は延べ１３日以上、中学校は延べ９日以上実施した学校に正答率が高い傾向が見られる。

□　放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか　［学校質問紙調査（小）質問２５　（中）質問２５］

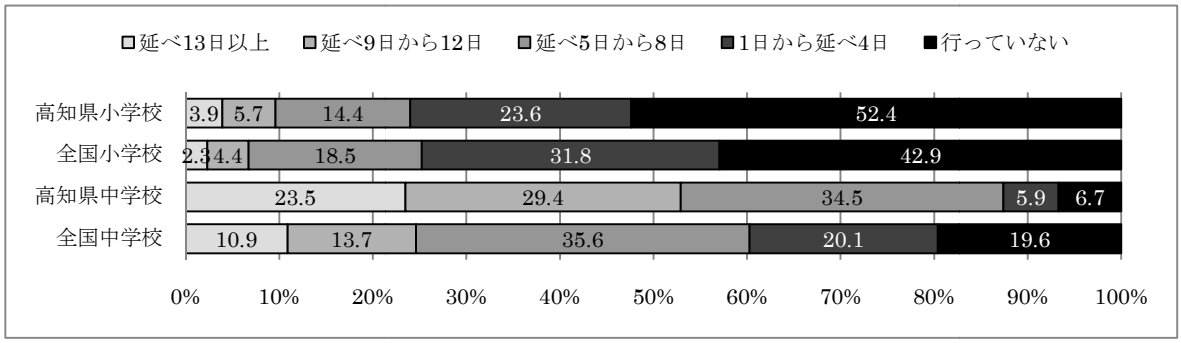


＜平均正答率との相関関係＞

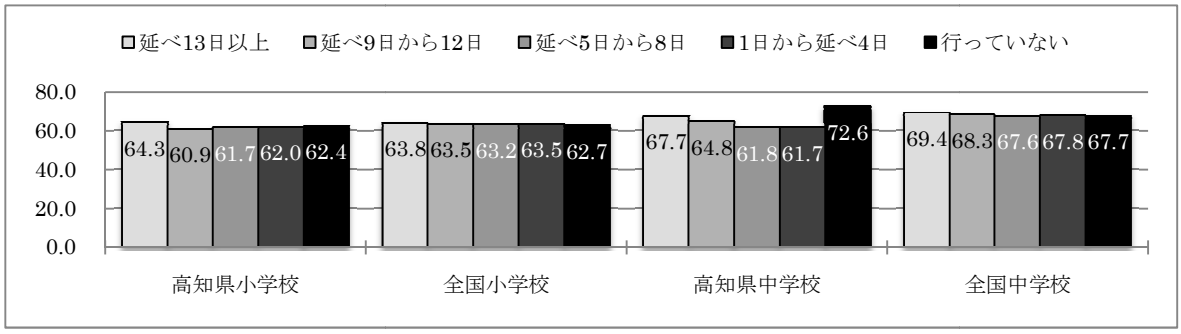


□　長期休業中を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか　（長期休業中に実施した日数の累計）

［学校質問紙調査（小）質問２７　（中）質問２７］



＜平均正答率との相関関係＞



（２）調査結果の考察

①　成果

◇　小学校

・児童の様々な思考を深めたりする発問や指導を「よく行った」学校の割合が平成２０年度より増加しており、活用する力の育成などの課題を克服しようとする取組が進み始めたことがうかがわれる。

・第５学年時における習熟度に応じた少人数による指導について、習熟の遅いグループに対する算数の指導の実施は、全国より１６．３ポイント下回っているものの、本県の平成２０年度に比べ、１１．２ポイント増加しており、個々の児童に確実に学習を定着させようとする取組が進んでいることがうかがわれる。

◇　中学校

・学習規律や学習方法の指導をよく行った学校の割合が平成２０年度より増加しており、学力向上に積極的に取り組む学校が増えていることがうかがわれる。

②　課題

◇　中学校

・「普段の授業で自分の考えを発表する機会がある」に「当てはまる」と答えた生徒が平成２０年度より７．４ポイント減少しており、「生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている」に「よく行った」と回答する中学校が平成２０年度に比べ５．６ポイント減少していることとの関係などを検討する必要がある。

・国語は、補充的な学習や発展的な学習とも肯定群が全国より５ポイント以上下回り、数学は、発展的な学習の肯定群が全国より７．６ポイント下回っている。平成２０年度に比べ、「よく行った」学校の割合は、国語の補充的な学習・発展的な学習は約５ポイント、数学の発展的な学習は１０ポイント減少しており、個々の生徒に応じた指導の工夫に対する積極的な姿勢が後退していることが懸念される。

◇　小・中学校

・「資料の調べ方」、「資料を使った発表」、「調べたことや考えたことを分かりやすく文章にする」指導の肯定群の割合は、小学校は３～４ポイント、中学校は８．２～１０．９ポイント全国より下回っており、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う観点から、指導を見直す必要がある。

読書、学校図書館、ICT　P.101

・算数・数学の指導において、調査対象学年に対して、平成２０年度及び平成１９年度に習熟度に応じた少人数による指導を行っている割合は、習熟の遅いグループ、習熟の早いグループとも、全国に比べ、小学校は１１．２～２０．２ポイント、中学校は８．３～１１．５ポイント下回っており、個に応じた指導の在り方について検討する必要がある。

（３）今後の取組

◇　学校では

・授業の中に、自分の考えを発表したり活動したりする機会を設定することや、様々な思考を深める発問を工夫することなど、小・中学生が学習内容の意味を理解し、学習したことが定着して、それを活用できるようになるよう、指導を改善する。

自尊感情 P.74

・各教科等のねらいや特質に応じ、「資料の調べ方」、「資料を使った発表」、「調べたことや考えたことを分かりやすく文章にする」指導を年間指導計画に適切に位置付けて指導する。

・一人一人に学習内容を確実に定着させ、それを活用できるようにさせるために、補充的な学習や発展的な学習など、多様な学習を工夫する。

・校内研修で、授業改善の視点を共通確認し、発問や学習課題、授業の展開の仕方などを研究する。

・習熟度に応じた少人数による指導など、学校の組織として個に応じた指導を行う体制を工夫する。

◇　教育委員会では

・様々な思考を深める発問、補充的な学習や発展的な学習、情報を集めて整理し、自分の考えをまとめる学習、学校の組織として個に応じた指導など、様々な指導の在り方について助言する。

７　校内研修や組織的な取組に関する内容

（１）　調査結果

①　校内研修の実施

□　学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を実施しているに対する肯定群の小学校は９９．６%で全国より７．７ポイント上回り、中学校は９５．８%で、全国より１３．２ポイント上回っており、小・中学校とも、本県の１９年度以降増加している。

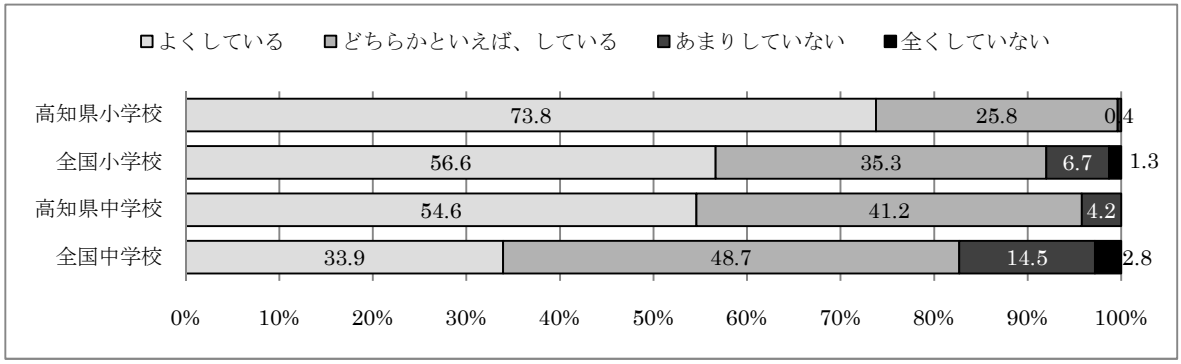
□　　研修内容として、授業研究などの実践的な研修を行っているに対する肯定群の小学校は９３．０%で全国とほぼ同じであり、中学校は８９．９%で全国より７．４ポイント上回っている。

□　他校や外部の研修機関などでの研修に積極的に参加できるようにしているに対する肯定群の小学校は９７．９%で全国とほぼ同じであるが、「よくしている」割合は、４２．４%で、全国より９．７ポイント下回っている。肯定群の中学校は９４．９%で全国より３．９ポイント上回っているが、「よくしている」割合は３３．６%で、全国とほぼ同じである。

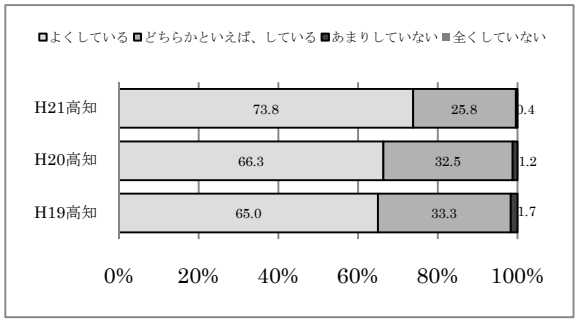
□　授業研究を伴う校内研修の回数が年間９回以上の学校の割合は、小学校は４７．６%で、全国より４．０ポイント上回り、中学校は５０．４%で、全国より２４．３ポイント上回っており、小・中学校とも、本県の１９年度以降増加している。

□　学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

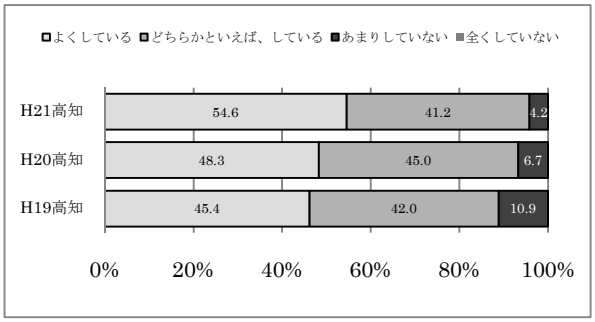
［学校質問紙調査（小）質問８９　（中）質問８６］



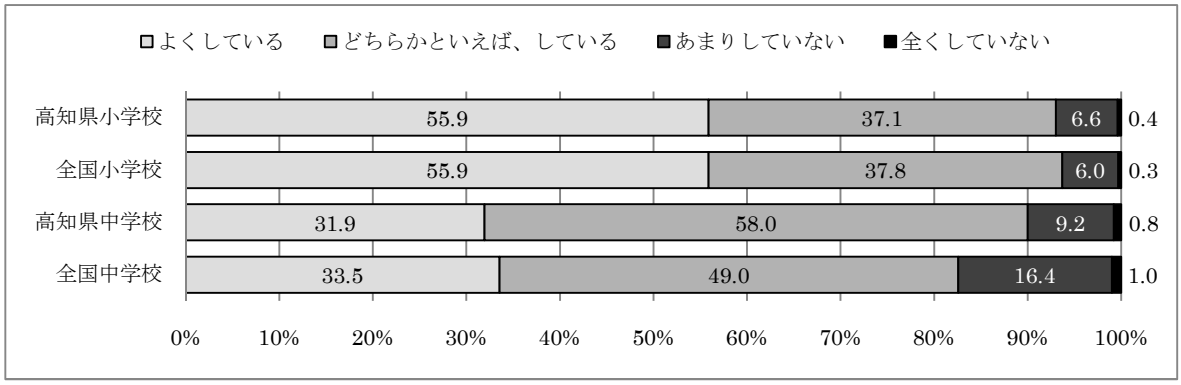
（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】

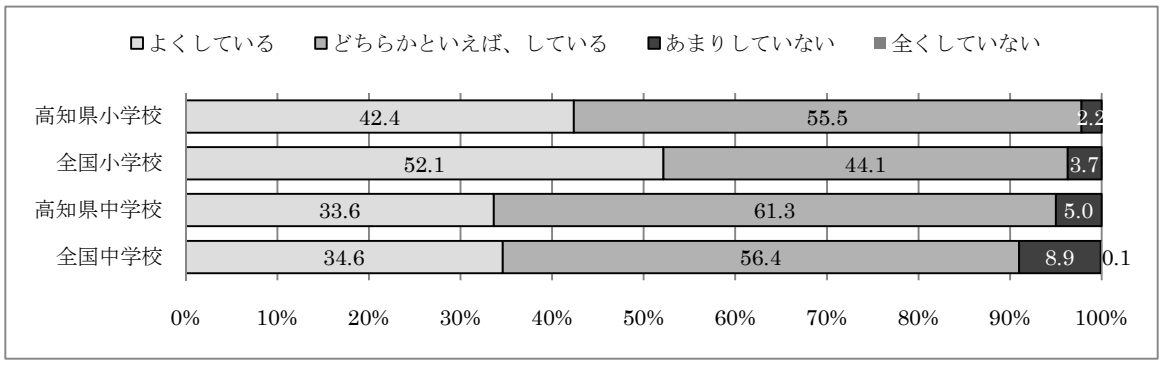


□　模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか　［学校質問紙調査（小）質問９０　（中）質問８７］

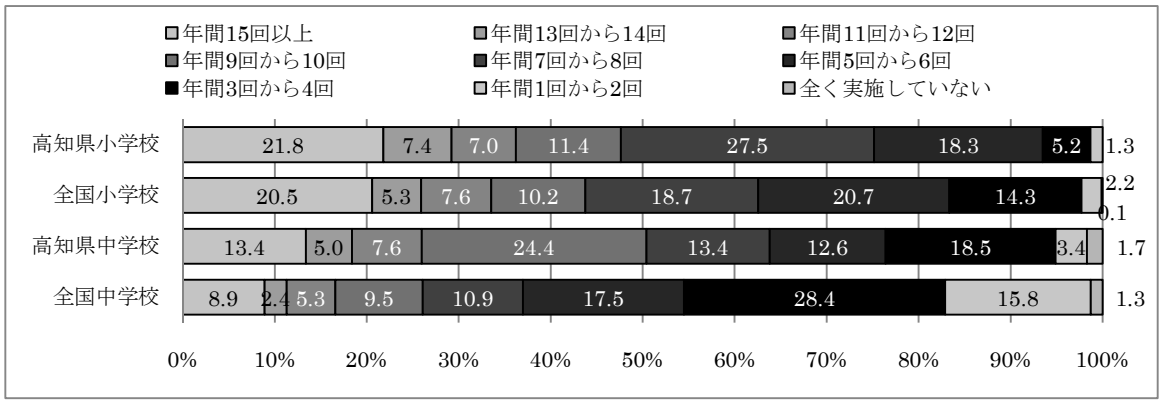


□　教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか

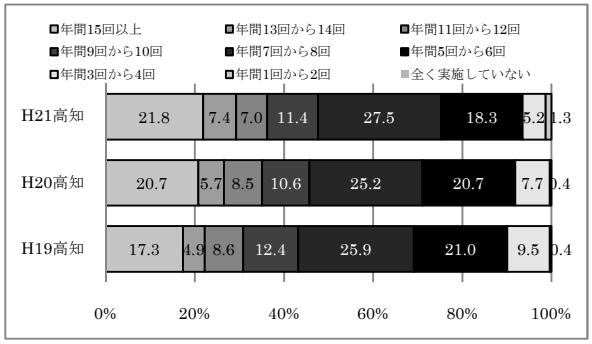
［学校質問紙調査（小）質問９１　（中）質問８８］



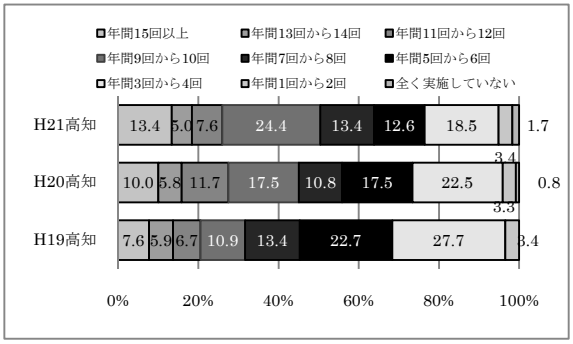
□　授業研究を伴う校内研修を昨年度、何回実施しましたか　［学校質問紙調査（小）質問９２　（中）質問８９］



（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



②　研修の共有や職員間の協力

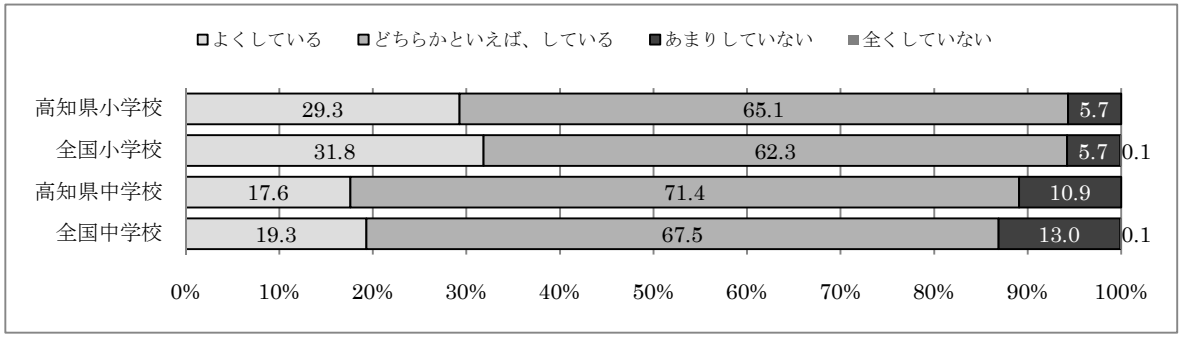
□　研修の成果を教育活動に積極的に反映しているに対する肯定群の小学校は９４．４%、中学校は８９．０%で、全国とほぼ同じであるが、「よくしている」は小学校２９．３%、中学校は１７．６%である。中学校は本県の２０年度に比べ、否定群が７．４ポイント減少した。

□　指導計画の作成にあたって、教職員同士が協力し合っているに対する肯定群の小学校は９６．５%で、全国とほぼ同じであるが、「よくしている」は４２．４%で、全国より８．５ポイント下回っている。肯定群の中学校は、８６．６%で、全国より５．７ポイント下回っており、「よくしている」は３０．３%で、全国より２．１ポイント下回っている。

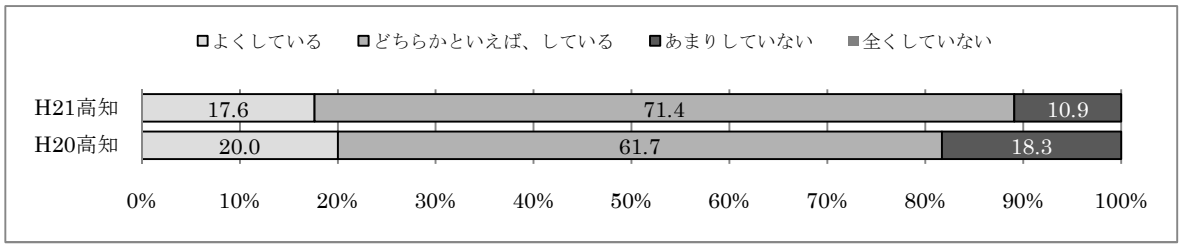
□　学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたっているに対する肯定群の小学校は９８．６%で全国とほぼ同じであるが、「よくしている」は４９．３%で、全国より５．１ポイント下回っている。肯定群の中学校は９６．６%で、全国とほぼ同じであり、「よくしている」は４６．２%で全国より３．４ポイント上回っている。

□　教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

［学校質問紙調査（小）質問９３　（中）質問９０］

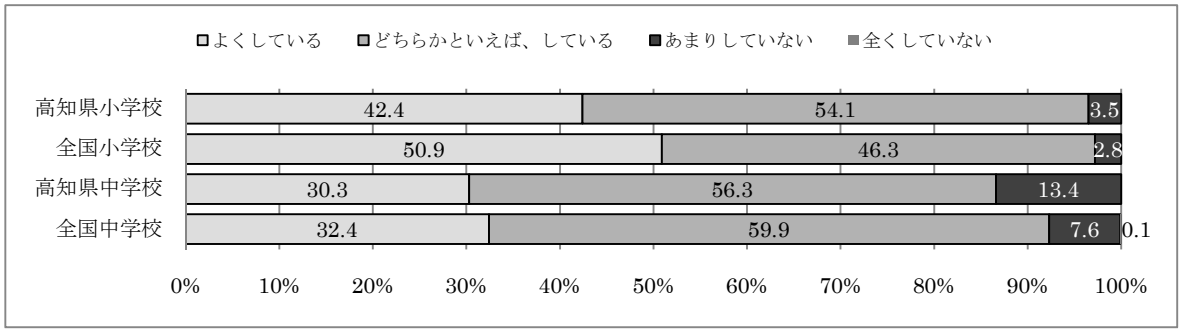


（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【中学校】



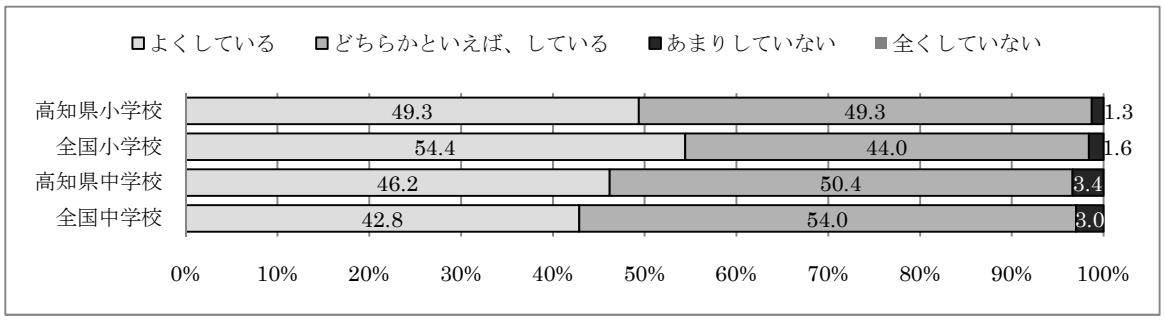
□　指導計画の作成にあたっては、教職員同士が協力し合っていますか

［学校質問紙調査（小）質問９４　（中）質問９１］

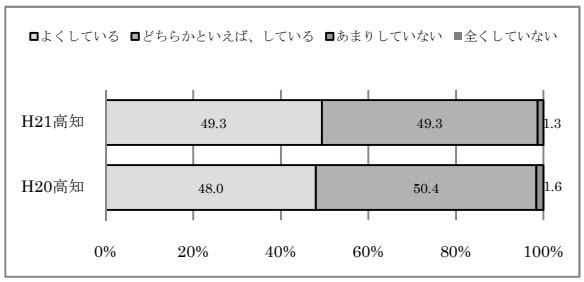


□　学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたっていますか

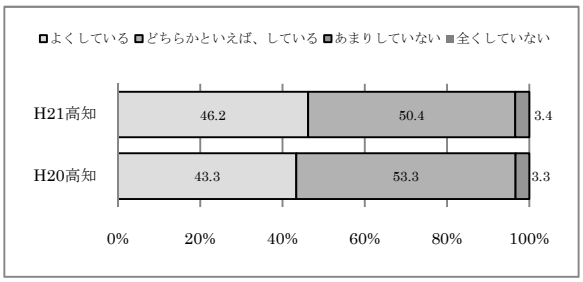
［学校質問紙調査（小）質問９５　（中）質問９２］



（平成２０年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】



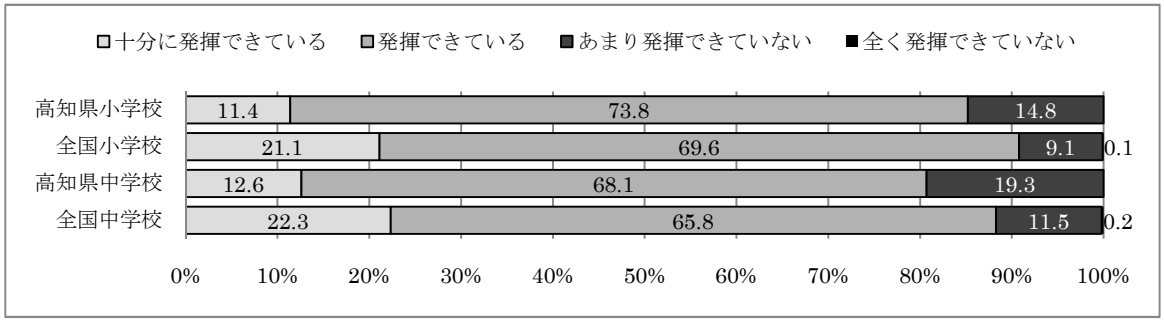
③　学校長のかかわり

□　学校運営に校長のリーダーシップが発揮されているに対する肯定群の小学校は８５．２％で全国より５．５ポイント下回り、中学校は８０．７％で全国より７．４ポイント下回っている。「十分に発揮できている」は、小学校は１１．４％で全国より９．７ポイント下回り、中学校は１２．６％で全国より９．７ポイント下回っている。

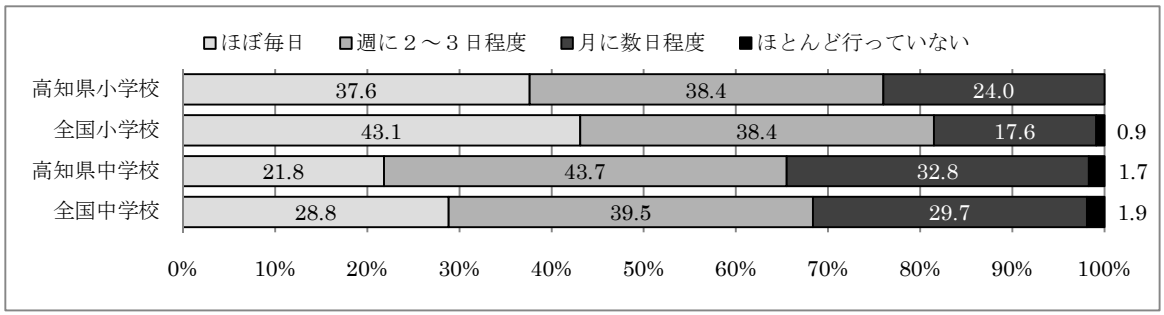
□　校内の授業を見る回数が、週２～３回以上の小学校は７６．０％で、全国より５．５ポイント下回り、中学校は６５．５％で、全国より２．８ポイント下回っている。ほぼ毎日見ている学校は小学校は３７．６％で全国より５．５ポイント下回り、中学校は２１．８％で全国より７．０ポイント下回っている。

□　指導計画の作成や校内研修の実施、保護者・地域との連携など、学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか

［学校質問紙調査（小）質問９６　（中）質問９３］



□　校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか　　［学校質問紙調査（小）質問９８　（中）質問９５］



（２）調査結果の考察

①　成果

・校内研修の実施、特に授業を含めた実践的な研修の回数は増加傾向にあり、全国よりも多い。

・学校の教育目標やその達成に向けた校内の研究の方向性の共有に関して、「よくしている」学校の割合は増加しており、各学校が作成した学校改善プランに基づく研修体制が進み、教職員の学力向上への意識が高まりつつあることがうかがわれる。

②　課題

◇　小学校

・研究計画の作成などに関する職員間の連携や教育目標の共有などの項目は、全国に比べて低い数値となっており、学級や学年をこえた組織的な体制が十分ではない学校がある。

◇　中学校

・授業研修の実施回数は増加し、全国より多いが、学力向上の具体的な成果としては、まだ十分に現れていない。

◇　小・中学校

・研修の成果を教育活動に反映させることが十分ではない。

（３）今後の取組

◇　学校では

・校内研修の質を向上させ、学力向上の具体的な成果に結びつけるようにする。

・なぜ、その研修を行い、その結果どのような変容を望むのかというイメージをもって研修を計画し、教職員で共通理解して取り組む。

・教職員が当事者意識をもって研修に参加し、自分にできることや自分の課題を認識して、具体的な取組を行うことができるようにする。

・授業研究が、学校としての課題や各教員の自己課題などについて検討できるようにし、これから取り組むことを具体的に確認して実行する。

・講師を招聘し、研修した内容から、自校の取組の改善に生かすべきことを速やかに確認

し、実行する。

・学校改善プランなどを活用して学校の既存の取組を整理し、うまく関連させていく。

・学校改善プランなどを活用し、校内研修の取組が成果を伴って進んでいるのかを確認し、適宜、取組を改善して実施する（ＰＤＣＡサイクルを機能させる）。その際、「学校教育目標－めざす児童生徒像－研究主題」の整合性などを踏まえて成果と課題を明らかにし、研修の方向や取組の手段や方法が、課題の解決をしようとしているのかなどについても検討するようにする。

◇　市町村（学校組合）教育委員会では

・管内の学校の学力の状況を的確に把握し、各学校が作成した学校改善プランの進捗状況を確認して、適宜、支援する。

・必要に応じ、教育事務所等と協働して、学校への支援を行う。

◇　県教育委員会では

・教育委員会事務局内の各組織が相互に連携をし、各学校の学校改善プランや具体的な要請の内容に基づいて支援するとともに、県下的な状況や全国的な状況なども踏まえて各学校の支援を行う。

８　全国学力・学習状況調査の結果の活用

（１）調査結果

①　調査結果の分析と活用

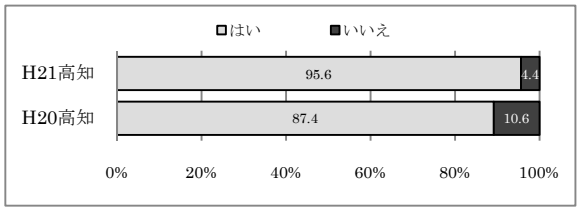
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、指導計画に反映させたり、具体的な教育指導の改善に活用したりした小・中学校は、いずれも９０％をこえ、全国より２．７～４．１ポイント上回り、本県の２０年度に比べ、増加している。

□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用した小学校は８６．５％で全国より３．０ポイント上回り、中学校は８４．０％で全国より５．３ポイント上回っている。小・中学校とも、本県の２０年度に比べ、増加している。

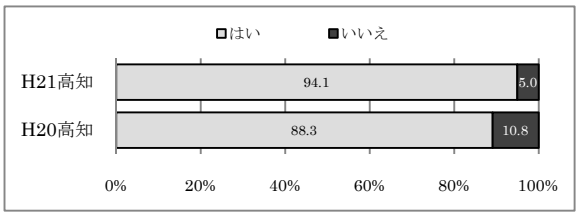
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか

［学校質問紙調査（小）質問４４　（中）質問４４］

（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



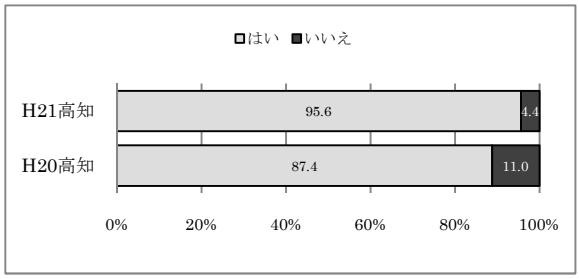
【中学校】



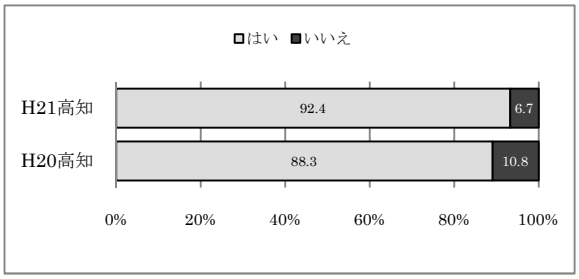
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか。

［学校質問紙調査（小）質問４５　（中）質問４５］

（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



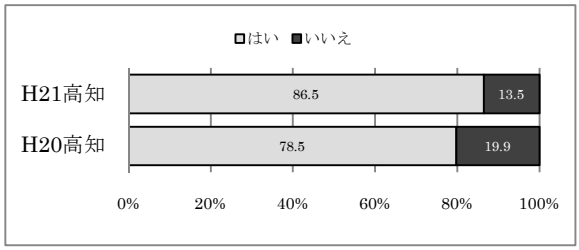
【中学校】



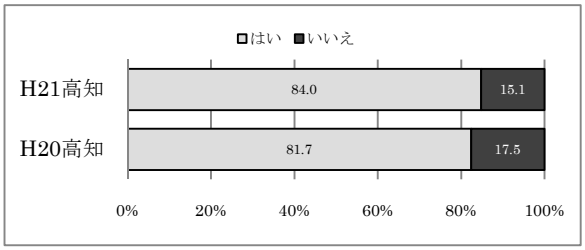
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか

［学校質問紙調査（小）質問４６　（中）質問４６］

（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



【中学校】

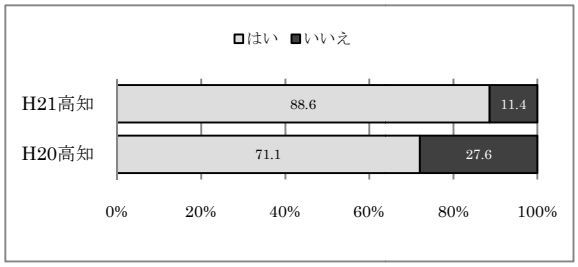


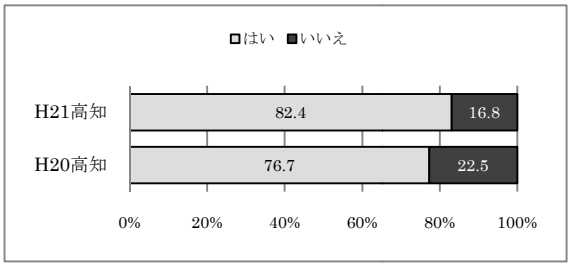
②　報告書等の活用

□　学校の指導計画や取組を検討するにあたり、文部科学省が公表した平成２０年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にした小・中学校は８０％をこえ、本県の２０年度に比べ増加している。

□　学校の指導計画や取組を検討するにあたり、（文部科学省が公表した）平成２０年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか　　［学校質問紙調査（小）質問４８　（中）質問４８］

（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





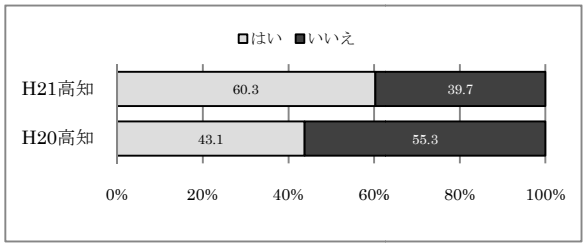
③　調査問題の授業における活用

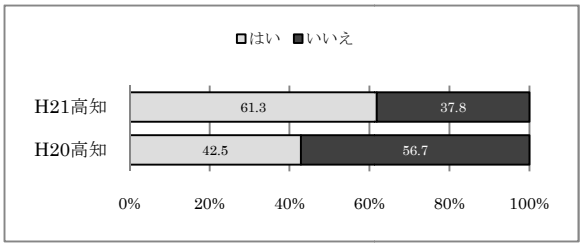
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査問題を第６学年（小）・第３学年（中）や他学年の授業の中で活用した小学校は６０．３％、中学校は６１．３％で、本県の２０年度より増加している。

□　平成２０年度全国学力・学習状況調査問題を第６学年（小）・第３学年（中）や他学年の授業の中で活用した小・中学校の方に正答率が高い傾向が見られる。

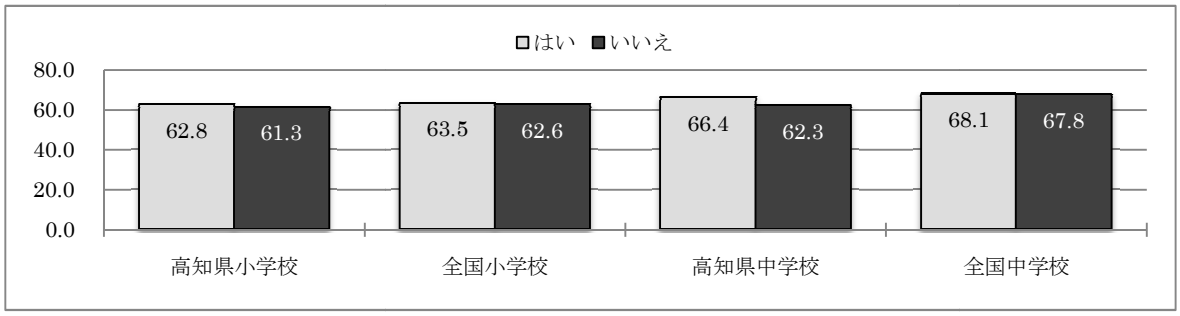
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成２０年度において、第６学年（小）・第３学年（中）や他学年の授業の中で活用しましたか　　［学校質問紙調査（小）質問４７　（中）質問４７］

（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】　　【中学校】





＜平均正答率との相関関係＞

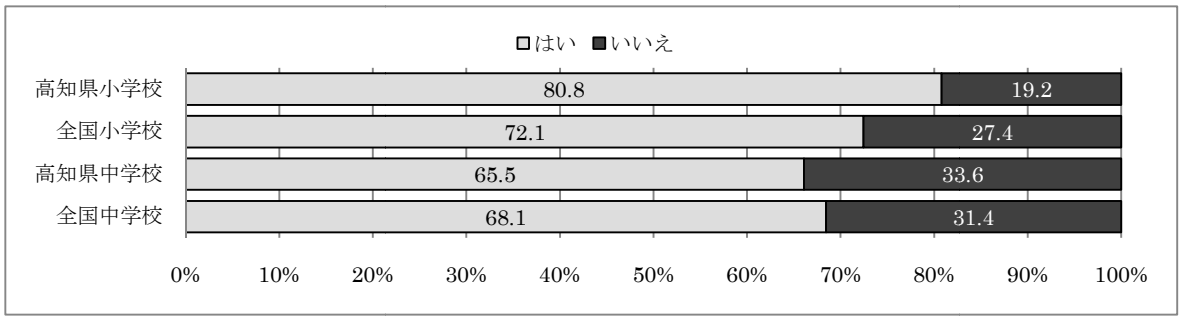


④　調査結果の公表

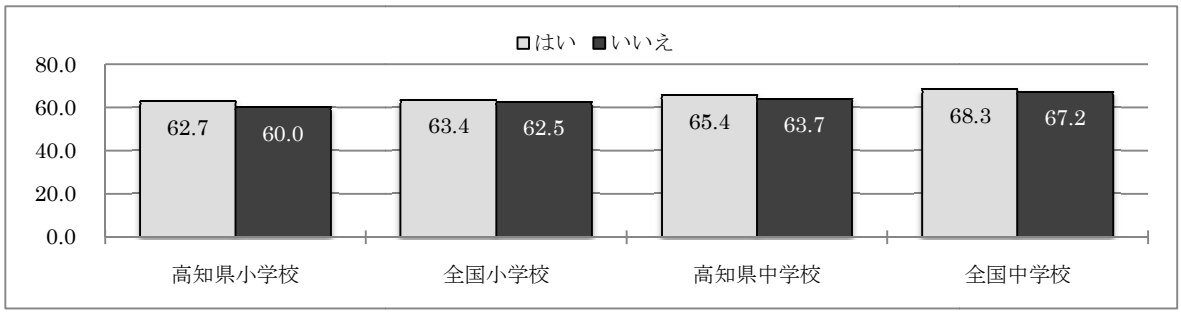
□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った小学校は８０．８%で、全国より８．７ポイント上回り、中学校は６５．５%で、全国より２．６ポイント下回っている。

□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った小・中学校の方に正答率が高い傾向が見られる。

□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか　　［学校質問紙調査（小）質問４９　（中）質問４９］



＜平均正答率との相関関係＞



地域との連携
P.131

（２）調査結果の考察

①　成果

・全国学力・学習状況調査の調査結果を分析し、指導計画や教育指導の改善に活用している小・中学校の割合は、９０%をこえ、平成２０年度も８７%をこえており、調査の結果を活用しようとする意識が学校に定着していることがうかがわれる。

・文部科学省が公表した全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にして、指導計画や取組を検討した学校の割合は、平成２０年度は全国より小学校は１０．７ポイント、中学校は２．２ポイント下回っていたが、小・中学校とも平成２０年度より増加して全国を上回り、課題の把握や改善の方策について、自校の状況のみではなく、全国的な傾向も踏まえて検討しようとしてきたことがうかがわれる。

・全国学力・学習状況調査の調査結果を調査対象学年や教科だけではなく学校全体で活用しようとしている学校の割合が増加しており、小・中学生の実態を踏まえた指導改善を、学

校として組織的に行おうとする取組が進み始めたことがうかがわれる。

・全国学力・学習状況調査の調査問題を授業で活用した小・中学校が増加している。

② 課題

◇ 学校

・全国学力・学習状況調査の調査結果を指導計画や指導の改善に活用していると回答する小・中学校の割合は平成２０年度から引き続き高いが、小・中学生の学力の向上として具体的に成果が現れるまでに至っていない。

・全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画に反映させた学校の割合に比べ、自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく学校全体で活用した学校の割合は、１０ポイントほど下回っている。

・全国学力・学習状況調査の調査問題を授業で活用した小・中学校の割合は６０％台であり、調査結果を指導計画や指導の改善に活用していると回答した小・中学校の割合に比べ２０ポイントほど低く、指導改善の具体的な取組までは、十分に進んでいないことが推測される。

（３）今後の取組

◇ 学校では

・３年間の調査結果を分析・考察し、改善されていない課題について、その原因を検討し、早急に改善策を立てて取り組む。

・各学校が作成する学校改善プランを見直し、計画した具体的な取組を着実に実行し、学力向上の具体的な成果が見えるようにする。

◇ 市町村（学校組合）教育委員会では

・管内の状況を把握するとともに、明らかになった課題を解決するために、各学校の状況に応じた適切な支援を行っていく。

・調査結果の情報を可能な範囲で、適切な方法で保護者、地域に情報提供し、地域の教育的な風土を醸成する。

◇ 県教育委員会では

・高知県全体の状況を把握し、県全体の課題を全国的な傾向との比較や経年比較など多面的に分析したり、改善された内容の要因を分析したりするなど、的確な情報提供を行い、施策にも反映する。

９　地域との連携に関する内容

（１）調査結果

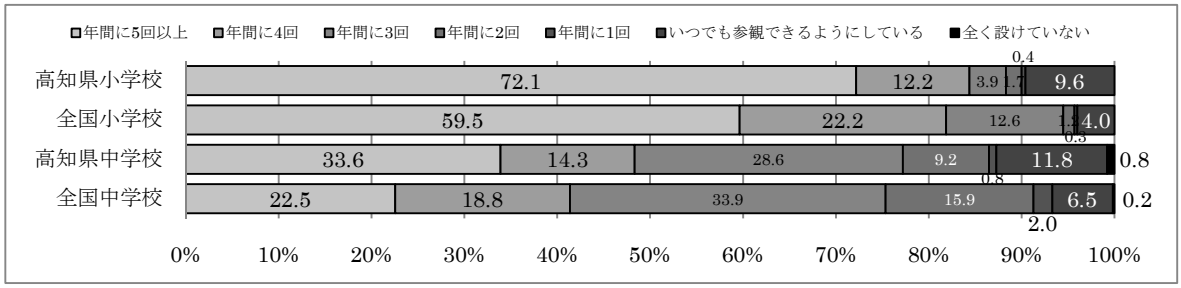
①　授業参観や地域への公開と情報発信

□　前年度の授業参観の回数について、小学校は４回以上が８４．３％で、全国より２．６ポイント上回り、中学校３回以上が７６．５％で、全国より１．３ポイント上回っている。
５回以上の小学校は７２．１％で全国より１２．６ポイント上回り、中学校は３３．６％で全国より１１．１ポイント上回っている。
「いつでも参観できるようにしている」小学校は９．６％で全国より５．６ポイント上回り、中学校は１１．８％で全国より５．３ポイント上回っている。

□　地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けている小学校は７３．８％で全国より８．１ポイント下回り、中学校は６２．２％で全国より１５．０ポイント下回っている。
本県の１９年度以降小・中学校とも増加している。

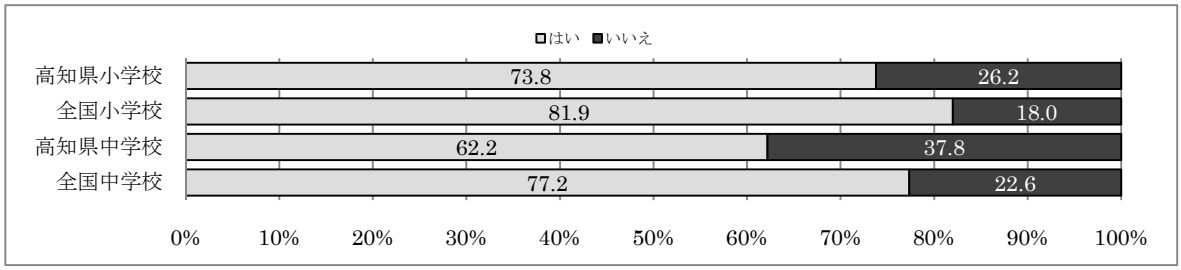
□　第６学年（小）・第３学年（中）を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか

［学校質問紙調査　（小）質問８５　（中）質問８２］

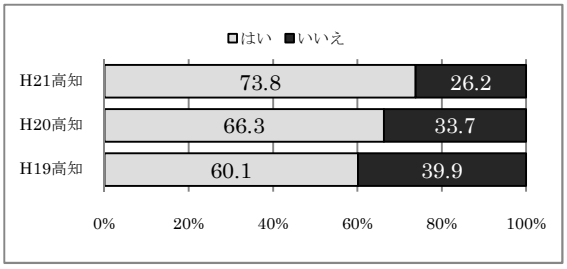


□　地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか

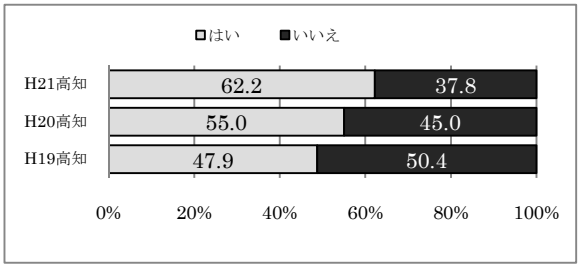
［学校質問紙調査　（小）質問８８　（中）質問８５］



（平成１９年度～平成２１年度の経年比較）【小学校】



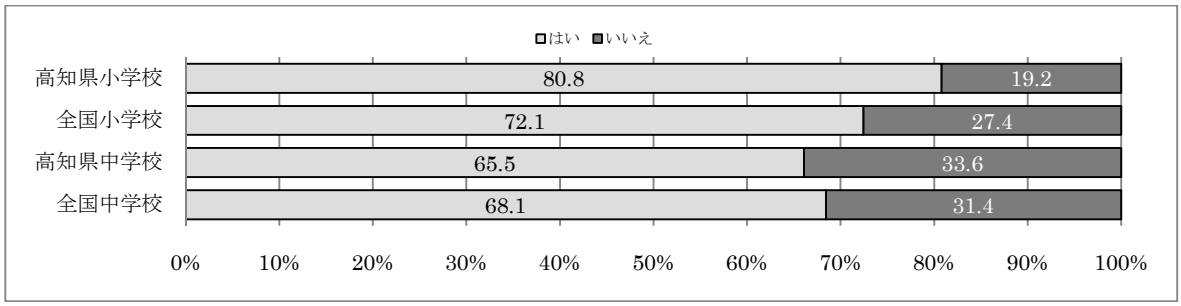
【中学校】



□　学力調査の結果を公表や説明を行った小学校は、８０．８%で、全国より８．７ポイント多く、中学校は、６５．５%で全国より２．６ポイント少ない。

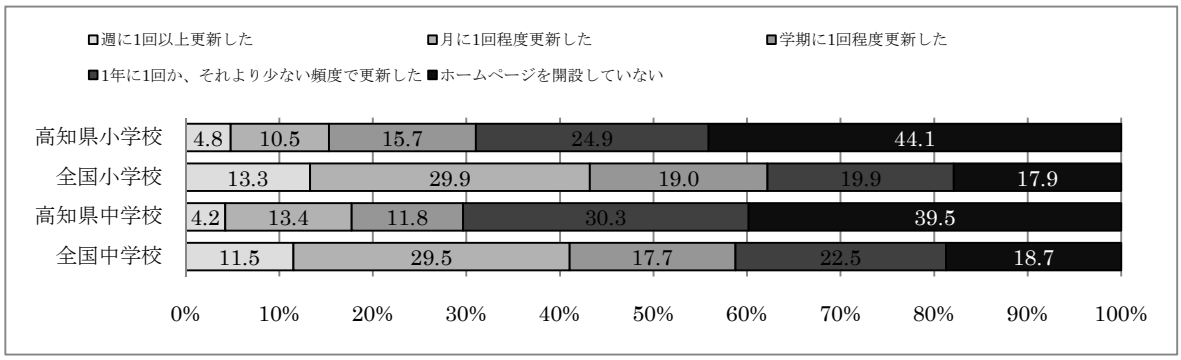
□　学校の教育活動の情報について、ホームページを更新しながら情報提供を行った小・中学校の割合は全国に比べて極端に少ない。ホームページを開設している学校が全国に比べて極端に少ない。

□　平成２０年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか　　［学校質問紙調査　（小）質問４９　（中）質問４９］



□　学校の教育活動の情報について、前年度にどれくらいの頻度でホームページを更新し、情報提供を行いましたか

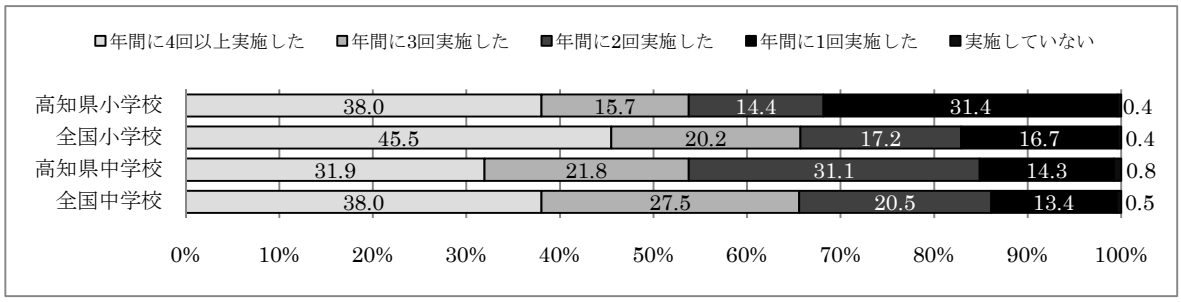
［学校質問紙調査　（小）質問８６　（中）質問８４］



②　保護者の意見や要望

□　保護者から意見や要望を聞くため、懇談会の開催やアンケート調査を年間に２回以上実施した小学校は６８．１%で、全国より１４．８ポイント下回っており、中学校は８４．８%で全国とほぼ同じである。４回以上実施した小学校は３８．０%で全国より７．５ポイント下回り、中学校は３１．９%で全国より６．１ポイント下回っている。

□　保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどのくらい実施しましたか　　［学校質問紙調査（小）質問８７　（中）質問８４］



③　地域の人材の活用

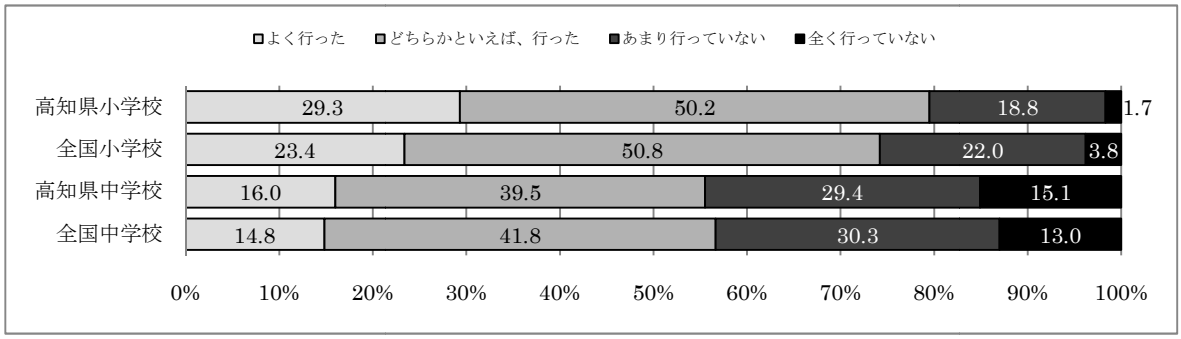
□　地域の人材を活用した授業を行ったに対する肯定群の小学校は７９．５％で、全国より５．３ポイント上回っており、中学校は５５．５％で、全国とほぼ同じである。

□　ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれるに対する肯定群の小学校は９６．５％、中学校は９１．６％で全国とほぼ同じであるが、「よく参加してくれる」中学校は４２．０％で全国より４．４ポイント下回っている。

□　学校支援ボランティアの仕組みがない小学校は２６．６％で全国より４．４ポイント上回り、中学校は３８．７％で、全国とほぼ同じである。

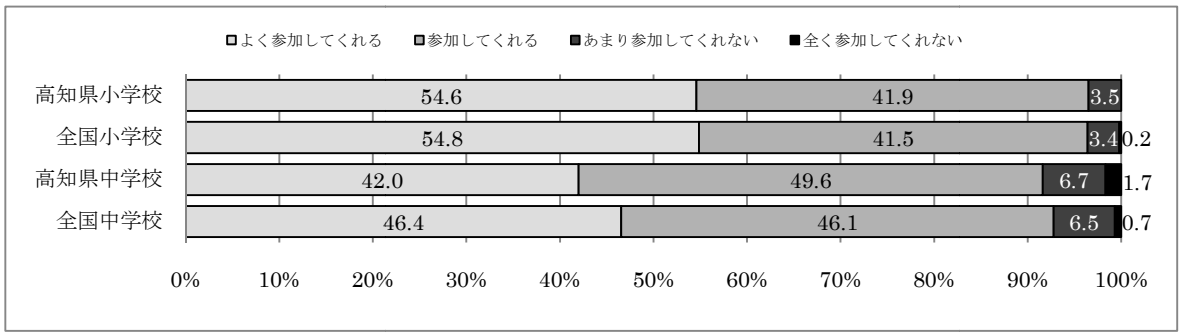
□　ＰＴＡや地域の人がボランティアとして参加してくれる学校や学校支援ボランティアの仕組みのある学校においては参加してくれる学校の方に正答率が高い傾向が見られる。

□　地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか　［学校質問紙調査（小）質問６９　（中）質問６７］

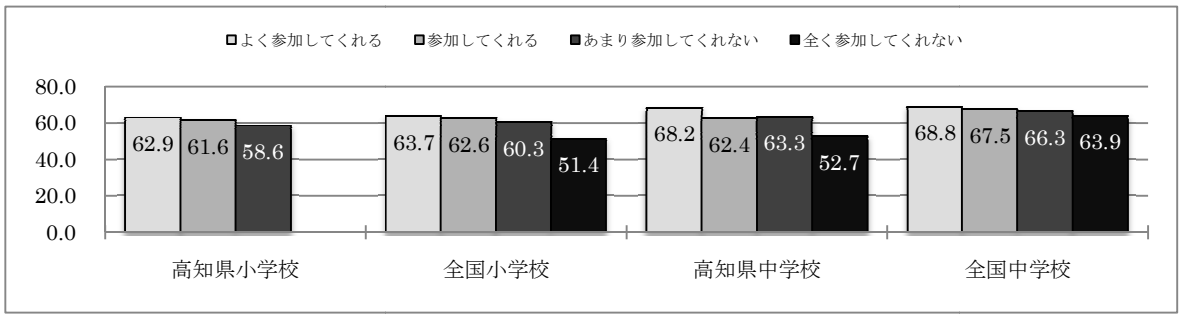


□　ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

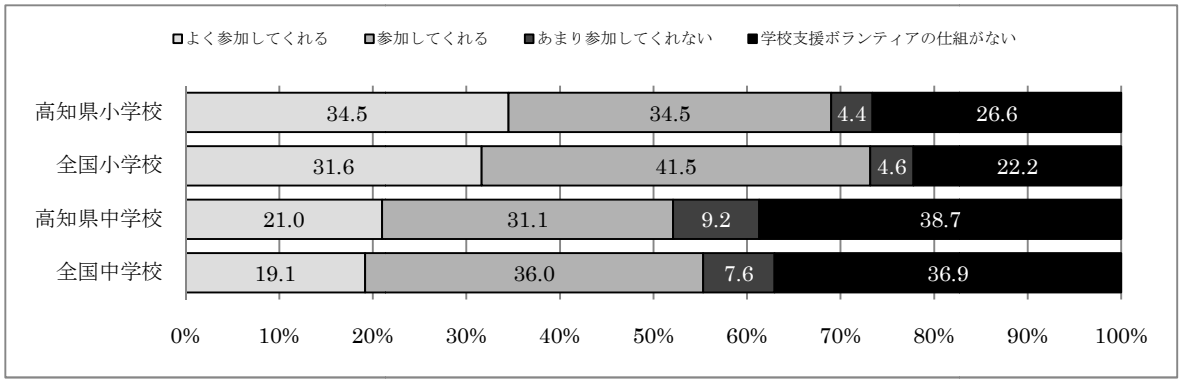
［学校質問紙調査（小）質問７３　（中）質問７１］



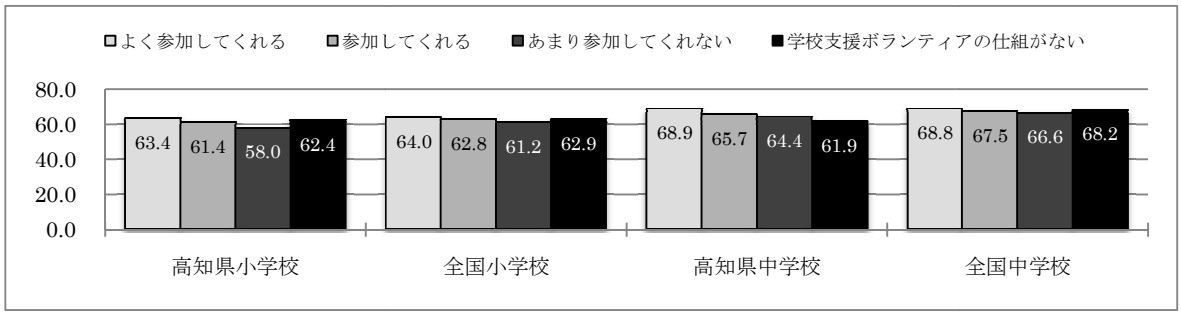
（平均正答率との関係）



□　学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか　　［学校質問紙調査（小）質問７４　（中）質問７２］



＜平均正答率との相関関係＞



（２）調査結果の考察

①　成果

・従来の保護者向けの参観日だけでなく、地域への学校公開など、学校を地域、保護者へ開くことが日常化してきている。

・小学校では学力調査の自校の結果の公開なども積極的に実施している学校が多い。

学力調査 P.126

②　課題

◇　小・中学校

・保護者からの意見や要望を聞くための懇談会やアンケート調査を実施している学校の割合は多いが、回数として全国に比べ少なく、より多くの機会をもてるようにすることが大切である。

・平成１９年度に比べ、地域の人への学校公開も多くなってきているが、全国と比べると少ない。

・情報伝達の手段として、ホームページの開設や更新回数の割合も少ない。

ＩＣＴ　P.102

（３）今後の取組

◇　学校では

・地域の中の学校として学校経営に地域との連携を位置付け、保護者だけではなく地域の人

も含めた学校公開日を設けるなど、地域が学校にかかわることができる機会を意図的に設定する。

・保護者、地域への情報発信の方法や回数などを検討し、地域の実情に応じた情報の共有の方法を工夫する。

・学校の行事などを通して、保護者や地域の人との交流をもち、互いに協力し合える関係をつくる。

◇　家庭・地域では

・子どもや学校からの情報に関心をもち、授業公開日や学校の行事などに参加することを通して、学校の教職員との交流をもち、学校運営についての理解を深める。

◇　教育委員会では

・学校と家庭・地域が協力して教育活動を進めていく体制づくりを支援する。

１０　特別支援教育に関する内容

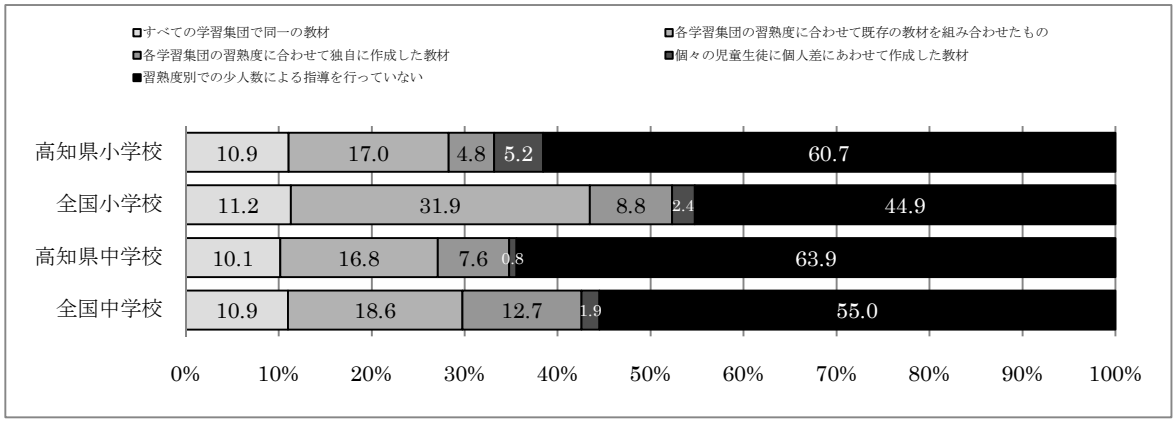
（１）調査結果

①　個に応じた指導における教材の工夫

○　算数・数学の授業において習熟別の少人数による指導を行うにあたって、個々の児童・生徒に個人差に合わせて作成した教材を用いた学校の割合は、小学校は５．２％で、全国に比べて２．８ポイント上回り、中学校は０．８％で全国に比べて１．１ポイント下回っている。

○　各学習集団の習熟度に応じて独自に作成した教材を用いた学校の割合は、小学校は４．８％で全国に比べて４ポイント下回り、中学校は７．６％で全国に比べて５．１ポイント下回っている。

□　算数・数学の授業において、習熟度別の少人数による指導を行うにあたって、主にどのような教材を用いましたか　　［学校質問紙調査　（小）質問５３　（中）質問５３］

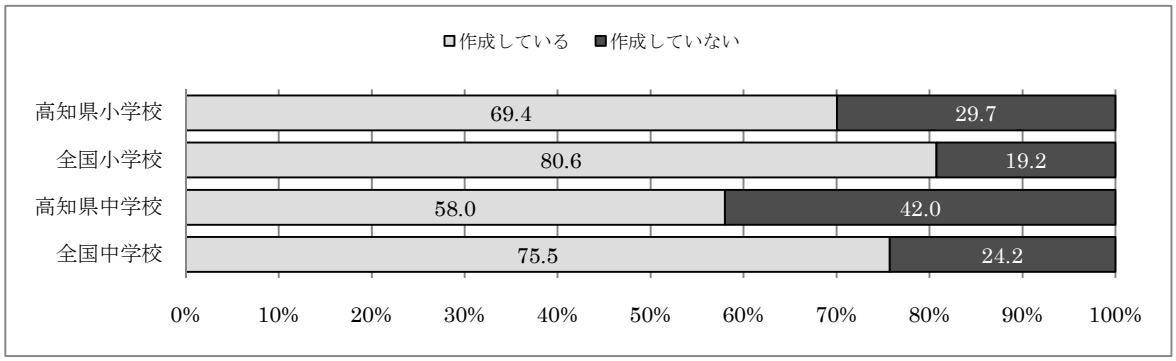


②「個別の指導計画」の作成

○　小学校は、発達障害を含む障害のある児童に対して「個別の指導計画」を作成している学校の割合は６９．４％で全国に比べて１１．２ポイント下回っている。

○　中学校は、発達障害を含む障害のある生徒に対して「個別の指導計画」を作成している学校の割合は５８．０％で全国に比べて１７．５ポイント下回っている。

□　あなたの学校では、発達障害を含む障害のある児童・生徒に対して「個別の指導計画」を作成していますか　　［学校質問紙調査　（小）質問６８　（中）質問６６］



（２）調査結果の考察

①　成果

・小学校では個人差に応じた教材を作成する学校の割合が全国に比べて上回っており、発達障害等の特性や効果的な指導方法に関する研修や教育相談を活用している成果が、個に応じた効果的な教材作成に現れていると考えられる。

②　課題

◇　学校

・習熟の遅いグループに対する少人数による指導を行っている小学校の割合は、本県の平成２０年度に比べ増加しているが、全国の割合に比べると下回っている。中学校においては、本県の平成２０年度に比べ減少している。

授業 P.113

・調査対象学年に対して習熟が遅いグループに対する少人数指導を実施していない学校の割合は、全国に比べ、小学校第４学年時は１７．９ポイント、第５学年時は１６．０ポイント上回り、中学校第１学年時は１１．６ポイント、第２学年時は８．１ポイント上回っている。学年が下がるにつれ、実施している学校の割合が低く、全国との差も大きい。
習熟の遅いグループに対する指導について、学校内の体制づくりが十分ではないことがうかがわれる。

授業 P.113

・発達障害を含む障害のある児童・生徒に対する「個別の指導計画」の作成率が全国に比べて低い。

（３）今後の取組

◇　学校では

・個に応じた指導形態や教材の作成と活用をすすめ、その学習効果を検証しつつ各学校の教育実践の成果として蓄積する。

・児童生徒の学び方の特性に着目し、効果的な指導方法について特別支援教育の観点からも取り組む。

・個に応じた指導の充実を図るため、積極的な巡回相談の活用や「個別の指導計画」の作成をすすめる。

・学年が早い段階から、児童生徒の学習内容の習得状況を把握して、個に応じた指導を実施し、習得できていない内容を積み残していかないように早めの対策をとる。

・家庭学習における学習方法を保護者と情報交換し、共通理解のもとで、個に応じた学習について家庭への理解と協力を求める。

・学習につまずきがみられる児童生徒に対する個に応じた指導ができるよう、組織的な体制づくりをすすめる。

◇　市町村（学校組合）教育委員会では

・各地域における特別支援教育地域コーディネーターや特別支援学校のセンター的機能を活用した組織的な取組を構築する。

◇　県教育委員会では

・特別支援教育の観点で取り組んだ指導実践の成果・課題や調査結果等を分析し、客観的な根拠に基づいた情報を学校現場へ積極的に発信する。

・各学校における特別支援教育の組織的な取組を支援するために、特別支援教育学校コーディネーター等への研修を充実させる。